郷クボタ遺跡2

2014

石川県野々市市教育委員会

郷（ごう）クボタ遺跡2

2014

石川県野々市市教育委員会

A区　西側全景（上空から）

A区　東側全景（上空から）

B区　全景（上空から）

C区　全景（上空から）

D区　北側全景（上空から）

D区　南側・F区　全景（上空から）

E区　全景（上空から）

郷クボタ遺跡　遠景（南西から）

例　言

1　本書は、郷クボタ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　遺跡の所在地は、石川県野々市市郷町地内である。
3　調査原因は、野々市市北西部土地区画整理事業にともなうものである。
4　調査は、野々市市北西部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
5　調査にかかる費用は、野々市市北西部土地区画整理組合と野々市市が負担した。
6　現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。

平成18年度　第2次
　期　間　　平成18年10月2日～平成19年1月12日
　面　積　　2,249㎡
　担当者　　徳野裕子　野々市町教育委員会文化振興課職員
平成19年度　第3次
　期　間　　平成19年8月21日～平成19年9月26日
　面　積　　662㎡
　担当者　　横山貴広　野々市町教育委員会文化振興課職員
平成20年度　第5次
　期　間　　平成20年9月16日～平成21年2月5日
　面　積　　2,132㎡
　担当者　　横山貴広
平成23年度　第8次
　期　間　　平成23年11月15日～平成23年12月21日
　面　積　　452㎡
　担当者　　徳野裕子

7　報告書の刊行は平成25年度に野々市市教育委員会文化振興課が実施した。担当及び執筆・編集は田村昌宏（野々市市教育委員会文化振興課職員）、執筆・編集補助を多間聖（野々市市教育委員会文化振興課職員）、編集補助・遺物写真撮影・レイアウトは菊地由里子（野々市市教育委員会臨時職員）が行った。
8　本書についての凡例は以下のとおりである。
(1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
(2) 水平基準は海抜高であり、T．P．（東京湾平均海面標高）による。
(3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
(4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
(5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財団法人　日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に拠った。
(6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。
　掘立柱建物・布掘建物：ＳＢ　　溝：ＳＤ　　竪穴建物、竪穴状遺構：ＳＩ
　土坑：ＳＫ　　小穴：Ｐ　　性格不明遺構：ＳＸ
9　調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

目　次

第１章　調査の経過 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　発掘作業の経過 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
第１節　地理的環境 …… 4
第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　調査の方法と成果 …… 8
第１節　調査区の設定 …… 8
第２節　調査の方法 …… 8
第３節　層序 …… 8
第４節　遺構 …… 9
第５節　遺物 …… 121

第４章　総括 …… 153

遺物観察表 …… 155

写真図版

第1章　調査の経過

第1節　調査に至る経緯

本書収録の郷クボタ遺跡が所在する野々市市北西部地域は、整然とした水田が広がる農業振興地域であった。しかし、近年における周辺地域の都市化に伴い、本地域も住生活環境の変化が必要となり宅地化の促進が図られることになった。そこで、平成11年に野々市町北西部土地区画整理事業が施行されることが決定した。

北西部土地区画整理施行区域65.4ha内には、埋蔵文化財の存在する可能性があり、詳細な確認調査を行う必要が生じた。そこで、平成11年8月25日付で野々市町産業建設部長から野々市町教育委員会教育長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼が出され、同年8月31日付けで同区域での分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、北西部土地区画整理施行区域内に試掘坑352箇所を設定し、宅地化など掘削作業できない箇所を除いた337箇所を、同年9月27日～10月19日にかけて試掘調査を実施した。その結果、以前より存在が確認されていた二日市イシバチ遺跡の南側の範囲が確定したほか、新たに、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡を発見した。

この結果から、野々市町北西部土地区画整理組合、野々市町都市計画課、野々市町教育委員会と協議を重ね、埋蔵文化財包蔵地のうち、道路等恒久化する工事箇所と、民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所については、発掘調査を行うことで合意した。平成12年4月13日付けで、野々市町と野々市町北西部土地区画整理組合との間で野々市町北西部土地区画整理事業地区内埋蔵文化財に関する協定書が交わされた。

二日市イシバチ遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡に関する文化財保護法第57条の3に基づく届出については、北西部土地区画整理組合から文化庁長官宛に提出されたものを、平成12年3月29日付けで野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会教育長宛に進達した。これを受けて、同年3月30日付けで石川県教育委員会教育長から野々市町教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘調査の届出に関する通知がなされた。

以上の手続きを終えて、平成13年度より上記5遺跡の発掘調査が開始された。

第2節　発掘作業の経緯

第2次（平成18年度調査）

第2次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事、及び民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所に伴う箇所の調査である。

平成18年4月3日、野々市町北西部土地区画整理組合（当時　以下、北西部組合と呼称する。）から野々市町（当時）に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。野々市町教育委員会は、同年9月26日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、本格的な調査に取り掛かった。
発掘調査は10月2日より始め、翌平成19年1月12日に完了した。

第3次（平成19年度調査）

第3次発掘調査は、土地区画整理地区内を流水する郷用水の河川水路工事事業に伴う仮設水路の設置を調査原因とする。

野々市町教育委員会は、平成19年8月10日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、調査に取り掛かった。

発掘調査は8月21日より開始し、9月26日に完了した。

第5次（平成20年度調査）

第5次発掘調査は、土地区画整理地区内の民有地内で、十分な遺跡の保護層が確保できない箇所での調査である。

平成20年4月1日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同

日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。野々市町教育委員会は、同月同日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、調査の準備に取り掛かった。

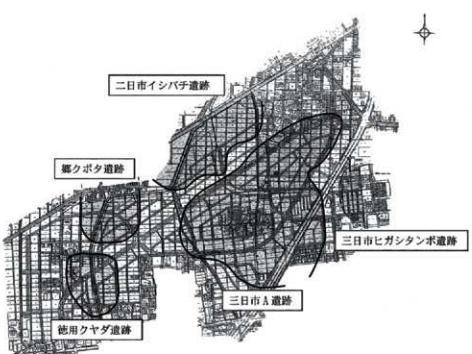
発掘調査は9月16日より始め、翌平成21年2月5日に完了した。

第8次調査（平成23年度調査）

第8次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事に伴う調査である。

平成23年11月11日、北西部組合から野々市市に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月15日、野々市市は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市市と北西部組合との間で委託契約を締結した。野々市町教育委員会は、平成23年11月25日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、本格的に調査に取り掛かった。

発掘調査は11月25日より開始し、12月21日に完了した。



第1図　北西部土地区画整理事業地区遺跡位置図

第２図　調査区位置図

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約 6.7 km、東西 4.5 km で、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は霊峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇央部と扇端部の狭間に位置する。本市で最も高い標高地は 50 m、最も低い地点は 10 mで、なだらかな緩斜面となる地勢をみせている。

現在の野々市市は平坦な地形が広がっているが、従前は手取川から派生する多くの小河川によって形成された微高地と微低地が混在する地形であった。野々市で人々の生活が認められるのは縄文時代後期前半からで、集落の拠点は標高の高い微高地であった。この時代は扇状地の大部分が未開の原野で、ススキや低木が生い茂る荒地であったようである。その後、稲作の伝わる弥生時代から石川平野の中で水田耕作が営まれるようになり、土地の開墾が始まっていった。古代以降、農耕具の発達などにより凸凹の多い土地は次々と開発されていき、未開発地は耕作地として生まれ変わっていった。明治時代以降は、田区改正による耕地整理が各地で急速に広がり、市内全域は起伏のない平坦な地形へと移り変わり、水田区画は碁盤目のように整然となった。このような、大きく広がった田園風景は昭和 30 年代ころまで見られた。

第３図　野々市市位置図

しかし、昭和 40 年代の高度経済成長期以降は、県庁所在地金沢市の隣接地という地理的条件から、住宅地や商業施設の建設などが著しくなり、急速に水田風景は失われていった。特に、北部の御経塚地区や南部の三納・粟田・新庄地区は区画整理事業が進み、住宅地として生まれ変わっていった。今回、発掘調査箇所となる市域北西部地区も区画整理事業の一貫として行われており、周辺地は大きな変貌を遂げてきている。また、市内の東部には金沢工業大学、南部には石川県立大学といった教育機関が置かれ、野々市市は、若者が多く集う学園都市としての性格も持ち合わせている。

今回の発掘調査地である郷クボタ遺跡は、標高約 17 mで、手取川から派生する小河川によって形成された微高地上に立地する。ただし、市域上流部と比較して、大きな川原石の堆積は少なく、微低地との高低差も大差ないことから、当時の生活拠点の場としては、適した地であったと思われる。

第２節　歴史的環境

郷クボタ遺跡周辺に点在する遺跡を、時代別に概観する。

縄文時代

本遺跡より北東方約 1.5 km 離れたところには国指定史跡となっている 6 御経塚遺跡が所在する。御経塚遺跡は、縄文時代後期中葉～弥生時代初頭にかけて営まれた地域における拠点集落である。当遺跡で発見された御経塚式土器は縄文時代晩期前半の基準資料となる。御経塚遺跡の近隣には、縄文時代後期後半～晩期後半の 1 チカモリ遺跡や縄文時代後期後半～晩期後半の 2 中屋サワ遺跡といった集落遺跡が点在し、御経塚遺跡の拠点集落を中心に展開した出村的な集落であったようである。これらの遺跡は標高 6 ～ 10 mに立地し、扇状地を伏流する地下水の湧水域であった。また、当時の生活に必要な落葉広葉樹と照葉樹が混在する豊かな林野が大きく広がっていた場所でもあったことから、この地帯は当時の人々にとって生活環境に最適な場であったようである。

本遺跡より南東約 2 km のところには、縄文時代晩期の 17 長竹遺跡がある。長竹遺跡は縄文晩期後半の基準資料となる土器が出土した遺跡で、水田稲作農耕が西日本に波及した極めて重要な時期である。なお、12 三日市Ａ遺跡及び御経塚遺跡からは、当該時期の稲籾の圧痕のついた土器が出土している。

弥生時代

手取川扇状地一帯における弥生時代の遺跡分布を見ると、前期～中期にかけては極めて少なく、後期に数多く存在する。御経塚遺跡（ツカダ地区）、15乾遺跡からは、柴山出村式と呼ばれる弥生時代前期の土器が確認されているが、この時期は弥生文化の波及が十分ではなく、まだ縄文文化の影響が強く残っていたようである。

弥生時代後期になると、鉄器の普及などを要因とする生産力の向上から人口が増え、それに伴い手取川扇状地一帯にも集落が展開するようになる。本遺跡をはじめ、周辺にある5御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡、7長池ニシタンボ遺跡、9二日市イシバチ遺跡、三日市A遺跡、13三日市ヒガシタンボ遺跡、14徳丸ジョウジャダ遺跡などからは、竪穴建物や掘立柱建物などで構成される集落跡が見つかっている。これは、農耕社会が急速に広がったことから、安定した農耕地の確保が必要となったため、広範にわたってムラが形成していったと考えられる。

古墳時代

古墳時代前半については、本遺跡で、弥生時代後期からの流れを汲む集落跡を確認することができるが、扇状地上での集落数は激減し、一旦収束傾向となる。ただし、本遺跡より北方1km にある御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群では、弥生集落廃絶後に15基の前方後方墳、方墳からなる大古墳群を造立している。また、本遺跡に隣接する二日市イシバチ遺跡の一角からも、一辺約18mの規模を中心とした大小の方墳7基を確認しており、各地域を治める首長層の存在を伺い知ることができる。

古墳時代後半になると、本遺跡から南方約4km の市上流域の扇状地扇央部で末松古墳や上林古墳など後期古墳が築かれるようになる。これは河川上流域における開発が広がり始めていったことを意味する。

古代

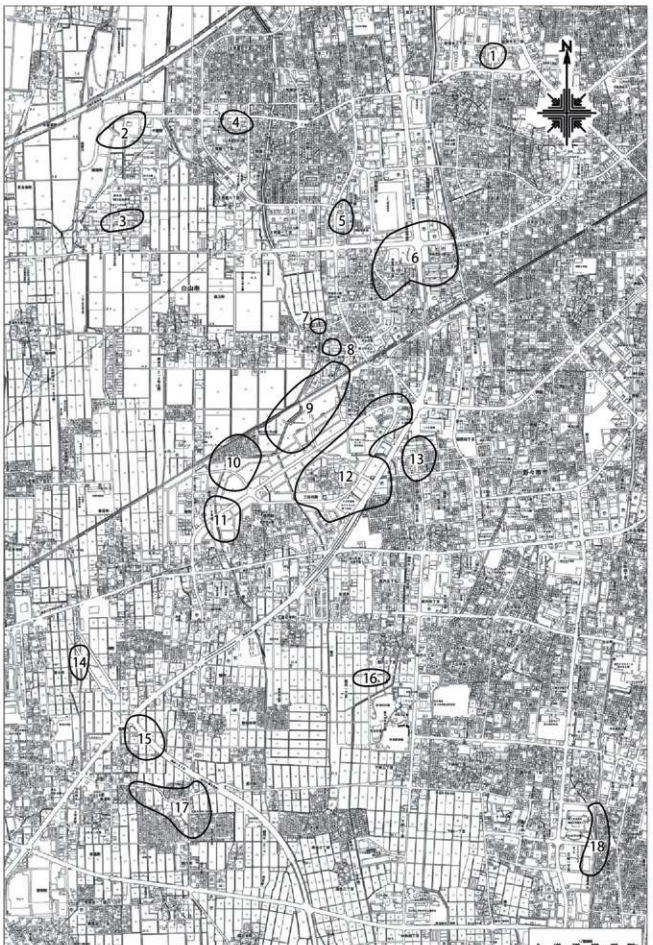
7世紀後半には、手取川扇状地扇央部に、県内最古の古代寺院である末松廃寺が建立される。末松廃寺は、東に塔、西に金堂が置かれた法起寺式の伽藍配置をもち、この寺院建立以降、市内南部地域を含む手取川扇状地扇央部一帯で耕作地開発が急速に進み、特に8世紀後半以降は18三納アラミヤ遺跡をはじめとする周辺各地に集落が増大していく。扇状地扇端部には、初期荘園の遺跡である3横江荘々家跡、4上荒屋遺跡が所在する。また、三日市A遺跡からは、9世紀頃に成立した古代の官道である北陸道の跡が見つかり、上記荘園遺跡との関係が指摘されている。

中世

11世紀後半～12世紀頃から、在地領主層の武士団の形成が図られるようになった。地元武士団である林氏や富樫氏は、手取川扇状地での新開発や再開発に大きな影響を与えた。ただし、市内において現在のところ中世前半にかけての遺跡はあまり多く確認されていない。中世の遺跡が多く認められるようになるのは、富樫氏が加賀国の守護職に任じられ、野市に守護所を置く14世紀頃からである。本遺跡をはじめ、近隣の三日市A遺跡や郷クボタ遺跡、中屋サワ遺跡では、溝で囲まれた中に建物などが配置される散居村のような景観が広がる集落が認められる。また、本遺跡南東方1.5km にある16堀内館跡では、幅1.5m、深さ1mほどの大きな堀で囲まれた屋敷地の跡も確認されている。15世紀以降になると、三日市A遺跡、8長池キタノハシ遺跡、11徳用クヤダ遺跡では、掘立柱建物、竪穴状遺構などの主要遺構が密集した村落形態を示し、14世紀頃までみられた散村から集村へと大きく変わる様相となる。

近世

現在見ることのできる集落は、近世に成立したと考えられる。御経塚集落内（御経塚遺跡デト地区）や郷町集落（徳用クヤダ遺跡）隣接地での発掘調査でも、近世の遺構・遺物を発見している。また、乾遺跡や、三日市A遺跡からは、近世前半の墓地跡を確認している。



第４図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1 /20000）

第1表　野々市市と周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	種　別	時　代
1	チカモリ遺跡	集落跡	縄文
2	中屋サワ遺跡	集落跡	縄文～中世
3	横江荘々家跡	荘園	古代
4	上荒屋遺跡	集落跡　荘園跡	縄文～中世
5	御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群	集落跡　古墳	弥生～中世
6	御経塚遺跡	集落跡	縄文～中世
7	長池ニシタンボ遺跡	集落跡	弥生
8	長池キタノハシ遺跡	集落跡	中世
9	二日市イシバチ遺跡	集落跡	縄文　弥生　中世
10	郷クボタ遺跡	集落跡	弥生　古代　中世
11	徳用クヤダ遺跡	集落跡	古代　中世
12	三日市A遺跡	集落跡	弥生　古代　中世
13	三日市ヒガシタンボ遺跡	集落跡	弥生　古代　中世
14	徳丸ジョウジャダ遺跡	集落跡	弥生　古代
15	乾遺跡	墓地・集落跡	縄文～近世
16	堀内館跡	館跡	中世
17	長竹遺跡	墓地・散布地	縄文～古墳
18	三納アラミヤ遺跡	集落跡	古代　中世

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査区の設定

本調査区は、平成18～20・23年度と年を跨いで発掘調査を実施している。また、調査区域内には既設農業用道路や耕作地や排水用の生活用水が縦断している。これらの箇所については、発掘調査の対象から外したことから、調査区域内に小区画が設定されることとなった。本報告では、小区画毎にアルファベットＡ～Ｆの区名を設けて、その呼称を使用して遺跡の概要を紹介する。

第２節　調査の方法

現地調査は、大型掘削機による表土の除去作業からはじめた。重機による掘削は、遺構面直上までとした。重機掘削完了後、人力による作業を実施した。人力による作業は、鋤簾鍬などの道具で遺構面の検出を行い、その後、移植ゴテなどで遺構を掘削していく。遺構検出及び遺構掘削の作業の中で、遺跡の様相を把握するため、写真撮影や、遺構平面図・断面図などの作成を同時に行っていった。記録を完了した遺構については、順次完掘していった。調査区内の遺構完掘後は、清掃作業を行ってから、空中写真測量及び完掘状態の個別遺構の写真を撮影して調査を完了していった。

整理作業については、野々市市ふるさと歴史館内にある調査整理室で実施した。作業手順は、出土した遺物を水で洗浄し乾燥させ、乾燥した遺物に遺跡名や出土した地点などを注記した。注記後、一部の遺物を実測し、この遺物実測図や現地で表記した遺構実測図を製図トレースした。

これらの作業完了後、遺物の写真を撮影し、調査担当者が原稿執筆、図面・写真のレイアウト等を行い、報告書を刊行した。

第３節　層序

層序については、第５図の土層断面図を基に説明していく。

１の灰色粘質土は土地区画整理事業以前まで行われていた水田耕作土である。２の橙灰色粘質土は、これら耕作土の整地層にあたる。３の暗灰色粘質土は、近世から近代までの水田耕作土と考えられる。その下の４暗灰褐色粘質土は古代以前の遺物包含層にあたり、中世の遺構面にも相当すると思われる。その下にある５黄褐色粘質土は、古代より遡る時期の遺構面で、地山面となる。上記の土層は基本土層である。場所によっては、３暗灰色粘質土の中に間層が入り、水田耕作と考えられる土層が複数確認できる箇所がある。また、Ｄ区の中央部には、弥生時代以前の河川が走っていたことがわかっており、地山土は大きく変質する。

第５図　土層断面模式図

第4節　遺構

本調査では、竪穴建物跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、布掘建物跡、土坑、溝、欄列などを確認した。以下、各個別遺構について個別に説明する。

①　竪穴建物　竪穴状遺構

《弥生時代》

ＳＩ１（第６・21図）

Ｂ区中央部よりやや西寄りに位置する竪穴建物である。後述するＳＩ３とは切り合う状況をし、当該竪穴建物がＳＩ３に比べて古い。本竪穴建物は、ＳＩ３や古代掘立柱建物ＳＢ15との切り合い、かつ、検出面から竪穴床面までが最深部で10cm余りと極めて浅く、南側では竪穴掘り方を検出することはできなかったため、プランを特定することは難しいが、柱穴が５基認められることから五角形と推測する。竪穴の規模は、南北が推定4.8m、東西が5.5mで、北東隅には幅約15cm、深さ床面から5cm程度の周溝が存在する。床面上には硬化面を確認することはできなかった。柱穴は前述のとおり５基（第21図ア～オ）認められる。北西隅の柱穴オはＳＩ３に切られているため、基底部のみの検出である。柱穴のプランは略円形及び略方形で、一辺30～50cm、深さ竪穴床面から22～28cmを測る。また、竪穴中央部にもピット１基（第21図カ）を検出している。略円形をしており、直径約45cm、深さ床面から約20cmを測る。

ＳＩ２（第７・22・23図）

Ｄ区北西部に位置する竪穴建物である。前述したＳＩ１と同様、検出面から竪穴床面までが最深部で10cm余りと極めて浅く、北東側では竪穴掘り方を検出することができなかった。プランについては特定するまでには至らないが、六角形か八角形と推測する。竪穴の規模は、南北が推定8.0m、東西が約8.0mで、竪穴外周の東側の一部と西側には幅25～30cm、深さ床面から10cm前後の周溝が巡る。床面上では硬化面を確認することはできなかった。竪穴内には複数の穴が掘り込まれており、どの箇所が柱穴にあたるか定まりにくいが、穴の位置や深さ等から９基を柱穴とした。（第22図ア～ケ）柱穴のプランは略円形を基本とするが、エとケは、別の穴が近接しているためか、形状は不定形である。エとケ以外の柱穴の規模は直径40～70cm、深さは竪穴床面から27～37cmを測る。エとケは長径70～100cm、深さはエが38cm、ケが63cmである。また、竪穴中央部にはピット１基を検出している。（第22図コ）略円形をしており、直径約75cm、深さ床面から約40cmを測る。

ＳＩ３（第６・21図）

Ｂ区中央部よりやや西寄りに位置する竪穴建物で、先述のＳＩ１と切り合っており、本竪穴がＳＩ１に比べて新しい。プランは北東－南西が長い隅丸長方形をしている。規模は北西－南東方向で約2.0m、北東－南西方向で約2.5m、深さは30cm前後である。床面は硬化されていない。内部には円形・不定形な穴が存在するが、柱穴になるようなものはない。南西側壁際は土坑状の穴が１基掘られている。長径78cm、短径58cm、床面からの深さ約40cmを測る。方位はＮ35°Ｅである。

《中世》

ＳＩ４（第６・24図）

Ａ区南西隅に位置する竪穴状遺構である。後述のＳＢ18・19と接しているが、各遺構の位置関係や方位などから同時期には併存しないと思われる。遺構の形状は、北東－南西に長い隅丸長方形であるが、北側は突起状に突き出していることで、不定形に見える。複数の遺構が切り合っていたかもしれない。規模は北東－南西が約4.3m、北西－南東で約2.2m、深さは35～60cmである。覆土は複数の土がレンズ状に堆積する。灰色系の粘質土が主体である。方位はＮ17°Ｅである。

ＳＩ５（第８・24図）

Ｅ区西端に位置する竪穴状遺構である。後述するＳＢ36～39の南隣に位置する。遺構は、南北に長い長方形プランと思われるが、他の土坑状遺構やピット状遺構が切り合っているため、原型の詳細

な様相はよくわからない。規模は、計測可能な箇所で、南北約2.1m、東西約1.3m、深さは15cm前後である。他の遺構の規模を併せると、南北約2.6m、東西約1.9mとなる。覆土は黄色ブロック土混じり褐灰色粘質土を主体に自然堆積している。方位はN15°Eである。

ＳＩ6（第8・25図）

E区西側に位置する竪穴状遺構である。後述する掘立柱建物ＳＢ37～39内に接している。遺構は方形プランであるが、土層断面の観察から2回の建替えが認められ、その影響で不定形な形状をしている。規模は南北が約3.05m、東西で約2.5m、深さは25～50cmを測る。覆土は褐灰色粘質土が主体である。柱穴の配置関係などから、ＳＩ37・39とは併設していたかもしれない。また、本遺構からは、炉縁石（397）や銅製錫杖（450）などが廃棄したと思われる状態で出土している。

ＳＩ7（第8・25図）

E区西側に位置する竪穴状遺構である。後述する掘立柱建物ＳＢ38に接しているが、同時併存はしていなかったと思われる。プランは方形と考えられるが、複数のピット状遺構が本遺構内に掘削しているため、詳細な形状は不明である。規模は南北で約2.6m、東西で約2.2m、深さは20cm前後である。覆土は褐灰色粘質土が主体で、レンズ状に堆積している。

ＳＩ8（第8・26図）

E区西側に位置する竪穴状遺構である。また、前述のＳＩ7の北東隣に位置する。形状は南北に長い長方形プランである。規模は、南北が約2.7m、東西が約1.8m、深さは30cm前後である。本遺構の南面から南方向に幅約30cm、深さ約5cmの溝が走っている。北面では見つかっていないため、本遺構に対する排水溝にあたるかもしれない。覆土は褐灰色粘質土が主体で、複数の土がレンズ状に堆積している。方位はN15°Eを測る。方位と配置関係から、西側に隣接するＳＢ37～39の掘立柱建物と併設した関係にあるかもしれない。

ＳＩ9（第8・26図）

E区東側に位置する竪穴状遺構である。また、後述するＳＢ41～43の掘立柱建物に隣接する。遺構は隅丸方形のプランで、規模は南北に約1.9m、東西に約1.8mとほぼ正方形の形状を呈する。深さは30cm前後である。覆土は灰黄褐色土混じり褐灰色粘質土と黄色ブロック土混じり灰色粘質土の2層が自然堆積した状態で埋まっている。方位はN13°Eである。なお、方位と設置箇所の関係から、西側に隣接するＳＢ41とセット関係になると考えられる。

ＳＩ10（第8・27図）

E区東側に位置する竪穴状遺構である。前述のＳＩ9の東隣に位置し、後述するＳＩ11・12及びＳＤ22とは切り合っている。土層断面から、本遺構はＳＩ11、ＳＤ22よりも新しく、ＳＩ11に比べて古いことが判明している。（ＳＤ22→ＳＩ11→ＳＩ10→ＳＩ11）遺構は南北に長い略長方形プランで、規模は南北が推定約4.8m、東西が約2.8m、深さは35cm前後を測る。覆土は黄色ブロック土混じり褐灰色粘質土の1層であることから、人為的に埋めた可能性がある。方位はN13°Eである。周辺にある掘立柱建物との関係はわからない。

ＳＩ11（第8・27図）

E区東側に位置する竪穴状遺構である。前述のＳＩ10やＳＤ22とは切り合っており、覆土や土層堆積の状況から、本遺構の方が新しいことが分かっている。遺構は隅丸方形プランであるが、南側は調査区外へ延びるため詳細な状況はわからない。規模は南北が1.7m以上、東西が約2.6m、深さは20cm前後を測る。覆土は黒褐色粘質土の1層であることから、人為的に埋めた可能性がある。方位はN13°Eである。周辺に所在する掘立柱建物との関係はわからない。

ＳＩ12（第8・27図）

E区東側に位置する竪穴状遺構である。先述のＳＩ10の東隣に切り合っており、土層断面から本遺

構の方が古いことがわかっている。遺構は南北がやや長い隅丸長方形プランで、規模は南北が約2.0m、東西が約1.6m、深さが約30cmである。覆土は褐灰色粘質土が主体の2層分確認でき、下層の炭化物混じり褐灰色粘質土からは、人頭大の石が大量に入っていた。石は自然石ばかりであったが、被熱を受け炭が付着しているものも定量確認している。方位はN2°Eである。なお、方位と設置箇所の配置関係から、SB43とはセット関係になると考えられる。

SI13（第7・28図）

D区中央部よりやや南側に位置する竪穴状遺構である。先述のSI10～SI12の東方向に位置する。遺構の形状は南北に長い隅丸長方形プランである。西側の一部は調査区外へと延びるため詳細な様相はわからない。規模は、南北が約2.3m、東西が1.5m以上、深さが30cm前後である。方位はN14°Eである。また、設置箇所の配置関係などから、本遺構の南に隣接するSB44とセット関係になると考えられる。

SI14（第7・28図）

D区中央部よりやや南側に位置する竪穴状遺構である。前述のSI13の東側に位置する。遺構の形状は東西に長い隅丸長方形プランであるが、南側にテラス状の遺構が隣接しているため、略円形のようなプランとなる。遺構の規模は南北が約1.8m、東西が約2.8mで、南側のテラス状遺構を含むと、南北は約2.5mを測る。深さは30cm前後で、覆土は灰色系の粘質土が主体の複数の土が自然に堆積している。方位はN20°Eである。西方に所在する掘立柱建物との関係はわからない。ただし、本遺構西面から西方向に走る溝については密接な関係にあると考えられる。この溝は、長さが約3m、幅約30cm、深さ約20cmを測る。

SI15（第7・29図）

D区南端に位置する竪穴状遺構である。前述のSI14の南方向に位置する。本遺構は複数の穴が掘り直されていることと、東側が調査区外へと延びることから、本来のプランを抽出することはできない。規模は、計測可能な箇所で南北が3.0～4.5m、東西が3.7m以上で、深さは26～46cmを測る。覆土は褐灰色及び灰色粘質土が主体の複数の土が錯綜して埋まっている。なお、第29図の土層断面図に示している本竪穴状遺構の西側の土層は旧河道の断面図にあたる。

② 掘立柱建物　布掘建物

《弥生時代》

SB1（第9・30図）

A区北東端に位置する3間×1間の布掘建物であり、弥生時代後期後半の遺構と考えられる。方位はN47°Wで、北東側の柱列には溝状遺構を抽出することはできなかった。古代の掘立柱建物SB11の柱穴がSB1内に入り込んでいるため、後世の遺構により滅失したかもしれない。建物の規模は、桁行が4.2m、梁行が4mとほぼ正方形を呈する。面積は約16.8㎡で、溝の幅は約70cm、深さは約20cm、柱穴の深さは40～45cmである。

SB2（第9・31図）

A区南東端に位置する2間×1間の布掘建物であり、先述のSB1の南方向に位置する。SB1と同じく弥生時代後期後半の遺構と考えられ、方位はW5°Nとほぼ東西方である。建物の規模は桁行が4.3m、梁行が4.2mとほぼ正方形を呈している。面積は約18.06㎡で、溝の幅は50cm前後、深さ20～30cm、柱穴の深さは30～50cmである。

《古代》

SB3（第9・32図）

A区北西端に位置する掘立柱建物であり、古代の遺構と考えられる。建物は南北に長く、N5°Wを測る。SD2によって一部柱穴の確認できない箇所があるが、桁行は5間である、本調査では西側半分が調査区外となるが、平成21年度第7次調査において、西側半分を検出することができ、全体の様

相を確認することができた。建物の規模は、桁行 10.9 m、梁行 6.2 m、面積は約 67.58㎡である。柱穴は一部略円形のものがあるが、ほとんどが方形である。一辺 75 ～ 100 cm、深さは 55 ～ 65 cm である。柱穴内から須恵器片が見つかっている。

ＳＢ４（第９・33 図）

Ａ区西側に位置する掘立柱建物である。ＳＢ３の東方に位置し、後述するＳＢ５・ＳＢ６と南北方向に列をなす配置となっている。建物は３間×１間の南北棟で、一部の柱穴では２基の穴が切り合うよう接している箇所が見受けられるため、同じ箇所で建て替えがあった可能性がある。方位は、Ｎ８°Ｗで、建物の規模は、南北の桁行が 7.4 m、東西の梁行が 5.2 m、面積は 38.48㎡を測る。柱穴は略方形が多く、一辺 60 ～ 80 cm、深さは 25 ～ 55 cm である。

ＳＢ５（第９・34・35 図）

Ａ区西側に位置する南北を桁行とする掘立柱建物であり、先述のＳＢ４の南隣に位置し、一部接する。建物は４間ないし５間×２間で、規模は南北桁行が約 10 m、東西梁行が約 5.2 m、面積は約 52㎡である。方位はＮ８°ＷとＳＢ４と同方向である。規模は、ＳＢ５の方がＳＢ４よりも大きいが、梁行の長さや方位が同じであることから、両建物は同一機能を有したものと考えられる。ただし、前後関係はわからない。柱穴の形状は略方形が多く、一辺 50 ～ 80 cm、深さは 25 ～ 55 cm を測る。

ＳＢ６（第９・36 図）

Ａ区西側に位置する掘立柱建物であり、先述のＳＢ５の南隣に所在し、このＳＢ５とは重なり合う。建物は２間×２間で、規模は南北が長辺で約 5.2 m、東西が短辺で約 4.9 m とほぼ正方形である。面積は約 25.48㎡で、方位はＮ８°ＷとＳＢ４やＳＢ５と同じである。柱穴は楕円形や略方形の形状をして、一辺 50 ～ 90 cm、深さは 30 ～ 35 cm を測る。

ＳＢ７（第９・37 図）

Ａ区西側に位置する掘立柱建物であり、先述のＳＢ６の東方に隣接する。建物は２間×１間の南北棟で、方位はＮ５°Ｗである。建物規模は南北桁行約 8.1 m、東西梁行約 4.1 m、面積は約 33.21㎡である。柱穴は略円形が多く直径 50 ～ 110 cm、深さは 15 ～ 35 cm を測る。

ＳＢ８（第９・38 図）

Ａ区北東側に位置する掘立柱建物であり、先述の弥生期の布掘建物ＳＢ１の西隣に位置する。建物は南北棟で、方位はＮ２°Ｅである。建物北側はＳＤ２に切られていることから全容は不明であるが、プランは３間以上×２間で、計測可能な箇所では、南北桁行 8 m 以上、東西梁行 4.9 m を測る。柱穴の形状は略円形・略方形で、一辺 70 ～ 105 cm、深さ 20 ～ 50 cm である。

ＳＢ９（第９・39 図）

Ａ区中央よりやや東寄りに所在する掘立柱建物であり、先述のＳＢ８の南隣に位置する。建物は３間×１間の南北棟で、Ｎ２°Ｗとほぼ真北に近い方位をとる。柱穴の掘り方は、東側桁行の方が大きいのに対して、西側桁行は極端に小さい。本建物の西方は弥生期に埋まったと思われるＳＤ６・７の溝状遺構が存在し、地山土が基本土質と違うことから、柱穴掘り方を検出することができなかったためかもしれない。柱穴計測は東側桁行の最も大きいものに限定する。形状は略円形で、直径 62 ～ 80 cm、深さは約 35 cm である。建物の規模は南北桁行約 7 m、東西梁行約 4.8 m、面積は約 33.6㎡を測る。

ＳＢ 10（第９・39 図）

Ａ区北東端に位置する掘立柱建物であり、先述の弥生期の布掘建物ＳＢ１の東側に所在する。建物の北側の大半はＳＤ２に切られるとともに調査区外に延びることもあり、全容は不明であるが南北棟と想定する。方位はＮ３°Ｗで、南北桁行１間以上、東西梁行３間、規模は南北桁行３m以上、東西梁行約 5.4 m を測る。柱穴は略方形をしており、一辺 50 ～ 75 cm、深さ 30 ～ 50 cm を測る。

ＳＢ 11（第９・40・41 図）

Ａ区東側に所在する掘立柱建物であり、先述のＳＢ 10 の南隣に位置する。建物は４間×２間の南北棟で、方位はＮ３°Ｗである。建物の規模は南北桁行約 10 .8 m、東西梁行約５m、面積は約 54㎡である。柱穴の形状は、略方形で、一辺 60 ～ 95 cm、深さは 30 ～ 60 cm を測る。

ＳＢ 12（第９・42・43 図）

Ａ区東側に所在する掘立柱建物であり、先述のＳＢ 11 とほぼ位置を同じくする。建物は５間×２間の南北棟で、方位はＮ５°Ｗである。建物の規模は南北桁行約 11 .5 m、東西梁行約 5 .3 m、面積は約 60 .95㎡を測る。柱穴の形状は略円形と略方形で、一辺 35 ～ 85 cm、深さは 30 ～ 60 cm を測る。ＳＢ 11 とは、規模や方位が同じことから、両建物は同一機能をもち、建替えによるものと考えられる。ただし、その前後関係は不明である。

ＳＢ 13（第９・44 図）

Ａ区東端に所在する掘立柱建物であり、Ｂ区にもまたがる。先述のＳＢ 12 の東隣に位置する。建物は、Ａ・Ｂ両区にまたがるため、一部未調査区があることから、柱穴の確認できない箇所がある。全体の規模を計測して、４間×１間の東西棟と想定する。建物の規模は東西桁行約 9 .9 m、南北梁行約 2 .4 m、面積は約 23 .76㎡である。方位はＷ５°Ｓである。柱穴は略方形で、一辺 50 ～ 70 cm、深さは 30 ～ 80 cm を測る。

ＳＢ 14（第９・45 図）

Ａ区東端に所在する掘立柱建物であり、Ｂ区にもまたがる。先述のＳＢ 13 と位置を同じくし、東西棟としての規模や方位も近似していることから、両建物は建替えによるものと推測できるが、その前後関係は不明である。建物の規模は東西桁行約 9 .7 m、南北梁行約 2 .5 m、面積は約 24 .25㎡である。方位はＷ５°Ｓである。柱穴は略円形と略方形で、一辺 55 ～ 65 cm、深さは 30 ～ 55 cm を測る。

ＳＢ 15（第９・46 図）

Ａ区とＢ区をまたがる箇所に位置する掘立柱建物であり、先述のＳＢ 14 の南側に位置する。建物は３間×１間の東西棟で、Ｗ５°Ｓの方位をとる。建物の規模は、東西桁行約 4 .8 m、南北梁行約 4 .4 m、面積は約 21 .12㎡である。柱穴の形状は略方形で、一辺 50 ～ 80 cm、深さは 30 ～ 60 cm を測る。

ＳＢ 16（第９・47・48 図）

Ｂ区中央に所在する掘立柱建物であり、先述のＳＢ 13 ～ＳＢ 15 の東隣に位置する。本報告における古代掘立柱建物の中では最も規模が大きい。建物は７間×２間の南北棟で、柱穴の中には２基の穴が重複しているものが見られることから、改修があったかもしれない。方位はＮ３°Ｗで、建物の規模は南北桁行が約 13 .8 m、東西梁行が約 5 .9 m、面積は約 81 .42㎡である。柱穴は略方形と略円形で、一辺の長さが 40 ～ 60 cm、深さは約 40 cm である。

ＳＢ 17（第９・49 図）

Ｂ区南側に位置する掘立柱建物である。先述のＳＢ 16 の南西側に位置し、後述するＳＢ 27 の東隣に位置する。建物は３間×２間の東西棟で、方位はＷ２°Ｓである。規模は東西桁行が約 7 .5 m、南北梁行が約 4 .8 m、面積は約 36㎡である。柱穴は略方形の形状をしており、一辺の長さは 45 ～ 75 cm、深さは 20 ～ 45 cm を測る。

《中世》

ＳＢ 18（第９・50 図）

Ａ区西端に所在する掘立柱建物であり、先述の古代掘立柱建物ＳＢ４～６の西側に位置する。３間×２間の東西棟で、総柱式である。南面の一角にはＳＩ４が掘り込まれており、柱穴１基を検出することはできなかった。建物の規模は、長辺である東西が約７m、短辺である南北が 4 .9 m である。面積は約 34 .3㎡で、柱穴の大きさは直径 25 ～ 70 cm、深さは 10 ～ 50 cm である。方位はＮ３°Ｅを測る。

ＳＢ19（第９・50図）

A区に位置する、2間×2間の掘立柱建物である。前述のＳＢ18と重複するが、前後関係は不明である。建物の規模は南北が約4.9m、東西が約4.8mとほぼ正方形を呈する。面積は約23.52㎡で、柱穴は略円形をし、直径32～50cm、深さは15～30cmである。南面では一部柱穴を確認することができなかった箇所がある。方位はＮ4°Ｅである。

ＳＢ20（第９・10・51図）

A区南西隅に所在する掘立柱建物であり、南面の一部はＣ区北西隅で確認することができる。先述のＳＢ18・19の南隣に位置する。建物は3間×3間の総柱式で、規模は南北が約7.5m、東西が約7mとやや南北が長い。1間分の長さは南北が約2.6m、東西が約2.3m前後である。面積は52.5㎡で、柱穴は略円形・楕円形をし、直径25～50cm、深さは15～30cmである。方位はＮ4°Ｅである。

ＳＢ21（第９・52図）

A区南西側に位置する掘立柱建物であり、前述のＳＢ20の東隣に位置する。建物は2間×1間の南北に長く、規模は南北が約4.5m、東西が約2.5mである。面積は11.25㎡で、柱穴は25～50cmの略円形で、深さは10～30cmである。方位はＮ5°Ｅである。

ＳＢ22（第９・52図）

A区中央部やや西寄りに位置する掘立柱建物であり、先述のＳＢ7の北東側に位置する。建物は南北に長い1間×3間の規模で、南北が約7.6m、東西が約2.6mである。面積は約19.76㎡で、柱穴は略円形で、直径25～45cm、深さは10～20cmを測る。方位はＮ1°Ｅとほぼ真北に近い。

ＳＢ23（第９・53図）

A区中央部南側に位置する掘立柱建物であり、前述のＳＢ22の南側に位置する。建物は2間×2間の総柱式で、北辺の柱穴はＳＫ20など別遺構により確認できていない。建物規模は南北が約4.8m、東西が約4.6mとほぼ正方形を呈する。面積は約23.04㎡である。柱穴は略円形をし、大きさは直径20～60cmと幅がある。深さは20～45cmを測る。方位はＮ9°Ｗである。

ＳＢ24（第９・53図）

A区中央部に位置する掘立柱建物であり、前述のＳＢ23の北東側に位置する。建物は2間×2間の総柱式で、南東端の柱穴はＳＤ6と接しており確認できていない。建物の規模は一辺が約4.8mで、正方形を呈する。面積は約22.08㎡を測る。柱穴は略円形・略方形をしており、一辺25～35cm、深さは15～40cmを測る。方位はＮ5°Ｗである。

ＳＢ25（第９・54図）

A区中央部東寄りに所在する掘立柱建物であり、先述の古代掘立柱建物ＳＢ9の南東側に位置する。建物は3間×3間の南北に長い総柱式で、西側の柱間が他より短いことから、西面庇になると考えられる。建物の規模は南北が約8.1m、東西が約6.2mで、面積は約50.22㎡である。柱間の長さは、南北が2.4～2.8m、東西が2.2～2.4m、東西庇が1.5mで、南北間がやや長い。柱穴は略円形をし、規模が直径30～40cm、深さは25～44cmを測る。北東端の規模の大きいピットは古代掘立柱建物ＳＢ11の柱穴で、調査中に本建物柱穴を未確認のまま掘削してしまったようで、詳細な状況はわからない。方位はＮ7°Ｗである。

ＳＢ26（第９・55図）

A区南東端に所在する掘立柱建物であり、前述のＳＢ25の東側に重複するような形で位置する。建物は5間×4間の南北に長い総柱式で、本調査区における中世の掘立柱建物で最も規模が大きい。内部構造では、東西南北全面の端側の柱間が短いことから、全面庇の建物であったようである。建物の規模は南北が約13.2m、東西が約7.7mで、面積が101.64㎡である。柱間の長さは、東西が約2.1m、東西両端の庇部1.6～1.7m、南北が3～3.2m、南北両端の庇部2m前後を測る。柱穴は略円形を

しており、規模は直径20～60cm、深さは11～42cmを測る。柱穴の中の一部で切り合いをもつピットがいくつか付設しているが、これらの穴の深さは10cm前後といずれも浅いことから、建替えによるものより、建物廃絶後の柱抜き取りによる穴と考えたい。方位はN8°Eである。

SB27（第9・56図）

A区南東端にある掘立柱建物であり、一部はB区南西端でも確認することができる。また、前述のSB26のすぐ東隣に位置する。建物は2間×2間の構造で、A・B区にまたがったことから、柱穴を確認することができなかった箇所があった。規模は南北が約4.4m、東西が約4.2mとほぼ正方形を呈する。面積は約18.48㎡を測る。柱穴の形状は略円形および略方形で、一辺20～38cm、深さは15～39cmである。方位はN5°Eである。

SB28（第10・57図）

C区中央部よりやや西寄りに所在する掘立柱建物であり、先述のA区SB20の南東方に位置する。建物は、2間×2間の総柱式である。建物の規模は、東西が約4.8m、南北が約5.0mである。柱間の長さは、東西が2.3～2.5m、南北は約2.5m、面積は約14㎡を測る。柱穴の形状は略円形及び略方形をしており、一辺40～65cm、深さは15～39cmである。方位はN8°Eである。

SB29（第10・57図）

C区中央部に所在する掘立柱建物であり、前述のSB28の南東側に位置する。建物は2間×1間の南北棟で、規模は長辺の南北方約4m、短辺の東西方約2.1mで、面積は約8.4㎡を測る。柱穴の形状は略円形で、一辺25～30cm、深さは20～30cmである。方位はN3°Eである。

SB30（第10・58図）

C区中央部よりやや東寄りに所在する掘立柱建物であり、前述のSB29の東側に位置する。建物は、4間×2間の南北に長い総柱式で、規模は長辺の南北で約9.1m、短辺の東西で約4.6mである。北と南端の柱間が他よりも短いが、庇になるかはわからない。面積は41.86㎡である。柱間の長さは、南北が約1.6mと2.6～2.8m、東西が約2.3mを測る。柱穴の形状は略円形で、直径25～45cm、深さは20～50cmである。土層断面から柱は建物廃絶の際、抜き取られた可能性がある。方位は真北に近い。

SB31（第10・59図）

C区中央部より南東方に位置する掘立柱建物であり、前述のSB30と重複するが、建物の時期の前後関係は不明である。また、建物の南方は調査区外に延びていくため全容は不明である。プランは南北に長い3間以上×2間の総柱式で、計測可能な箇所では、南北が8m以上、東西が約4.8mである。柱間の長さは南北が3m前後、東西が2.5m前後を測る。柱穴は略円形をしており、直径30～58cm、深さは30～50cmである。土層断面から柱は建物廃絶の際、抜き取られたと思われる。方位は真北に近い。

SB32（第10・60図）

C区中央部南端に所在する掘立柱建物であり、前述のSB31の西隣に位置する。建物の南方は調査区外に延びていくため全容は不明である。プランは、計測可能な箇所で南北2間以上、東西3間で、南北間3m以上、東西が約6.6mを測る。柱間の長さは南北が約2m、東西が1.8～2.3mである。柱穴は略円形をしており、直径25～40cm、深さは10～40cmである。土層断面から、柱は建物廃絶の際に抜き取られたと考えられるが、一部柱痕と思われる埋土を見ることができる。方位は真北に近い。

SB33（第10・61図）

C区中央部南端に所在する掘立柱建物であり、前述のSB32の東隣に位置する。建物の南方は調査区外に延びていくため全容は不明である。プランは、計測可能な箇所で南北2間以上、東西2間で、

南北間３ｍ以上、東西約４.４ｍを測る。柱間の長さは南北が約１.５～１.７ｍ以上、東西が２.１～２.３ｍである。柱穴は略円形をしており、直径30～45cm、深さは25～55cmである。土層断面から、柱は建物廃絶の際に抜き取られたと思われる。方位はＮ２°Ｗである。

ＳＢ34（第10・62図）

Ｃ区東端とＤ区西端に位置する掘立柱建物である。Ｃ区とＤ区の間には約５ｍの未調査区があるため、建物の詳細な構造はわからないが、南北３間、東西が推４間と東西棟になると考えられる。規模は東西が約９.３ｍ、南北が約８ｍ、推定面積は約74.４㎡である。柱間の長さは、南北が１.８ｍ前後、東西が１.４ｍ以上である。柱穴は略円形をしており、直径30～80cm、深さは25～40cmである。土層断面から、柱は建物廃絶の際に抜き取られたと思われる。方位はＮ４°Ｅである。

ＳＢ35（第10・63図）

Ｄ区南西端に位置する掘立柱建物であり、前述のＳＢ34の東南側と重複する。プランは南北３間、東西２間以上である。建物の西側は調査区外へと延びるため全容は不明であるが、約５ｍ先のＣ区では柱穴を確認していないので、恐らく３間×２間の南北棟になると推測される。計測可能な箇所で、東西が４ｍ以上、南北が約６.７ｍ、柱間は、東西が約２.７ｍ、南北が１.９～２.２ｍを測る。柱穴は略円形をしており、直径20～55cm、深さは10～30cmである。南東隅の柱穴には、建物廃絶後の柱抜き取りによるピットが切り合うように近接している。方位はＮ８°Ｅである。

ＳＢ36（第11・63図）

Ｅ区西端に位置する掘立柱建物であり、後述のＳＢ37～39の西側に所在する。建物のほとんどが西側調査区外へと延びるため全容は不明である。計測可能な箇所で、南北３間以上、東西１間以上、南北の柱間の長さは１.８～２ｍを測る。柱穴は略円形をしており、直径20～35cm、深さは10～35cmである。建物の方位はＮ15°Ｅである。

ＳＢ37（第11・64図）

Ｅ区西端に位置する総柱式掘立柱建物であり、前述のＳＢ36と重複している。建物は東西が３間、南北は北方で調査区外に延びる可能性があることから、３間以上とした。規模は東西が６.７ｍ、南北が約６ｍ以上、柱間は、東西が１.９～２.７ｍ、南北が１.４～２.０ｍを測る。南端の柱間の長さが他よりも短いが、庇になるかはわからない。柱穴は略円形をしており、直径15～45cm、深さは10～50cmである。柱穴の中には、建物廃絶後に柱を抜き取ったため歪な形状となったものがいくつか見られる。建物の方位はＮ11°Ｅである。

ＳＢ38（第11・65図）

Ｅ区西端に位置する総柱式掘立柱建物であり、前述のＳＢ37と重複するが、時期の前後関係は不明である。建物は東西が長い３間×２間で、規模は東西が約７.５ｍ、南北が約５.２ｍ、柱間の長さは、東西が西から２.０ｍ、２.４ｍ、３.０ｍ、南北が２.４～２.６ｍを測る。面積は約39㎡である。柱穴は略円形をしており、直径20～55cm、深さは20～60cmである。建物の方位はＮ17°Ｅである。

ＳＢ39（第11・56図）

Ｅ区西端に位置する２間×２間の総柱式掘立柱建物であり、先述のＳＢ37・ＳＢ38と重複するが、時期的な前後関係は不明である。建物の規模は南北が約４.９ｍ、東西が４.８ｍとほぼ正方形を呈する。面積は約23.52㎡である。柱間は東西が２.３～２.５ｍ、南北が２.５ｍ前後を測る。柱穴の形状は略円形をしており、直径15～45cm、深さは10～50cmである。建物の方位はＮ13°Ｅである。

ＳＢ40（第11・66図）

Ｅ区中央部より西側にある掘立柱建物であり、前述のＳＢ39の東側に位置する。建物の北側は調査区外へと延びるため詳細な様相はわからない。東西２間、南北１間以上で、計測可能な箇所では東西が約３.８ｍ、南北が２ｍ以上である。柱間の長さは東西が約１.９ｍ、南北が約２.０ｍを測る。柱穴の

形状は略円形で、直径 20 ～ 50 cm、深さは 25 ～ 43 cm である。建物の方位はＮ 6° Ｅである。

ＳＢ 41（第 11・67 図）

Ｅ区中央部より東側に位置する掘立柱建物であり、後述のするＳＢ 42・43 と重複する。建物の北側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。東西 4 間、南北 3 間以上の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 8.7 m、南北が 5 m 以上である。柱間の長さは東西が西から 2.0 m、2.2 m、2.3 m、2.0 m、南北が 2.4 m前後を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 25 ～ 50 cm、深さは 10 ～ 50 cm である。建物の方位はＮ 13° Ｅである。

ＳＢ 42（第 11・66 図）

Ｅ区中央部より東側に位置する掘立柱建物であり、前述のＳＢ 41 と後述のＳＢ 43 と重複するが、各建物の時期的な前後関係は不明である。建物の北側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。東西 4 間、南北 2 間以上の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 9.6 m、南北が 3 m 以上である。柱間の長さは東西が西から 2.5 m、2.3 m、2.5 m、2.3 m、南北が 2.3 m を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 30 ～ 55 cm、深さは 33 ～ 47 cm である。建物の方位はＮ 12° Ｅである。

ＳＢ 43（第 11・68 図）

Ｅ区中央部より東側に位置する掘立柱建物であり、前述のＳＢ 42・43 と重複するが、各建物の時期的な前後関係は不明である。建物の北側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。東西 4 間、南北 2 間以上の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 8.5 m、南北が 3 m 以上である。柱間の長さは東西が約 2.1 m、南北が約 2.6 m を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 25 ～ 55 cm、深さは 15 ～ 50 cm である。建物の方位はＮ 6° Ｅである。

ＳＢ 44（第 10・68 図）

Ｄ区中央部よりやや南寄りに位置する掘立柱建物である。建物の西側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。建物規模は、東西 2 間以上、南北 2 間の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 3.5 m 以上、南北が約 4 mである。柱間の長さは東西が約 1.8 m、南北が 2.0 m前後を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 30 cm 前後、深さは 10 ～ 35 cm である。建物の方位はＮ 15° Ｅである。

ＳＢ 45（第 10・69 図）

Ｄ区中央部よりやや南寄りに位置する掘立柱建物で、前述のＳＢ 44 と重複するが、時期的な前後関係は不明である。建物の西側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。建物規模は、東西 1 間以上、南北 2 間で、計測可能な箇所では東西が 1 m 以上、南北が約 4.5 mで、柱間の長さは、南北が 2.3 m前後である。柱穴の形状は略円形で、直径 25 ～ 40 cm、深さは 10 ～ 20 cm である。建物の方位はＮ 11° Ｅである。

ＳＢ 46（第 10・69 図）

Ｄ区南端に位置する掘立柱建物で、前述のＳＢ 45 からおよそ 10 m南方向に所在する。建物の西側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。建物規模は、東西 2 間以上、南北 2 間で、計測可能な箇所では東西が 2 m 以上、南北が約 4 mで、柱間の長さは、東西・南北ともに 2.0 m前後を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 35 ～ 65 cm、深さは 10 ～ 25 cm である。建物の方位はＮ 7° Ｅである。

③土坑

ＳＫ 1（第 12・70 図）

Ａ区北西側に位置する土坑で、後述する東西溝ＳＤ 4 を切っている。土坑は東西に長い楕円形の形状をしている。規模は南北約 1 m、東西約 1.2 m。深さは約 20 cm である。覆土は褐灰色粘質土・淡黄色粘質土を主体に 5 層確認している。層 1 と層 2 からは骨片を検出している。遺物は出土していないが、覆土などから中世の時期と推察する。

ＳＫ２（第 12・70 図）

A区北西方に位置する土坑であり、前述のＳＫ１の東隣に位置する。東西溝ＳＤ４と重複し、本土坑がＳＤ４を切っている。土坑は東西に長い楕円形をし、規模は南北約 0.8 m、東西約 1.1 m、深さは約 20 cm である。覆土は褐灰色粘質土を主体に４層確認できる。層２から炭化粒や骨片が見つかっている。遺物は出土していない。覆土などから中世以降の時期と考える。

ＳＫ３（第 12・70 図）

A区北西側に位置する土坑であり、前述のＳＫ２の東隣に位置する。ＳＫ１・２と同様、東西溝ＳＤ４と重複し、切り合いから本土坑の方がＳＤ４よりも新しいことが判明している。土坑のプランは東西に長い楕円形で、遺構の規模は南北約 1.2 m、東西約 1.8 m、深さ約 100 cm で、覆土は褐灰色粘質土・淡黄色粘質土を主体に９層分確認している。層１・層３・層５から炭化粒や骨片が見つかっている。遺物は出土していない。ＳＫ１・２との覆土が近似しているなどから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ４（第 12・71 図）

A区中央部より北西寄りに位置する土坑であり、前述のＳＫ３の東隣に位置する。ＳＫ１～ＳＫ３と同様、ＳＤ４を切っているほか、後述するＳＫ５とＳＫ８も重複し切った状態で見つかっている。土坑は北東―南西に長い略楕円形をし、規模は長辺約 2.0 m、短辺約 1.8 m、深さ約 52 cm を測る。覆土は褐色系の粘質土が主体で、９層分確認している。覆土などから中世以降の時期と考える。

ＳＫ５（第 12・71 図）

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ４とは切り合っており、また、後述するＳＫ６が本土坑の南側に重複している。両遺構とも本土坑を切っている。本土坑はやや歪ながら、東西に長い略長方形をしており、規模は東西約 2.2 m、南北に約 1.2 m、深さ約 60 cm を測る。覆土は灰褐色粘質土・淡黄色粘質土を主体に 10 層分確認している。層１からは骨片、層６より上からは、複数の拳大の自然石が埋設している。覆土などから中世以降の時期と考える。

ＳＫ６（第 12・71 図）

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ５や、後述するＳＫ７．８とは切り合っている。切り合いの状況から、本土坑はＳＫ５、ＳＫ８よりは新しく、ＳＫ７よりは古いことがわかった。土坑は北東－南西に長い略楕円形で、規模は長辺が約 1.2 m、短辺約 0.9 m、深さ約 40 cm を測る。

ＳＫ７（第 12・71 図）

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ５・６とは切り合っている。土坑は東西に長い隅丸の略長方形で、東西約 1.8 m、南北約 1.1 m、深さ約 25 cm を測る。覆土は灰色系の粘質土が主体で５層分確認した。上層にあたる層２からは骨辺と炭を検出した。覆土などから中世以降の時期と考える。

ＳＫ８（第 12・71 図）

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ４～６とは切り合っている。切り合いの様相から、ＳＫ４～６よりも古いことが判明している。前述の土坑群により、北半の様相はわからないが、恐らく南北に長い略長方形になると考えられる。規模は南北 1.5 m 以上、東西約 1.0 m、深さは 60 cm で、覆土は灰色系の粘質土が主体である。覆土などから中世以降の時期と推測する。

ＳＫ９（第 12・70 図）

A区北西側に位置する土坑であり、先述のＳＫ３の南側に位置する。ＳＤ４とは切り合っているが、これまでに報告した土坑とは違い、ＳＤ４よりも古いことがわかっている。土坑は北半の様相はわからないが、東西に長い略楕円形と推察する。規模は、東西約 1.5 m、南北約 0.8 m、深さ約 50 cm で、覆土は褐色や灰色粘質土が主体で、８層分確認している。層１からは骨片が見つかっている。覆土などから中世以降の時期と考える。

ＳＫ 10（第 12・72 図）
A区中央部より北寄りに位置する土坑で、先述のＳＫ４～８の南方に位置する。北東－南西に長い隅丸の略長方形のプランで、長辺約 1.7 m、短辺約 1.2 m、深さ約 50 cm を測る。覆土は黄色土・黄色粒混じりの灰色系の粘質土を主体に 10 層分確認している。覆土などから中世以降の時期と考える。

ＳＫ 11（第 12・72 図）
A区中央部より北寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ 10 の南西方に所在する。土坑は略円形をしており、規模は直径約 0.7 m、深さ約 30 cm を測る。

ＳＫ 12（第 12・72 図）
A区中央部より西寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ 11 の南側にある。土坑は東西に長い隅丸長方形をしており、東西が約 1.6 m、南北が約 1.1 m、深さは約 30 cm である。覆土は淡褐灰色と淡黄色粘質土を主体に 12 層分確認している。なお、土層断面から、土の堆積が人為的に埋めたような状況をしている。覆土などから、中世以降の所産と考える。

ＳＫ 13（第 12・72 図）
A区中央部より西側に位置する土坑で、前述のＳＫ 12 より西方遠くに位置する。土坑は南北に長い略楕円形をしており、南北が約 1.2 m、東西が約 0.7 m、深さは約 30 cm で、覆土は褐灰色粘質土を主体に６層分確認している。層２から炭化粒や骨片が見つかっている。遺物は出土していない。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ 14（第 12・73 図）
A区西方に位置する土坑で、前述のＳＫ 13 の南側に所在する。南北に長い隅丸略長方形をしており、南北約 1.4 m、東西約 0.6 m、深さは約 60 cm を測る。覆土は暗褐色土・黄色土混じりの褐灰色粘質土と暗灰色土混じりの淡黄色粘質土の２層である。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ 15（第 12・73 図）
A区のほぼ中央に位置する土坑で、先述のＳＫ 10 の南側に所在する。プランは東西に長い隅丸略長方形で、東西約 1.7 m、南北約 0.9 m、深さ約 30 cm である。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土が主体の 13 層分を確認した。205 土師器塊や 221 土師器鉢が見つかっているが、堆積覆土や周囲の近似する土坑の様相などから、本土坑も中世以降の時期と推定する。

ＳＫ 16（第 12・73 図）
A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のＳＫ 15 の南側に所在する。プランはＳＫ 15 と酷似する東西に長い隅丸略長方形で、東西約 1.8 m、南北約 1.1 m、深さ約 20 cm である。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土が主体で、層３からは炭化物と焼土が認められる。259 土師器皿が出土している。

ＳＫ 17（第 12・73 図）
A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のＳＫ 16 の南隣に所在する。プランは東西に長い略楕円形で、東西約 1.2 m、南北約 0.6 m、深さ約 60 cm である。覆土の様相はわからない。土坑の規模や深さ、位置関係から中世以降の時期と推定する。

ＳＫ 18（第 12・74 図）
A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のＳＫ 17 の南隣に所在する。後述するＳＫ 19 とは重複しており、切り合いから、本土坑が新しいことがわかっている。プランは南北に長い略楕円形で、南北が約 1.5 m、東西が約 1.1 m、深さが約 60 cm である。覆土は褐灰色・暗灰色粘質土を主体に８層分確認した。覆土から、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ19（第12・74図）

A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のＳＫ18とは切り合い、本土坑が古いことがわかっている。南北に長い略長方形をしており、規模は南北約1.7m、東西約0.8m、深さ約30cmを測る。覆土の様相はわからない。土坑の規模や深さ、位置関係から中世以降の時期と推定する。

ＳＫ20（第12・74図）

A区の中央部よりやや南西寄りに位置する土坑で、後述するＳＫ21とは重複する。検出状況から本土坑はＳＫ21よりも古いことが明らかになっている。プランは東西に長い略長方形をし、規模は東西が約2.5m、南北が約1.1m、深さ約50cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に9層分確認している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ21（第12・74図）

A区の中央部よりやや南西寄りに位置する土坑で、前述するＳＫ20とは重複し、本土坑の方が新しいことが判明している。大きく崩れた南北に長い楕円形をしており、規模は南北が約1.6m、東西が約0.8m、深さが約50cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に7層分確認している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ22（第12・75図）

A区の中央部よりやや南西寄りに位置する土坑で、前述するＳＫ20・21の西側に隣接する。南北がやや長い隅丸略長方形をしており、南北約1.0m、東西約0.8m、深さ約0.4mを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に6層分確認している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ23（第12・75図）

A区南西方に位置する土坑で、先述のＳＩ4の北東隣に所在する。本土坑の西半は略方形をしており、東半は略楕円形をしている。2基の土坑が重複しているかもしれない。規模は南北が約1.1m、東西が約1.2m、深さ約40cmである。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に5層分確認している。層1からは骨片、層3からは炭粒が認められる。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ24（第12・75図）

A区南西方に位置する土坑で、前述のＳＫ23の東隣に所在する。プランは略円形で、直径約1.2m、深さは約65cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に9層分確認しており、層1と2からは炭粒、層5からは骨片を検出している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

ＳＫ25（第12・75図）

A区より南西方に位置する土坑で、後述するＳＫ26の西隣に所在する。東西に長い略長方形プランと考えられるが、複数の大型ピット状遺構と切り合っているため、全体の様相はわからない。規模は東西約2.0m、南北約1.5m、深さ約30cmを測る。覆土は灰色系の粘質土が主体で、4層分確認した。層1からは炭粒と骨片を検出している。埋土から、32弥生土器甕底部、60～63須恵器坏、171～173須恵器甕・瓶、194土師器埦、319瀬戸焼天目茶碗、376土鈴、449鉄製皿など大量の遺物が出土している。

ＳＫ26（第12・76図）

A区より南西方に位置する土坑で、前述のＳＫ26の東隣に所在する。南北に長い略長方形プランをしているが、土坑内にはテラスを設けており、土層断面から土坑の掘り直しがあったかもしれない。規模は南北約1.6m、東西約1.0m、深さはテラス部約35cm、最深部約60cmを測る。覆土は暗灰色系の粘質土を主体に8層分確認している。層1・2・5・8から骨片が認められ、334の越前焼甕が出土している。

ＳＫ27（第12・76図）

A区の中央部より南方に位置する土坑で、前述のＳＫ26の東側に所在する。南北にやや長い略楕円

形プランをしており、中央部と外縁部に3基のピット状遺構が認められる。規模は南北約2.1m、東西が約1.9mで、深さは10～30cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に4層分確認している。374の近世肥前碗が出土している。

SK28（第13・76図）
C区北西隅に位置する土坑で、後述する東西溝SD13と交わるが、前後関係はわからない。北東－南西に長い略楕円形をしており、当初は長辺約1.0m、短辺約0.5m、深さ約50cmの土坑が存在したが、灰絶後新たに深さ10cm前後の浅い土坑が掘り直されたようである。覆土は褐灰色粘質土を主体に4層分認められ、後出の浅い土坑は褐灰色粘質土1層である。

SK29（第13・83図）
C区西端に位置する土坑である。土坑の西半が調査区外となるため、全容は不明である。計測可能な箇所では南北が約3.2m、東西0.8m以上、深さは約60cmを測る。覆土は灰色と黒色系の粘質土を主体に4層分確認でき、レンズ状に堆積している。339の越前焼壺が出土している。

SK30（第13・76図）
C区中央部より北方に位置する土坑で、後述する東西溝SD13とSD16に切られている。前述の遺構に切られているため、形状は不明であるが、略方形と想定する。外縁部に5～20cmのテラスが認められる。深さは15cm前後である。規模は計測可能な箇所で、南北1.7m以上、東西1.3m以上で、深さは最深部で25cmを測る。覆土は灰色粘質土を主体に4層分確認しているが、堆積状況から、複数回掘り直しがあったかもしれない。136須恵器蓋、222土師器鍋、260土師器皿が出土している。

SK31（第13・77図）
C区南西コーナー隅に位置する土坑である。西半と南半が調査区の外に延びるため、全容は不明であるが、隅丸方形プランと想定される。計測可能な箇所では南北2.4m以上、東西3.2m以上を測る。深さは50～80cmで、2段のテラスが認められる。覆土は灰色系の粘質土が主体で7層分確認できる。155須恵器盤、26土師器皿、332加賀焼甕が出土している。

SK32（第13・78図）
C区中央部より南寄りに位置する土坑であり、後述する南北溝SD16に切られている。隅丸方形プランをしていると考えられ、規模は南北約0.9m、東西0.7m以上で、深さは約40cmである。穴内には直径約30cm、深さ約15cmのピット状遺構が認められるが、本土坑との関係は不明である。覆土は灰色系の粘質土を主体に5層分確認できる。91須恵器坏が出土している。

SK33（第13・78図）
C区中央部より南端に位置する土坑であり、後述する南北溝SD16に西半分切られている。方形プランと考えられ、規模は南北が0.9m、東西0.8m以上、深さは約50cmを測る。覆土は灰色系の粘質土を主体に6層分確認できる。中世以降の時期と推定する。

SK34（第13・78図）
D区西方に位置する土坑で、先述のSB34の東側に所在する。北東－南西に長い略楕円形に見えるが、略円形の2基の遺構が切り合ったことによる形状である。規模は長辺約1.1m、短辺約0.6m、深さは約10cmと約30cmを測る。覆土は灰色系の粘質土を主体に4層分確認できる。

SK35（第14・78図）
E区に西端に位置する土坑である。形状は略円形をしており、穴内には直径約10cm、深さ約10cmのピット状遺構が見られる。土坑の規模は直径約1.1～1.2m、深さは30cmである。覆土は灰色系の粘質土が主体に5層分確認できる。覆土などから中世の時期と推測する。

ＳＫ 36（第 14・79 図）
Ｅ区に西端にある土坑で、前述のＳＫ 35 の南東方向に位置する。プランは略円形をしており、穴内には直径 30 cm 前後、深さ約 25 cm のピット状遺構が見られる。土坑の規模は直径 1.0 ～ 1.2 m で、深さは約 15 cm である。覆土は褐灰色粘質土を主体に 3 層分確認できる。

ＳＫ 37（第 14・80 図）
Ｅ区に西端にある土坑で、前述のＳＫ 36 とは切り合い、本土坑はＳＫ 36 に比べて古いことが明らかになっている。形状は東西に長い略長方形をしている。穴内の西側はテラス状となっており、2 基の土坑が切り合っているようにも見えるが、土層断面からは明確にできなかった。規模は南北約 0.9 m、東西約 1.2 m、深さはテラス部で約 40 cm、最深部で約 50 cm を測る。覆土は褐灰色粘質土が主体で 4 層分確認できる。また、261・262 土師器皿、335 越前焼甕、340 珠洲焼小壺、352 珠洲焼すり鉢、394 石製行火など、他の遺構と比べて遺物の出土量は極めて多い。

ＳＫ 38（第 14・80 図）
Ｅ区に西端にある土坑で、前述のＳＫ 36・ＳＫ 37 の南側に位置する。南北に長い略長方形プランにも見えるが、複数の遺構が切り合っていることと、南半が調査区外に延びることなどから、全体の様相はわからない。規模は南北が 1.5 m 以上、東西約 0.8 m、深さは最深部約 25 cm である。埋土に複数の人頭大の石が入っており、331 瀬戸焼水柱、401 砥石、440 鉄製釘なども見つかっている。

ＳＫ 39（第 13・79 図）
Ｄ区中央部よりやや南寄りに位置する土坑で、先述のＳＫ 44 の北方向に所在する。形状は略円形をしており、規模は直径 1.7 ～ 1.8 m、深さ約 15 cm を測る。覆土は灰色系の粘質土 2 層分である。

ＳＫ 40（第 13・79 図）
Ｄ区中央部よりやや南寄りに位置する土坑で、前述のＳＫ 39 の東側に所在する。複数のピット状遺構などと重複していることや、東半が調査区外に延びることから、全容は明らかではない。東西に長い略楕円形になるかもしれない。規模は東西 1.6 m 以上、南北約 1.0 m、深さは約 40 cm で、覆土は灰色系・黄色系の粘質土が主体である。

ＳＫ 41（第 13・81 図）
Ｄ区中央部より南側に位置する土坑であり、先述のＳＫ 39 の南方向に所在する。形状は略円形ではあるが、穴内部にあるテラス状遺構や土層断面から、複数回掘り直しがあったようである。規模は南北が約 3.0 m、東西が約 2.7 m、深さが 50 ～ 70 cm である。覆土は灰色系の粘質土が主体で 10 層分確認できる。197 の土師器碗が出土している。

ＳＫ 42（第 13・81 図）
Ｄ区中央部より南側に位置する土坑であり、前述のＳＫ 41 の東側に所在する。形状は東半が調査区外になることや、複数回掘り直しがあったようで詳細はよくわからない。規模は南北が約 1.8 m、東西 1.5 m 以上、深さは約 30 cm で、覆土は灰色系の粘質土が主体である。

ＳＫ 43（第 13・82 図）
Ｄ区南端に位置する土坑であり、先述のＳＫ 41 の南方に位置する。南北に長い略長方形をしており、規模は南北が約 1.7 m、東西が約 1.0 m、深さは約 15 cm である。覆土は褐灰色粘質土が主体である。

ＳＫ 44（第 13・80 図）
Ｄ区南端に位置する土坑で、前述のＳＫ 43 の南側に位置する。形状は複数回掘り直しが認められ、また、東半が調査区外に延びることから、詳細は不明である。規模は南北が約 2.4 m、東西が 1.6 m 以上で、深さは 10 ～ 65 cm である。覆土は灰色系・黄色系粘質土が主体である。

ＳＫ45（第13・82図）

Ｆ区に北西隅に位置する。プランは略楕円形と考えられるが、北西半が調査区外に延びることから、詳細はわからない。計測可能な箇所では、南北2.0m以上、東西が1.5m以上、深さは約30cmである。覆土は灰色系の粘質土が主体である。366の瓦質火鉢が出土している。

ＳＫ46（第13・82図）

Ｆ区北端に位置する土坑であり、前述のＳＫ45の東に隣接する。略円形プランで、直径約2.0m、深さ約25cmを測る。覆土は褐灰色粘質土が主体で、375瀬戸焼平碗、441の棒状鉄製品が出土している。

④ **溝**

ＳＤ1（第15図）

Ａ区北端に位置する北東－南西ラインの溝で、後述するＳＤ2と平行する。本溝は調査区の際にあることもあり全容は不明であるが、計測可能な範囲において、最長部約40m、幅は約1.5m、深さ25～45cmを測る。方位はN81°Ｅで、蛇行せず直線状に走る。

ＳＤ2（第15図）

Ａ区北端に位置する北東－南西ラインの溝で、前述のＳＤ1と平行する。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約68m、幅は約1.7m、深さ50～65cmを測る。方位はN80°Ｅで、ＳＤ1と同様蛇行せず直線状に走る。

ＳＤ3（第15・16図）

Ａ区西側に位置する南北溝で、一部Ｃ区北西隅でも確認でき、そのまま西方調査区外へと進む。前述のＳＤ2とは交差するが、前後関係はわからない。規模は最長部で約43m、幅は約1.2～2.5m、深さ10～30cmを測る。方位はN21°Ｅで、Ａ区ＳＩ4付近では途切れる箇所がある。368・369の近世陶磁器が出土しているが、周辺の遺構の状況などから、時期はこれよりも古いと考える。

ＳＤ4（第15図）

Ａ区中央部より北西寄りに位置する東西溝である。前述のＳＤ3やＳＫ1～4とは切り合っており、本溝はＳＤ3よりも新しく、ＳＫ1～4よりは古い。規模は最長部約13m、幅は約1m、深さ20～30cmを測る。方位はN80°Ｅで、先述のＳＤ1・2とほぼ同一方向をとる。

ＳＤ5（第15図）

Ａ区中央に位置する南北溝である。後述する自然河川である旧河道2の下層で確認した溝で、一連のものになるかもしれない。規模は最長部で約30m、幅は1～2m、深さ60～70cmを測る。本溝は、南方向に行くに従い緩やかにＳ字型に湾曲している。それより南方部のＣ区では検出していない。方位は、Ａ区北側の箇所でN3°Ｅを測る。

ＳＤ6（第15・16図）

Ａ区中央に位置する南北溝である。前述のＳＤ5と同様、旧河道2の下層で確認した溝で、一連のものと考えられる。南方部のＤ区西端では、東岸の一部と思われる箇所を確認している。Ｃ区とＤ区の間の調査区外に延びると思われる。規模は最長部で約45m、幅は約1.4～2.6m、深さ60～70cmで、南方向に行くに従い緩やかに蛇行している。方位は北側の箇所でN5°Ｅを測る。

ＳＤ7（第15図）

Ａ区中央に位置する南北溝で、南方部のＣ区では検出していない。前述のＳＤ5・6と同様、旧河道2の下層で確認した溝で一連のものと考えられる。規模は、最長部で約20m、幅は約1m前後、深さ40～50cmを測る。方位はほぼ真北であるが、南方では緩やかに蛇行している。また、旧河道2及びその下で形成するＳＤ5～ＳＤ7は、先述のＳＤ2に切られている。

ＳＤ８（第15図）

Ａ区中央に位置する南北溝で、南方部のＤ区では確認していない。先述のＳＤ５～７の東側を平行するようにして走り、ＳＤ６が蛇行するところでは、同じ向きで蛇行することから、旧河道２を含めたＳＤ５～７を意識して掘削している。規模は最長部で約30ｍ、幅は70ｃｍ前後、深さ15～20ｃｍを測る。方位は北側でほぼ真北を測る。

ＳＤ９（第15・16図）

Ａ区中央部より南方からＤ区西側を走る南北溝である。前述のＳＤ７とはほぼ平行する。規模は最長部で約30ｍ、幅は約40ｃｍ、深さ５～10ｃｍを測る。方位はＮ９°Ｗで、Ａ区では一部途切れる箇所がある。Ｄ区南端は調査区外へ伸びていく。

ＳＤ10（第15・16図）

Ａ区南東部からＤ区北端を経て、Ｂ区南側にかけて走る東西溝で、逆Ｓ字型に蛇行している。前述のＳＤ９に切られている。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約38ｍ、幅は約70～180ｃｍ、深さ10～20ｃｍを測る。東西方向に逆Ｓ字型に蛇行しており、Ｂ区南端では一部途切れる箇所がある。

ＳＤ11（第15図）

Ａ区南東隅に位置する円形をした周溝状遺構で、東半は調査区外となる。溝幅は約40ｃｍ、深さは20ｃｍ前後、周溝内は直径約２ｍを測る。遺物は確認していないが、弥生時代後期と思われる。

ＳＤ12（第15図）

Ｂ区南側に位置する東西溝である。先述のＳＤ10を切っている。規模は最長部で約13.5ｍ、幅は40～80ｍ、深さ15～30ｃｍを測り、東方は調査区外へ伸びていく。東端には、両岸に人頭大の石を並べている。方位はＥ15°Ｓで、本溝から南方10ｍに位置するＳＡ１と同一方向をとる。

ＳＤ13（第16図）

Ｃ区北方に位置する東西溝で、後述するＳＤ16を切っている。規模は、最長部で約19ｍ、幅は約1.6ｍ、深さ約20ｃｍを測る。方位はＥ３°Ｓである。西方部の延長上はＡ区南西端につながるが、溝は確認していない。

ＳＤ14（第16図）

Ｃ区北西隅にある北東－南西方の溝で、前述のＳＤ13の南隣に位置する。規模は最長部で約７ｍ、幅は約60ｃｍ、深さは５～10ｃｍを測る。方位はＮ72°Ｅで、北方へ緩やかに湾曲している。

ＳＤ15（第16図）

Ｃ区ほぼ中央部に位置する南北溝である。最長部で約12.5ｍ、幅は約50ｃｍ、深さは５ｃｍ前後を測る。方位はＮ19°Ｅである。

ＳＤ16（第16図）

Ｃ区中央部に位置する南北溝で、先述のＳＤ13に切られている。北端、南端とも調査区外に延びるが、北側延長上のＡ区では確認していない。規模は、最長部で約20ｍ、幅は約40ｃｍ、深さ約５ｃｍを測る。方位はＮ７°Ｅである。

ＳＤ17（第16図）

Ｄ区北西端に位置する東西溝で、先述のＳＤ９から派生して東方へと走り、後述する旧河道１へと向かう。規模は、最長部で約37ｍ、幅は約40ｃｍ、深さ約10ｃｍを測る。途中で南方へ弧を描くような形に湾曲する。

ＳＤ 18（第 16・17 図）
Ｄ区ほぼ中央に位置する南北溝で、一部Ｅ区の東端に接する。北端は旧河道１にぶつかり、南端は調査区外へと延びる。最長部で約 27 m、幅は約 4 m、深さは 70 cm 前後を測る。方位は N38° E である。近世以降の陶磁器が出土していることから、新しい時期と判断し、全掘はしていない。

ＳＤ 19（第 17 図）
Ｅ区中央部より西側に位置する南北溝で、北端と南端は調査区外へと延びる。規模は、最長部で約 8 m、幅は約 1 ～ 2.4 m、深さ 10 ～ 15 cm を測る。方位は N19° E である。先述のＳＤ 16 とは、延長すると合致する位置にあたるが、規模が違うため同一遺構とは認めがたい。

ＳＤ 20（第 17 図）
Ｅ区中央部より西側に位置する南北溝で、前述のＳＤ 19 の東隣に位置する。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8 m、幅は約 1.2 ～ 2.4 m、深さ 10 cm 前後を測る。方位はほぼ真北で、北端及び南端は調査区外へ延びていく。

ＳＤ 21（第 17 図）
Ｅ区中央部に位置する南北溝で、前述のＳＤ 20 の東側に位置する。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8.8 m、幅は約 60 cm、深さ 10 cm 前後を測る。方位は N15° E で、北端及び南端は調査区外へ延びていく。

ＳＤ 22（第 17 図）
Ｅ区中央部より東側に位置する南北溝で、切り合いをもつＳＩ 10・11 よりも古い。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8.5 m、幅は約 60 cm、深さ約 15 cm を測る。方位は N11° E で、北端及び南端は調査区外へ延びていく。

ＳＤ 23（第 17 図）
Ｅ区中央部より東側に位置する南北溝で、前述のＳＤ 22 の東隣にある。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8.5 m、幅は約 20 cm、深さ 5 ～ 10 cm を測る。方位は N5° E で、北端及び南端が調査区外へ延びる。Ａ区ＳＤ 16 と同一の溝になるかもしれない。

ＳＤ 24（第 16・17 図）
Ｅ区北東端からＤ区へと延びる東西溝で、ＳＤ 18 を切っている。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8 m、幅は約 50 ～ 80 cm、深さ約 50 cm を測る。方位は E18° S で、西端は調査区外へ延びていく。

ＳＤ 25（第 16 図）
Ｄ区ほぼ中央部に位置する南北溝で、先述のＳＤ 18 の東側にある。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 21 m、幅は約 40 cm、深さ約 25 cm を測る。方位は N35° E で、ＳＤ 26 などにより途切れる箇所がある。

ＳＤ 26（第 16 図）
Ｄ区南側に位置する南北溝で、Ｓ字型に蛇行し、前述のＳＤ 25 を切っている。北端はＳＤ 18 にぶつかり、南端は調査区外へと延びる。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 28 m、幅は約 50 cm、深さ 15 ～ 25 cm を測る。

ＳＤ 27（第 16 図）
Ｄ区南側に位置する北西－南東方の溝で、前述のＳＤ 27 を切っている。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 9 m、幅は約 3 m、深さ約 40 cm を測る。方位は N64° W である。西端及び東端は調査区外へ延びていく。

ＳＤ 28（第 16 図）

Ｄ区南端に位置する東西溝である。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8 m、幅は約 2 m、深さ約 1 mを測る。方位は E8° Ｓである。西端及び東端は調査区外へ延びる。

ＳＤ 29（第 16 図）

Ｄ区南端に位置する溝で、前述のＳＤ 28 の南隣に接する。切り合いから本溝の方が古い。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 9 m、幅は約 1 m、深さ 35 ～ 55 cm を測る。方位は E6° Ｓで、西端及び東端は調査区外へ延びる。

ＳＤ 30（第 16 図）

Ｆ区に位置する畝溝のひとつである。規模は、計測可能な範囲において、最長部 2 .6 m、幅は約 20 cm、深さ 5 cm 前後を測る。方位は E17° Ｓである。畝溝は東西方向で、大小合わせて 7 条確認できる。畝溝の間隔は 20 cm と狭いものがあるが、造り替えがあったため狭小に見える。基本的な溝幅は 70 ～ 80 cm である。

⑤ **柵列**

ＳＡ 1（第 19・83 図）

Ｄ区北東隅に位置する、北西－南東方向のラインをもつ柵列である。柱穴は 12 基確認でき、その規模は直径 18 ～ 35 cm、深さは 12 ～ 24 cm を測る。柱間は東端で 25 cm、西端で 2 .1 mを測定するが、平均で約 1 m間隔である。方位はＷ 13° Ｎで、西端より更に西方へ延長すると、中世掘立柱建物ＳＢ 26 の南面に合致する。ＳＡ 1 とＳＢ 26 は同時併存するかもしれない。

⑥ **不明遺構**

ＳＸ 1（第 18 図）

Ｂ区北東端に位置する、古代の大きな落ち込み状遺構である。前述の大型掘立柱建物ＳＢ 16 の北際より東方に向かって開口しており、人為的に掘り込んでいる。計測可能な範囲において、東西約 13 m、南北約 6 m、深さ 50 ～ 120 cm である。現在本遺構の東方には、中河川の郷用水が流水しており、古代においてもその位置は大きく変わっていないことから、本遺構は船着場など水利に関係するものになるかもしれない。

ＳＸ 2（第 18 図）

Ａ区中央部北端に位置する。前述のＳＤ 8 を切っている。東西約 230 cm、南北約 50 cm、深さ 10 ～ 30 cm を測る。

ＳＸ 3（第 19 図）

Ｃ区中央部から南寄りに位置する北西－南東が長い略円形をした遺構で、北端は別のピット状遺構によって切られている。穴内にはテラスや複数の小穴が見られる。規模は、長辺約 90 cm、短辺約 60 cm、最深部約 50 cm を測る。

ＳＸ 4（第 19 図）

Ｄ区中央部に位置する。ＳＸ 1 同様、東方に向かって開口する遺構である。計測可能な範囲において、東西約 5 .5 m、南北約 2 .3 m、深さ 35 ～ 75 cm である。

ＳＸ 5（第 20 図）

Ｅ区北西端に位置する。略楕円形の形状に見えるが、北半は調査区外へ延びるため詳細な様相は不明である。穴内には三角形のテラスや小穴が見られる。南北 110 cm 以上、東西約 150 cm、深さはテラス部で約 20 cm、最深部約 25 cm を測る。

⑦ 旧河道

旧河道１（第 19 図）

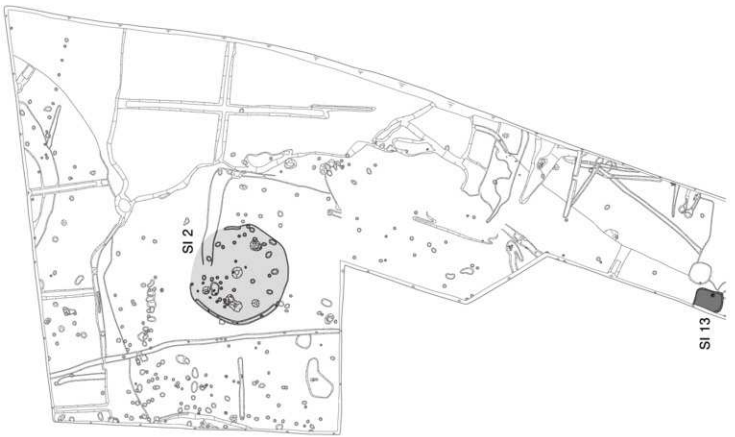
D区北東部で確認した、現在、本調査区の東方を流水している郷用水の跡である。大きく蛇行しており、調査区内における最大東西長約 14 mを測る。河内にサブトレンチを入れたところ、１m以上の深さであることがわかった。埋土からは古代の遺物が多く出土している。

旧河道２（第 18 図）

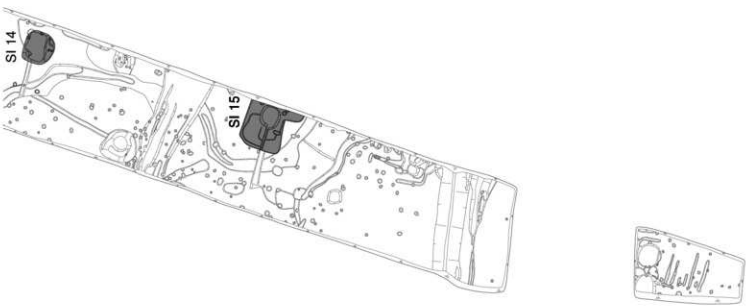
A区中央部を南北に走る自然河道である。前述したＳＤ５～７は、この河の下層面で検出した溝で、河の一部と考えられる。幅は５～ 10 m、深さは最深部で約 80 cm を測り、弥生土器が出土していることから、当該時期は流水し、古代までには埋まったと考えられる。C区内には確認していないことから、D区との間の調査区外を走り、図示していないが、E区中央部には、河道の埋土を検出している。

第6図　A·B区 SI 位置図

SI 3
SI 1
弥生
中世
0
10m

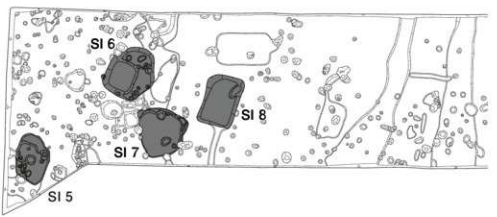


第7図　C・D・F区　SI位置図

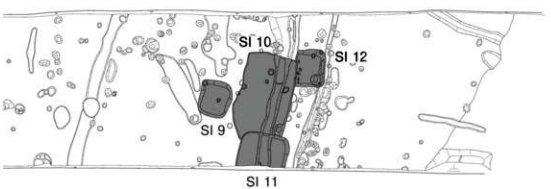


弥生
中世

0 20m

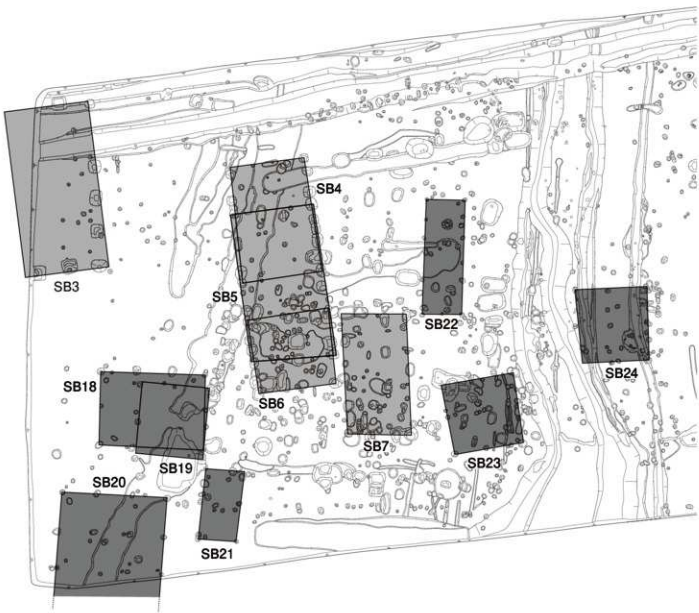


第8図　E区　SI位置図



中世

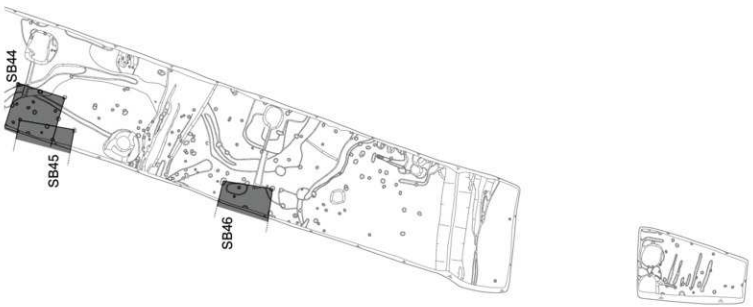
0 10m



第9図　A・B区 SB 位置図

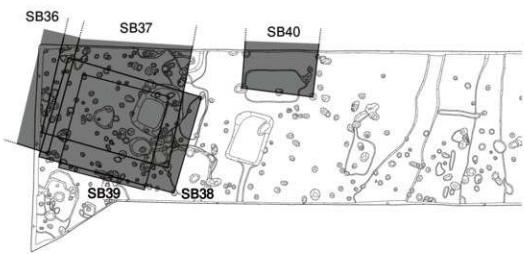
SB10
SB11
SB13
SB1
SB14
SB16
SB8
SB9
SB15
SB12
SB2
SB25
SB17
SB27
SB26
弥生
古代
中世
0
10m

第10図　C・D・F区　SB位置図

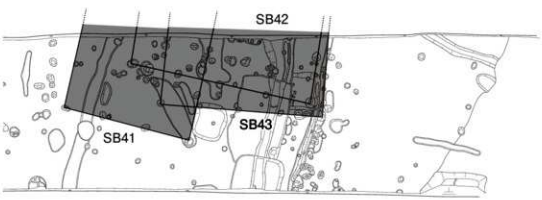


中世

0 20m



第 11 図　E 区　SB 位置図



中世

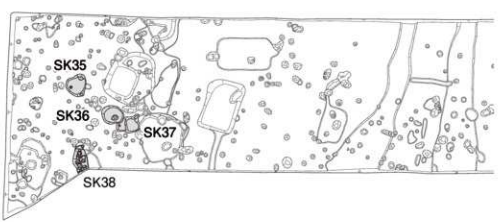
0 10m

第 12 図　A・B 区 SK 位置図

0
10m

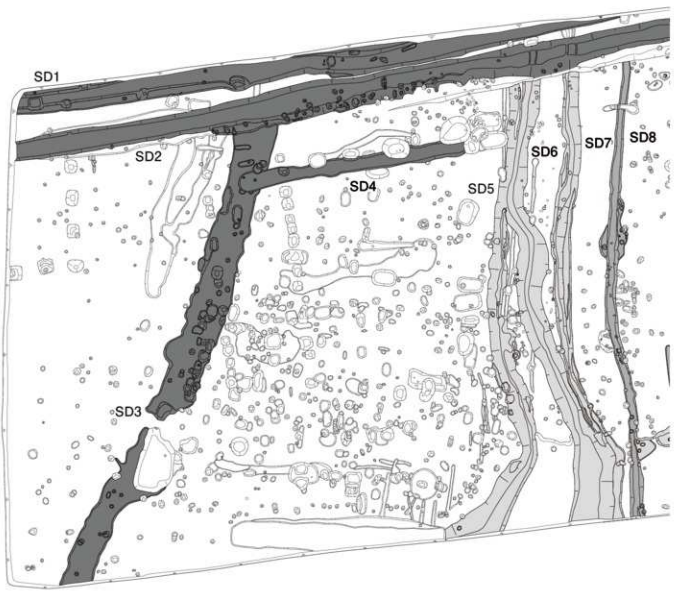
第13図　C・D・F区　SK位置図

SK41
SK42
SK43
SK44
SK45 SK46
0
20m



第 14 図　E 区　SK 位置図

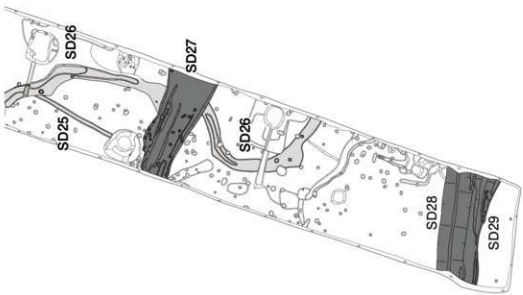
0
10m

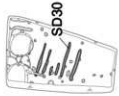


第 15 図　A・B 区 SD 位置図

SD9
SD10
SD11
SD12
SD10
弥生
古代
中世
0
10m

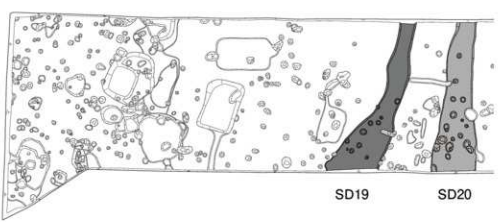
第16図　C・D・F区　SD位置図



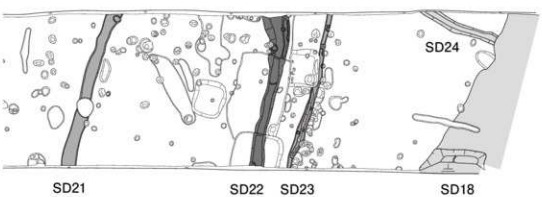


弥生
古代
中世

0
20m



第17図　E区　SD位置図



弥生
古代
中世

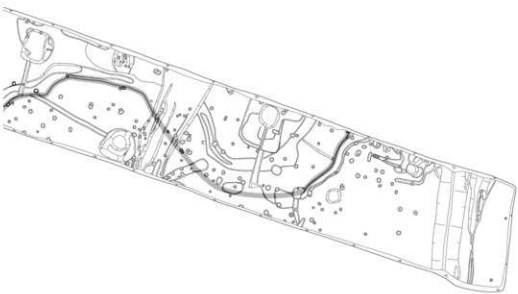
0
10m

第 18 図　A・B 区 SX・P 等位置図

SX1
P16
P23
P28
P29
P24
P37
P41
P25
P30
P38
P17
P18
P31
P32
P26
P33
P34
P39
P40
P76
P27
P35
P20
P21
P42
P22
P36

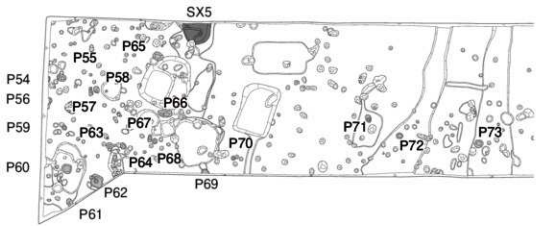
0
10m

第19図　C・D・F区　SX・P等位置図

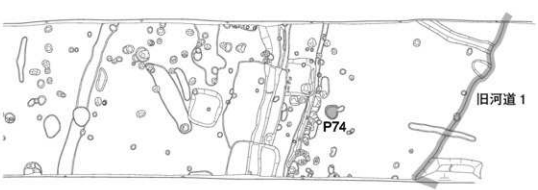


P75

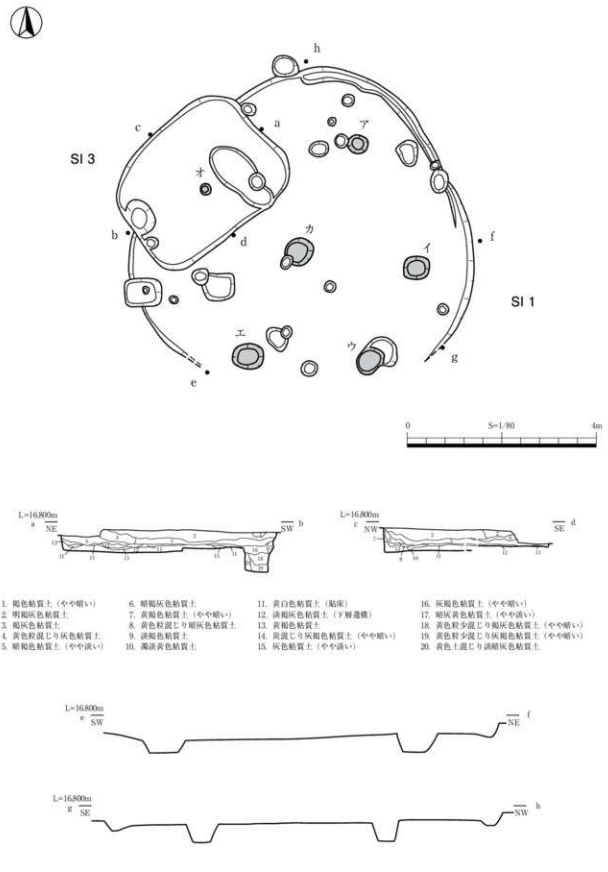
0
20m



第20図　E区　SX・P等位置図

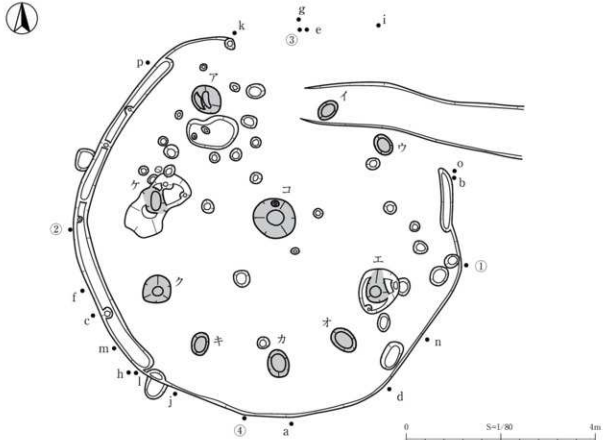

旧河道 1
P74

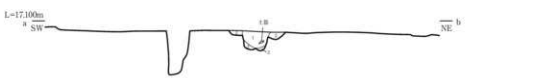
0
10m



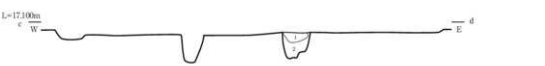
1. 褐色粘質土（やや暗い）
2. 明褐灰色粘質土
3. 褐灰色粘質土
4. 黄色粒混じり灰色粘質土
5. 暗褐色粘質土（やや淡い）
6. 暗褐灰色粘質土
7. 黄褐色粘質土（やや暗い）
8. 黄色粒混じり暗灰色粘質土
9. 淡褐色粘質土
10. 濁淡黄色粘質土
11. 黄白色粘質土（貼床）
12. 淡褐灰色粘質土（下層遺構）
13. 黄褐色粘質土
14. 灰褐じり灰褐色粘質土（やや暗い）
15. 灰色粘質土（やや淡い）
16. 灰褐色粘質土（やや暗い）
17. 暗灰黄色粘質土（やや淡い）
18. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
19. 黄色粒少混じり灰褐色粘質土（やや暗い）
20. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土

第 21 図　SI 1、3 遺構図（S=1/80）・土層断面図（S=1/60）





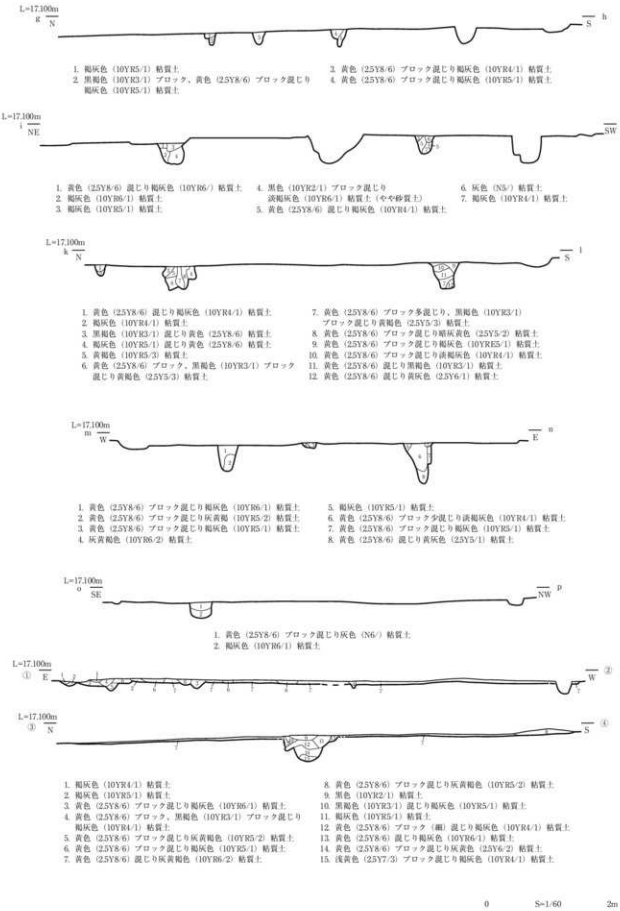
1. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土



1. 黄色（2.5Y8/6）ブロック，黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり黄褐色（10YR5/3）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり，黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり淡黄褐色（2.5Y5/3）粘質土

1. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック少混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
4. 黄色（2.5Y8/6）ブロック超多混じり，褐灰色（10YR4/1）ブロック混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
5. 淡褐灰色（10YR4/1）粘質土
6. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり黄褐色（10YR5/3）粘質土
7. 黄色（2.5Y8/6）ブロック，黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり淡灰色（N6/）粘質土

第 22 図　SI 2 遺構図（S=1/80）・土層断面図（S=1/60）



1. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
2. 黒褐色（10YR3/1）ブロック、黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
4. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土

1. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR6/）粘質土
2. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
3. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
4. 黒色（10YR2/1）ブロック混じり淡褐灰色（10YR6/1）粘質土（やや砂質土）
5. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
6. 灰色（N5/）粘質土
7. 褐灰色（10YR4/1）粘質土

1. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
2. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
3. 黒褐色（10YR3/1）混じり黄色（2.5Y8/6）粘質土
4. 褐灰色（10YR5/1）混じり黄色（2.5Y8/6）粘質土
5. 黄褐色（10YR5/3）粘質土
6. 黄色（2.5Y8/6）ブロック、黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
7. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり、黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
8. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰黄色（2.5Y5/2）粘質土
9. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YRE5/1）粘質土
10. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり淡褐灰色（10YR4/1）粘質土
11. 黄色（2.5Y8/6）混じり黒褐色（10YR3/1）粘質土
12. 黄色（2.5Y8/6）混じり黄灰色（2.5Y6/1）粘質土

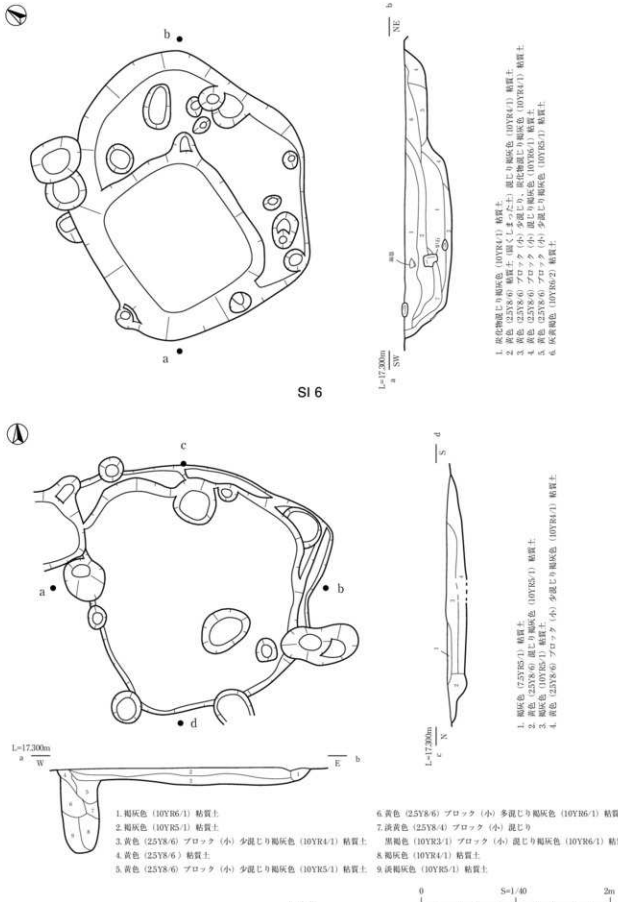
1. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰黄褐（10YR5/2）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
4. 灰黄褐色（10YR6/2）粘質土
5. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
6. 黄色（2.5Y8/6）ブロック少混じり淡褐灰色（10YR4/1）粘質土
7. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
8. 黄色（2.5Y8/6）混じり黄灰色（2.5Y5/1）粘質土

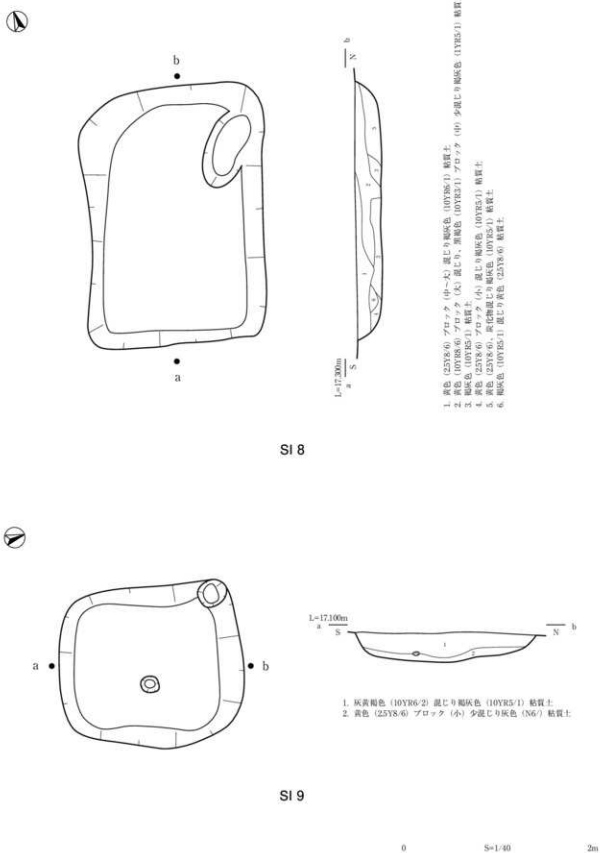
1. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰色（N6/）粘質土
2. 褐灰色（10YR6/1）粘質土

1. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
2. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
4. 黄色（2.5Y8/6）ブロック、黒褐色（10Y R3/1）ブロック混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
5. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰黄褐色（10YR5/2）粘質土
6. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
7. 黄色（2.5Y8/6）混じり灰黄褐色（10YR6/2）粘質土
8. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰黄褐色（10YR5/2）粘質土
9. 黒色（10YR2/1）粘質土
10. 黒褐色（10YR3/1）混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
11. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
12. 黄色（2.5Y8/6）ブロック（細）混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
13. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
14. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰黄色（2.5Y6/2）粘質土
15. 浅黄色（2.5Y7/3）ブロック混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土

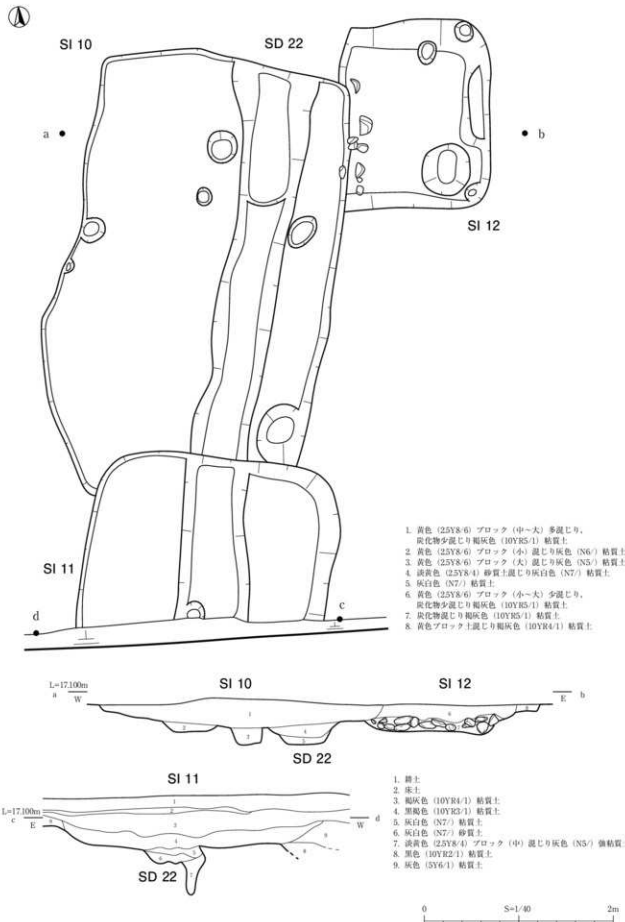
第23図　SI 2 土層断面図（S=1/60）

第 24 図　SI 4、5 遺構図・土層断面図（S=1/40）

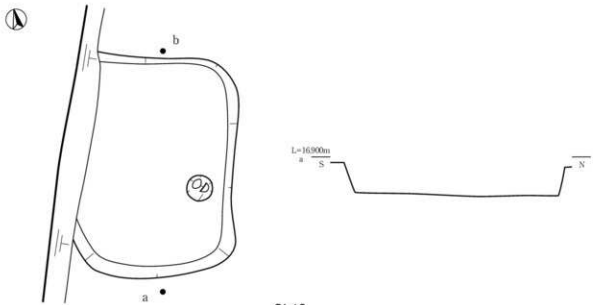

SI 6
1. 褐色（10YR4/4）粘質土
2. 褐色（10YR5/3）粘質土
3. 褐色（10YR4/4）粘質土
4. 褐色（10YR4/4）粘質土
5. 褐色（10YR4/4）粘質土
6. 褐色（10YR4/4）粘質土
7. 褐色（10YR4/4）粘質土
8. 褐色（10YR4/4）粘質土
9. 褐色（10YR4/4）粘質土
10. 褐色（10YR4/4）粘質土
11. 褐色（10YR4/4）粘質土
12. 褐色（10YR4/4）粘質土
13. 褐色（10YR4/4）粘質土
14. 褐色（10YR4/4）粘質土
15. 褐色（10YR4/4）粘質土
16. 褐色（10YR4/4）粘質土
17. 褐色（10YR4/4）粘質土
18. 褐色（10YR4/4）粘質土
19. 褐色（10YR4/4）粘質土
20. 褐色（10YR4/4）粘質土
21. 褐色（10YR4/4）粘質土
22. 褐色（10YR4/4）粘質土



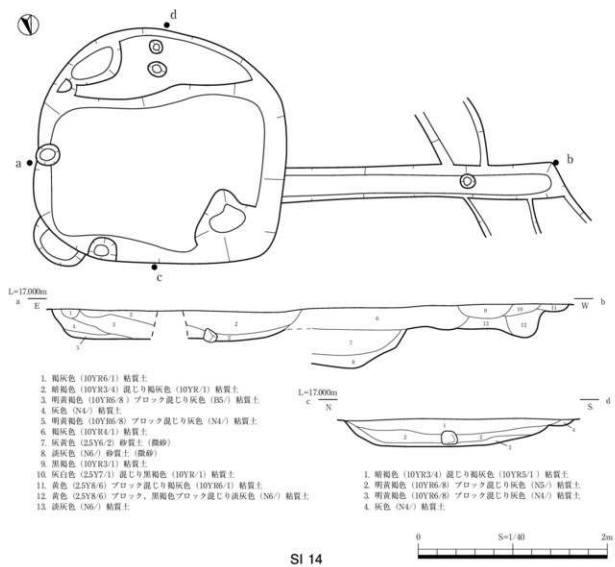
第 26 図　SI 8、9 遺構図・土層断面図（S=1/40）



第 27 図　SI 10、11、12 遺構図・土層断面図（S=1/40）

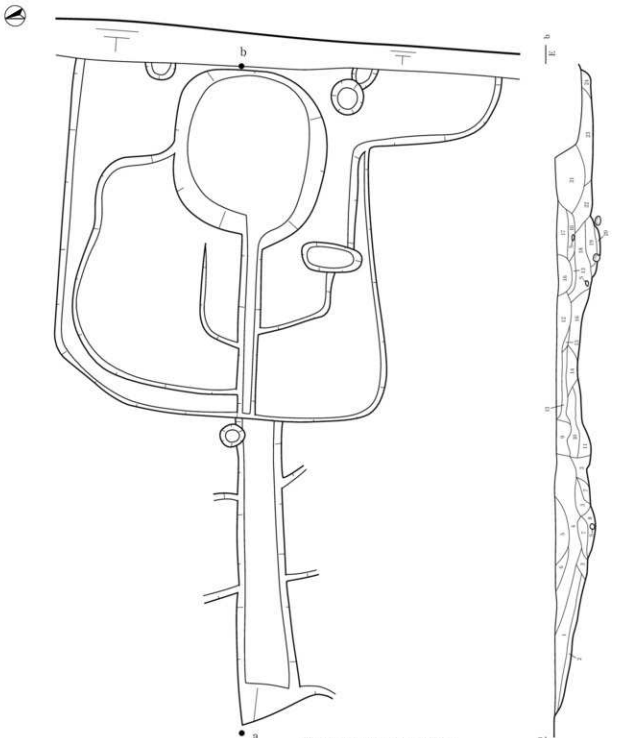


SI 13

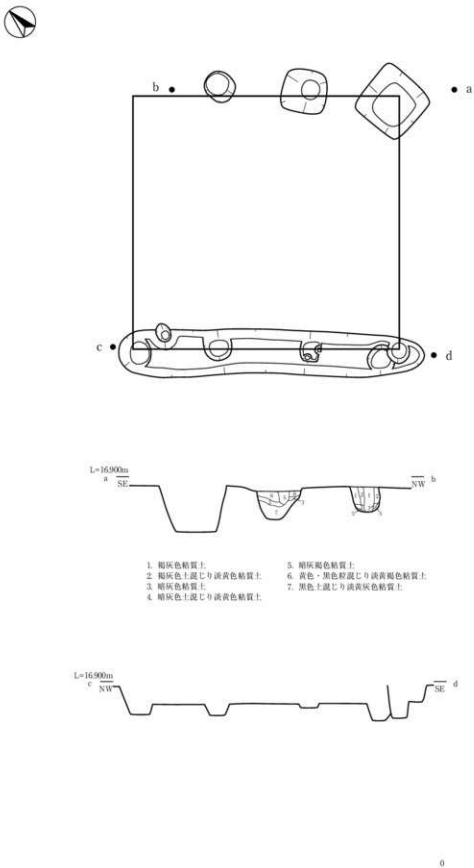


SI 14

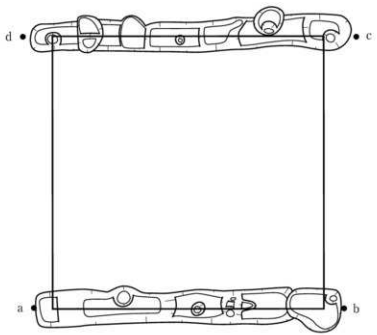
第 28 図　SI 13、14 遺構図・土層断面図（S=1/40）



第 29 図　SI 15 遺構図・土層断面図（S=1/40）

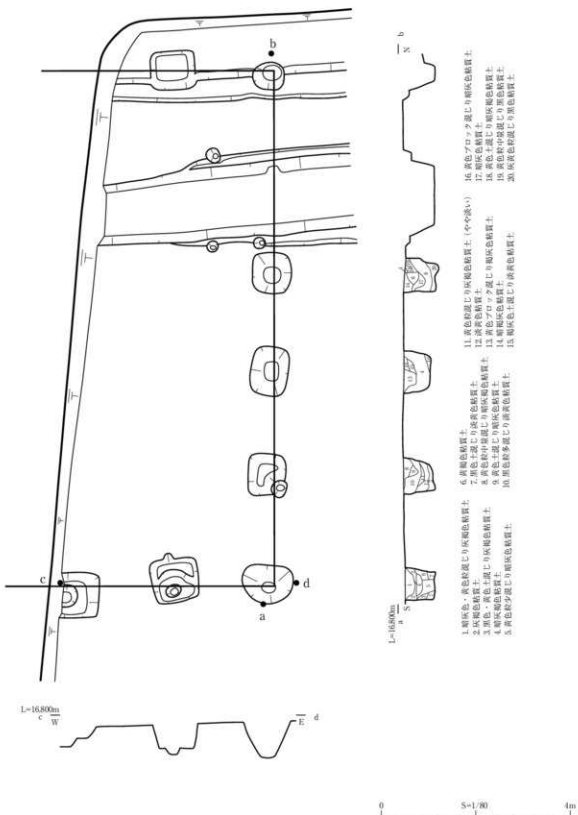


第 30 図　SB 1 遺構図・土層断面図（S=1/60）

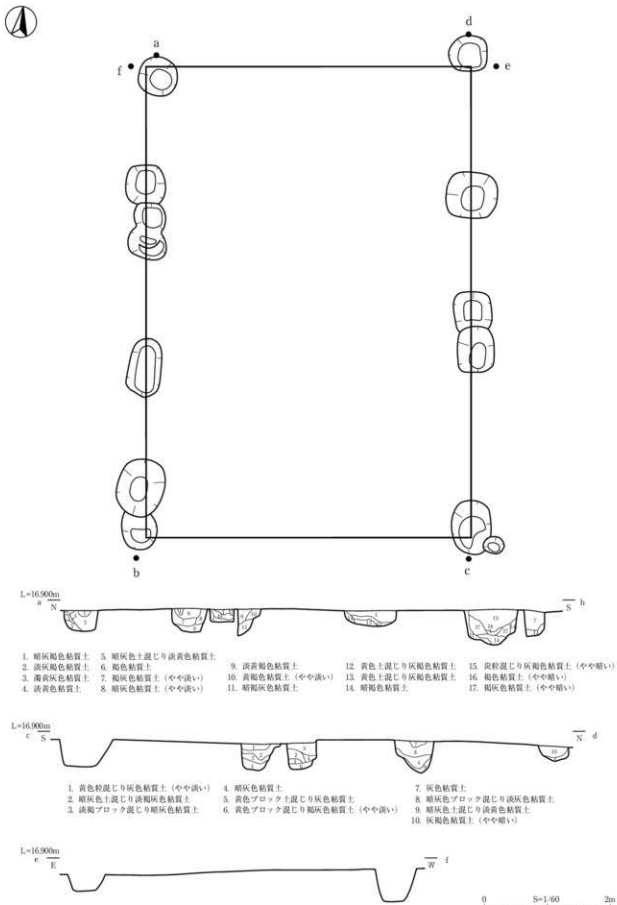


1. 褐色粘質土（やや暗い）
2. 灰褐色土混じり淡黄色粘質土
3. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
4. 褐灰色粘質土
5. 黄白色ブロック多混じり褐色粘質土
6. 黄色土混じり褐灰色粘質土
7. 黄白色土混じり褐灰色粘質土
8. 黄白色ブロック少混じり灰褐色粘質土（やや暗い）
9. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土
10. 褐灰色粘質土
11. 黄色土混じり褐色粘質土
12. 黄色土少混じり暗灰色粘質土（やや暗い）
13. 黄白色土混じり暗灰色粘質土
14. 淡黄褐色粘質土（やや暗い）
15. 淡黄褐色粘質土（やや暗い）
16. 淡黄色粘質土（地山質）
17. 黄色土混じり暗灰色粘質土（やや淡い）

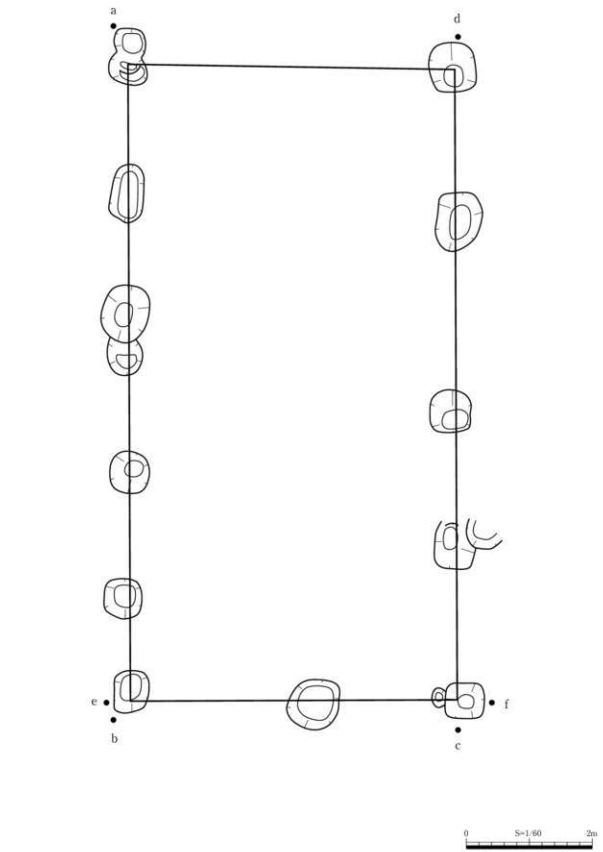
第31図　SB２遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 32 図　SB 3 遺構図・土層断面図（S=1/80）

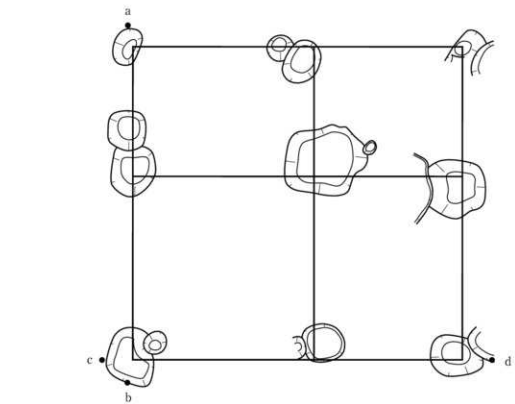


第 33 図　SB 4 遺構図・土層断面図（S=1/60）



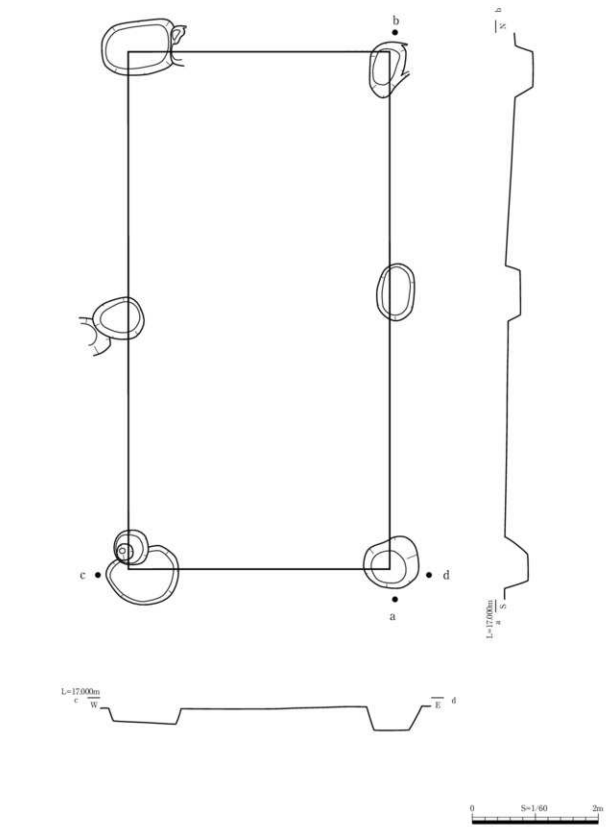
第 34 図　SB 5 遺構図（S=1/60）

第 35 図　SB 5 土層断面図（S=1/60）

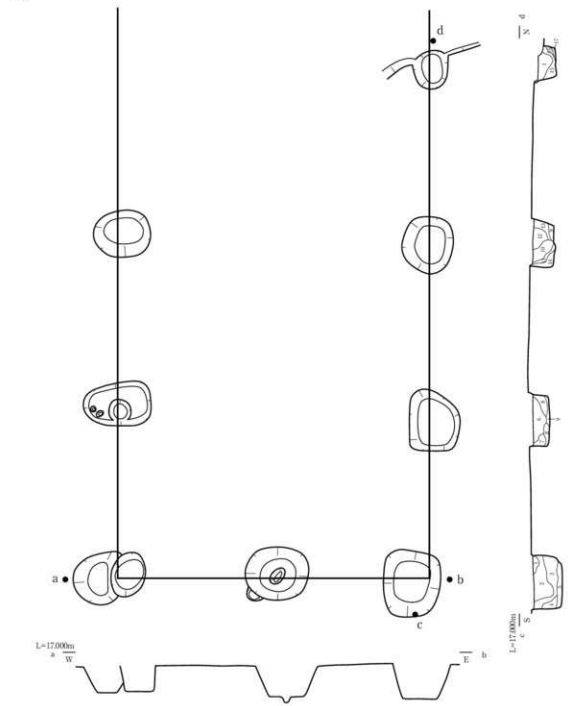


1. 黄色ブロック混じり褐色粘質土（やや明い）
2. 淡黄褐色粘質土
3. 暗灰色粘質土
4. 淡黄褐色粘質土（3らに淡い）
5. 暗褐色粘質土
6. 淡黄色粘質土（やや明い）
7. 褐色粘質土（やや淡い）
8. 黄褐色粘質土
9. 灰褐色粘質土（やや明い）
10. 明灰褐色粘質土
11. 淡明黄褐色粘質土
12. 褐色粘質土（やや明い）
13. 黄色ブロック混じり褐色粘質土

第 36 図　SB 6 遺構図・土層断面図（S=1/60）



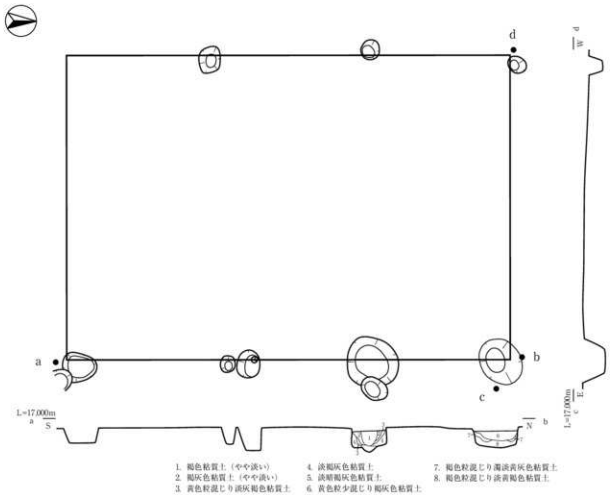
第 37 図　SB 7 遺構図・土層断面図（S=1/60）



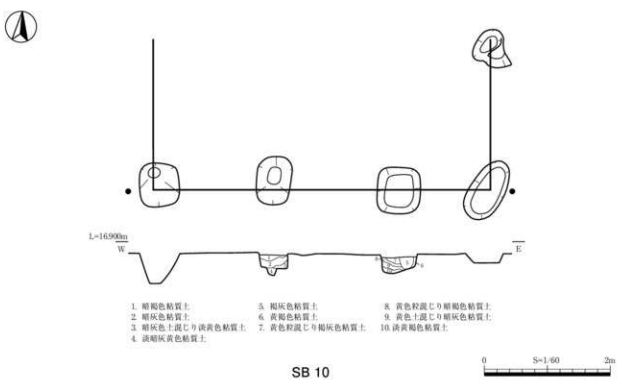
1. 褐色粘質土
2. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土
3. 黄色粒多混じり淡灰褐色粘質土（やや暗い）
4. 黄色土混じり淡明灰色粘質土
5. 灰色土混じり淡黄色
6. 黄色土混じり褐灰色粘質土
7. 淡灰褐色粘質土
8. 淡褐色粘質土
9. 淡黄褐色粘質土
10. 暗灰色粘質土
11. 灰褐色粘質土（やや暗い）
12. 褐灰色粘質土
13. 黄色粒少混じり褐色粘質土（やや暗い）
14. 淡灰黄色粘質土
15. 黄色粒中量混じり暗灰褐色粘質土
16. 黄色土混じり褐灰色粘質土
17. 黄色粒少混じり暗灰色粘質土

0　S=1/60　2m

第 38 図　SB 8 遺構図・土層断面図（S=1/60）

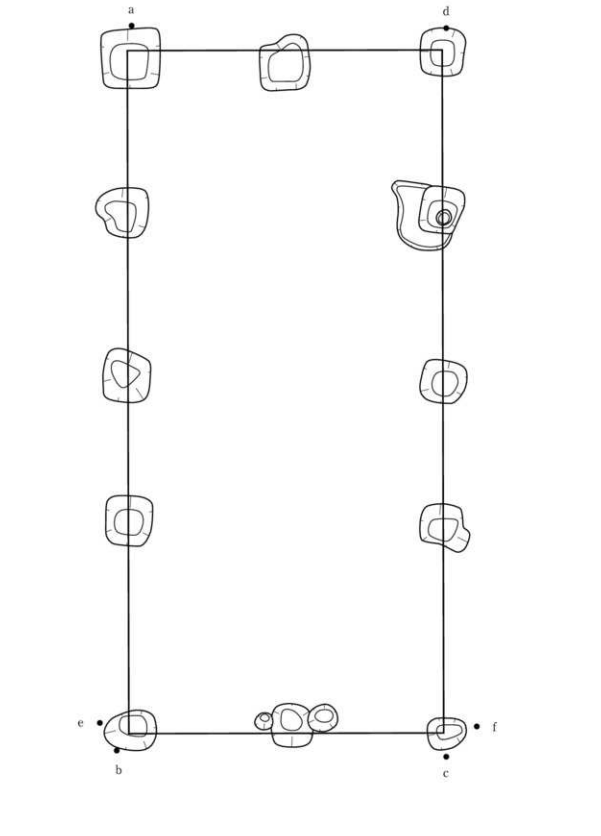


SB 9

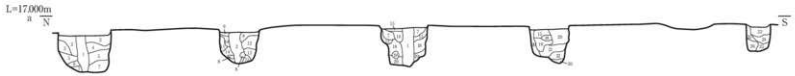


SB 10

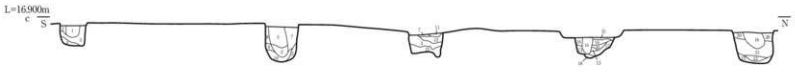
第 39 図　SB 9、10 遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 40 図　SB 11 遺構図（S=1/60）



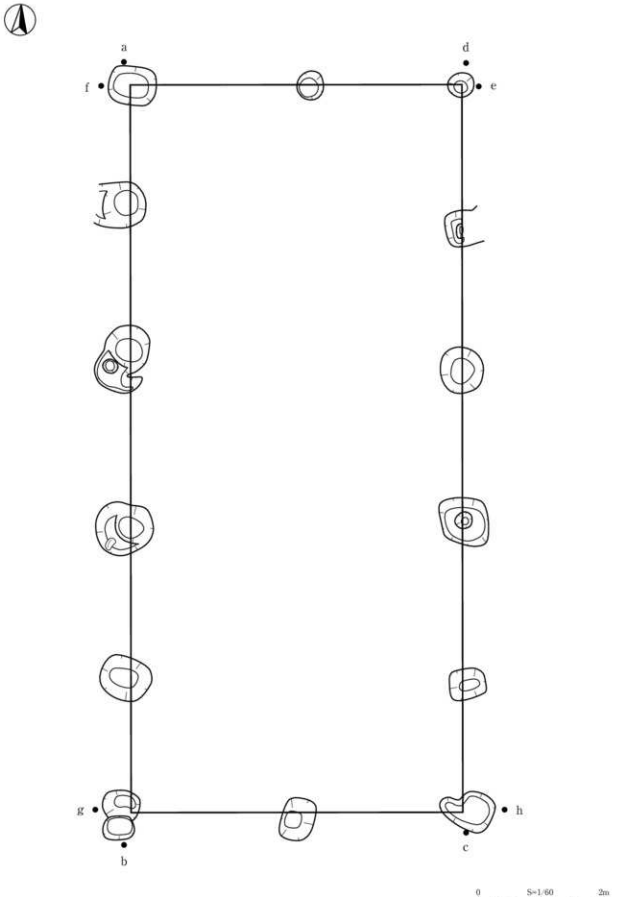
1. 褐色粘質土
2. 暗灰色粘質土
3. 灰褐色粘質土
4. 暗褐灰色粘質土
5. 黄色粒混じり淡暗褐灰色粘質土
6. 淡暗灰黄色粘質土
7. 黄色土中量混じり暗褐灰色粘質土（やや濃い）
8. 淡黄色粘質土
9. 黄色粒混じり淡褐色粘質土
10. 黄色粒中量混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
11. 灰褐色粘質土（やや暗い）
12. 黄色粒少混じり暗灰褐色粘質土
13. 黒色ブロック土混じり淡灰黄色粘質土
14. 黄色粒少混じり暗灰色粘質土
15. 暗灰褐色粘質土（やや濃い）
16. 淡灰褐色粘質土
17. 黄色土混じり褐灰色粘質土
18. 黄色土多混じり暗灰褐色粘質土
19. 淡暗灰褐色粘質土
20. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土
21. 褐色・暗灰色土混じり淡黄色粘質土
22. 黄色土混じり暗灰色粘質土
23. 黒色・黄色粒混じり灰色粘質土
24. 黒色粒少混じり淡灰褐色粘質土
25. 淡黄褐色粘質土
26. 黒色土混じり淡黄灰色粘質土



1. 褐色粘質土
2. 黄色粒多混じり褐灰色粘質土
3. 淡黄褐色粘質土
4. 淡灰灰色粘質土
5. 黄色粒中量混じり暗褐灰色粘質土
6. 暗灰褐色粘質土（やや濃い）
7. 黄色粒多混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
8. 黄色土混じり淡灰色粘質土
9. 淡褐色土混じり淡黄色粘質土
10. 淡黄色粘質土
11. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土
12. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
13. 黄色土混じり淡褐灰色粘質土
14. 褐灰色粘質土
15. 黄色粒多混じり褐灰色粘質土（やや濃い）
16. 黄色粒少混じり褐色粘質土（やや暗い）
17. 黄色土混じり褐灰色粘質土
18. 褐色土混じり淡黄色粘質土
19. 褐灰色強粘質土
20. 褐灰色粘質土（やや暗い）
21. 暗灰色土多混じり淡黄色粘質土
22. 黄色ブロック土混じり淡褐灰色粘質土
23. 淡灰色土混じり淡黄色粘質土

1. 黒色・黄色粒多混じり褐色粘質土
2. 黄色土混じり淡灰褐色粘質土
3. 褐色・灰色粒混じり淡黄色粘質土
4. 淡黄褐色粘質土
5. 淡黄色粘質土（地山）

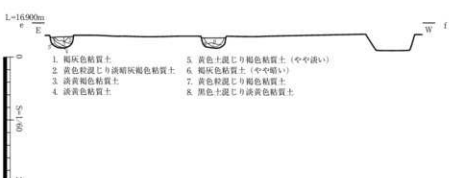
第41図　SB11土層断面図（S=1/60）



第 42 図　SB 12 遺構図（S=1/60）

1. 褐色粘質土（やや暗い）
2. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
3. 黄色土混じり暗灰色粘質土
4. 黄色土混じり淡褐色粘質土
5. 淡黄褐色粘質土
6. 淡褐色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡灰色土混じり淡黄色粘質土
8. 褐灰色粘質土（やや暗い）
9. 黄色ブロック混じり褐灰色粘質土
10. 黄色土混じり褐灰色粘質土
11. 灰褐色粘質土（やや暗い）
12. 黄色粒中量混じり淡褐色粘質土
13. 黄色粒少量混じり褐灰色粘質土
14. 褐色土混じり淡黄色粘質土
15. 暗灰褐色粘質土
16. 暗灰褐色粘質土（やや淡い）
17. 黄色土混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
18. 黄色土混じり灰褐色粘質土
19. 黄色土混じり淡褐灰色粘質土
20. 暗灰色粒混じり淡褐灰色粘質土
21. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土
22. 暗褐灰色粘質土
23. 暗灰色粘質土
24. 灰褐色粘質土
25. 黒色・黄色粒小量混じり灰褐色粘質土
26. 淡褐色粘質土
27. 黄色ブロック混じり淡褐色粘質土
28. 黄色ブロック混じり淡褐灰色粘質土
29. 黄色粒中量混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
30. 黄色粒多混じり淡褐色粘質土
31. 淡黄灰色粘質土
32. 黒色・褐色土混じり黄白色粘質土
33. 黄色粒少混じり淡灰褐色粘質土

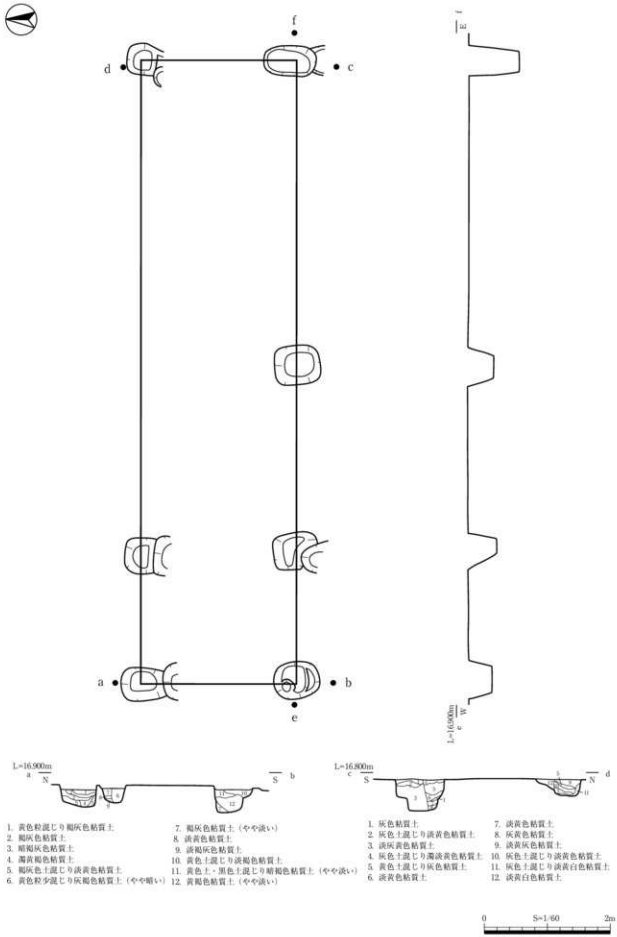
1. 暗褐色粒混じり淡黄褐色粘質土
2. 淡黄灰色粘質土
3. 褐色粘質土（やや暗い）
4. 褐灰色粘質土（やや暗い）
5. 淡黄褐色粘質土
6. 淡黄色粘質土（地山質）
7. 淡灰褐色粘質土（やや暗い）
8. 黄色粒中量混じり褐色粘質土
9. 灰褐色粘質土（やや暗い）
10. 黄色土混じり淡灰色粘質土
11. 暗灰色混じり淡黄色粘質土
12. 淡灰黄色粘質土
13. 褐灰色粘質土
14. 黄色土多混じり褐灰色粘質土
15. 黄色土混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
16. 淡黄色粘質土



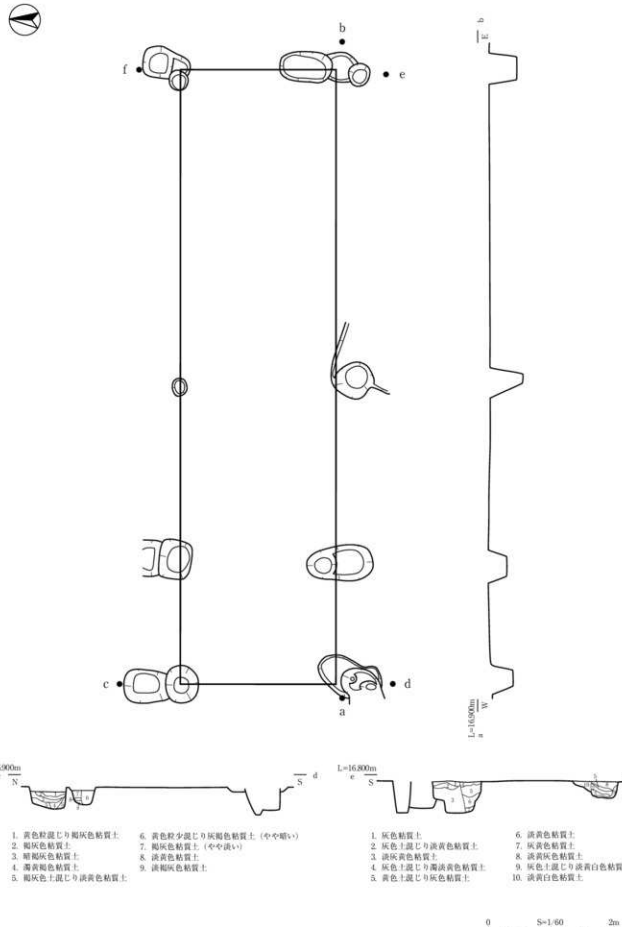
1. 褐灰色粘質土
2. 黄色粒混じり淡暗灰褐色粘質土
3. 淡黄褐色粘質土
4. 淡黄色粘質土
5. 黄色土混じり褐色粘質土（やや淡い）
6. 褐灰色粘質土（やや暗い）
7. 黄色粒混じり褐色粘質土
8. 黒色土混じり淡黄色粘質土

1. 黒色・黄色粒多混じり褐色粘質土
2. 黒色・黄色粒混じり灰色粘質土
3. 褐色・灰色土混じり淡黄色粘質土
4. 淡灰黄色粘質土
5. 淡黄褐色粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土

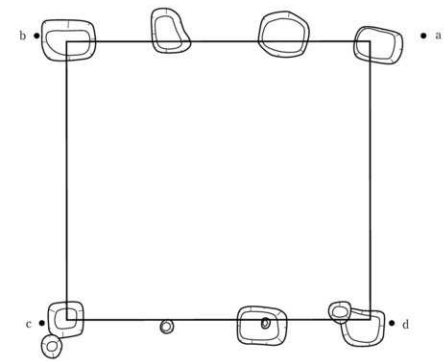
第43図　SB 12 土層断面図（S=1/60）



第 44 図　SB 13 遺構図・土層断面図（S=1/60）

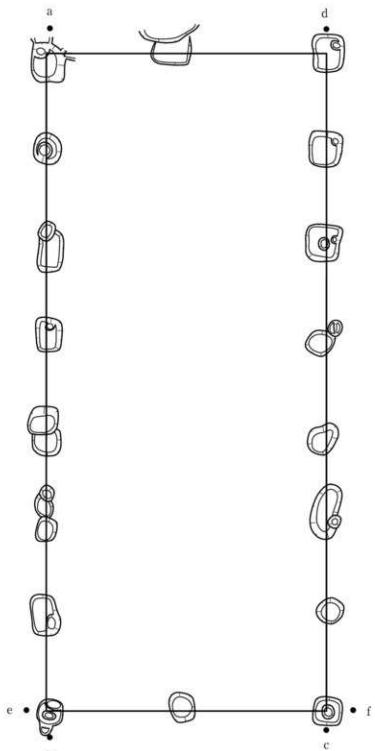


第 45 図　SB 14 遺構図・土層断面図（S=1/60）



1. 黄色粒混じり褐色粘質土
2. 黒色土混じり淡黄褐色粘質土
3. 灰白色粘質土
4. 黄褐色粘質土
5. 褐色粘質土（やや淡い）
6. 淡黄色粘質土
7. 淡黄褐色粘質土
8. 黄色粒混じり暗褐色粘質土
9. 黄色粒混じり淡暗灰色粘質土
10. 淡赤褐色粘質土

第 46 図　SB 15 遺構図・土層断面図（S=1/60）



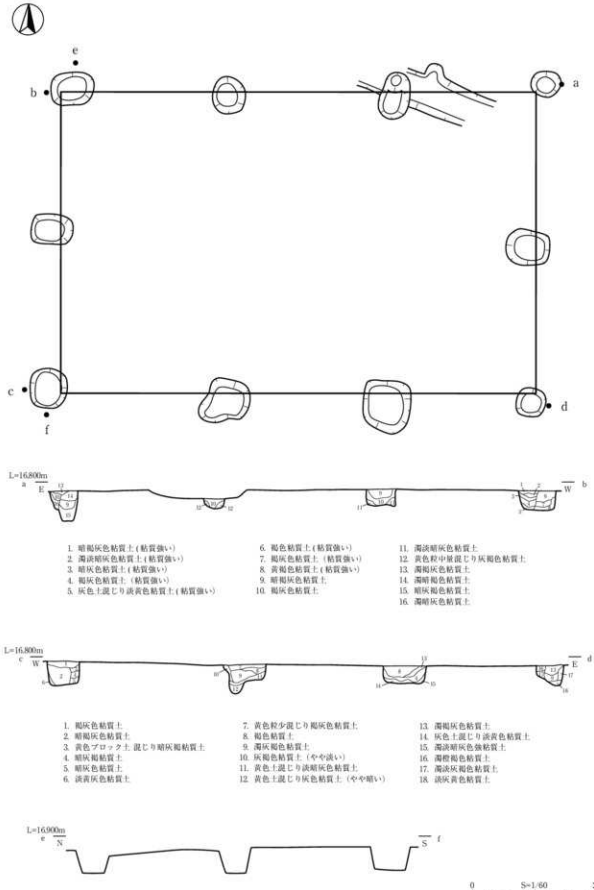
第 47 図　SB 16 遺構図（S=1/80）

1. 黄色土混じり淡灰色粘質土
2. 灰黄色粘質土
3. 淡灰色粘質土
4. 灰色土混じり淡黄色粘質土
5. 褐灰色粘質土（やや淡い）
6. 灰褐色粘質土
7. 淡灰黄色粘質土
8. 褐灰色粘質土
9. 黄色土混じり灰色粘質土
10. 黄色土混じり褐灰色粘質土
11. 灰褐色強粘質土
12. 灰褐色強粘質土
13. 灰灰色粘質土
14. 黄色土混じり暗灰色粘質土
15. 淡黄色土混じり灰色粘質土
16. 灰色土混じり灰黄色粘質土
17. 褐色砂質土
18. 淡暗灰色砂質土
19. 暗灰色砂質土
20. 灰黄色砂質土
21. 褐灰色砂質土
22. 淡黄色粘質土
23. 橙黄色粘質土
24. 褐灰色粘質土（やや暗い）
25. 褐灰粘質土
26. 淡黄色砂質土
27. 暗褐色粘質土
28. 暗灰褐色粘質土（やや淡い）
29. 灰色粘質土
30. 灰灰褐色粘質土
31. 暗灰色土混じり淡黄色砂質土
32. 黄色ブロック土混じり灰褐色砂質土
33. 淡暗灰色強粘質土
34. 暗灰色強粘質土
35. 灰褐灰色粘質土
36. 灰橙褐色粘質土
37. 黄色ブロック土混じり褐色粘質土
38. 黄色粒中量混じり褐色粘質土
39. 淡暗褐色粘質土

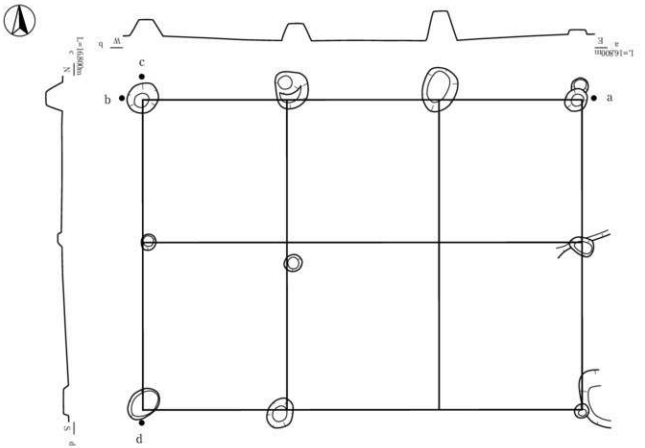
1. 灰褐色粘質土
2. 灰褐灰色粘質土
3. 灰灰黄色粘質土
4. 暗灰色粘質土
5. 暗灰色土混じり灰淡黄色粘質土
6. 黄色土混じり灰色粘質土
7. 灰淡灰黄色粘質土
8. 淡黄灰色砂質土（亀砂）
9. 淡黄灰色砂質土（細砂）
10. 灰褐色粘質土
11. 暗褐色粘質土
12. 黄色土混じり暗灰褐色粘質土
13. 黄色土混じり灰褐色粘質土
14. 黄色粘混じり褐灰色粘質土
15. 暗灰色粘混じり淡黄色粘質土
16. 褐灰色粘質土
17. 黄色津粒混じり褐灰色粘質土
18. 淡黄色粘質土
19. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土
20. 淡黄褐色粘質土
21. 黄色ブロック土混じり暗灰色粘質土
22. 淡褐色粘質土
23. 淡暗褐色粘質土
24. 黄色土混じり暗灰色粘質土
25. 淡灰灰色粘質土

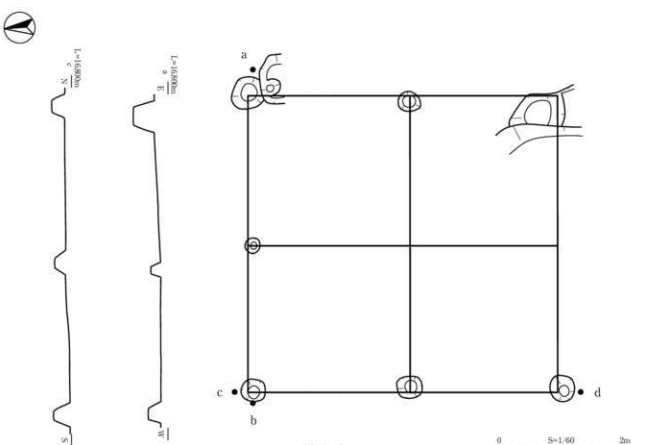
1. 淡褐灰色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 灰褐色強粘質土
4. 淡黄灰色粘質土
5. 淡暗灰色粘質土
6. 淡灰黄色粘質土

第48図　SB16土層断面図（S=1/80）

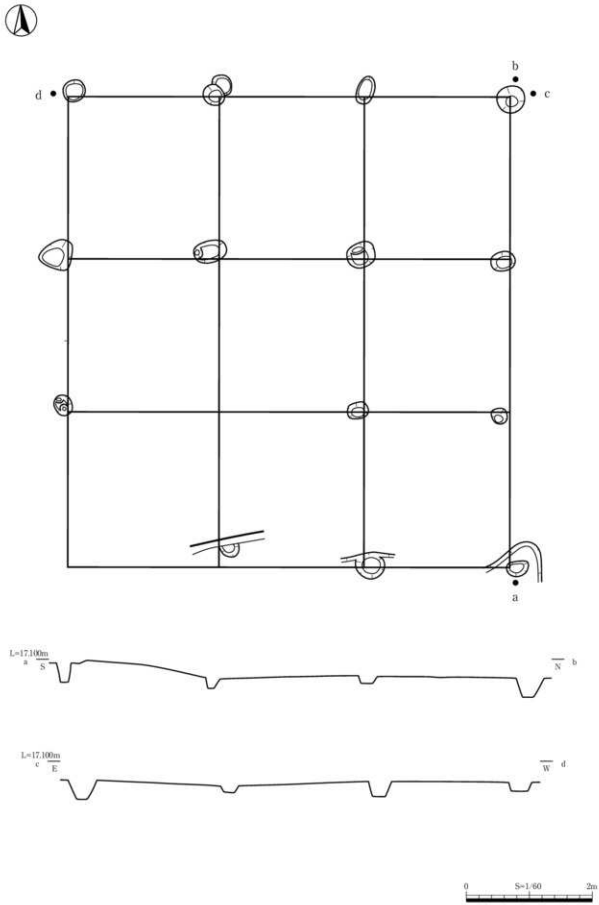


第 49 図　SB 17 遺構図・土層断面図（S=1/60）

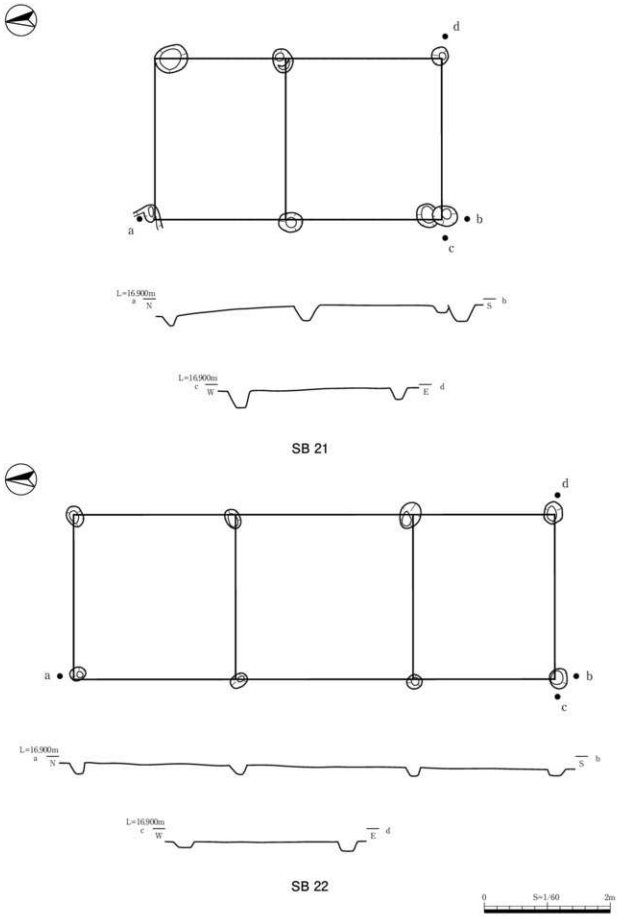




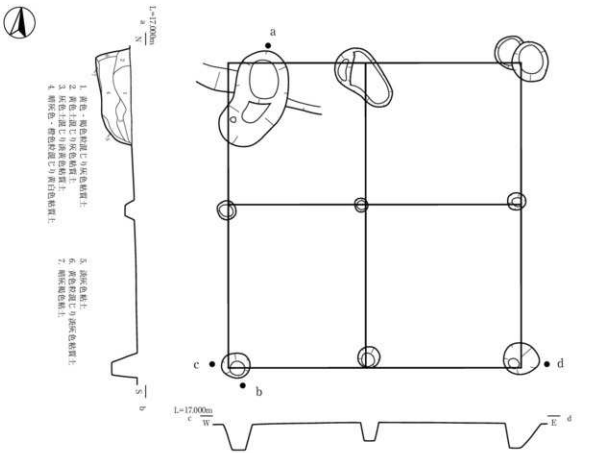
第 50 図　SB 18、19 遺構図・土層断面図（S=1/60）



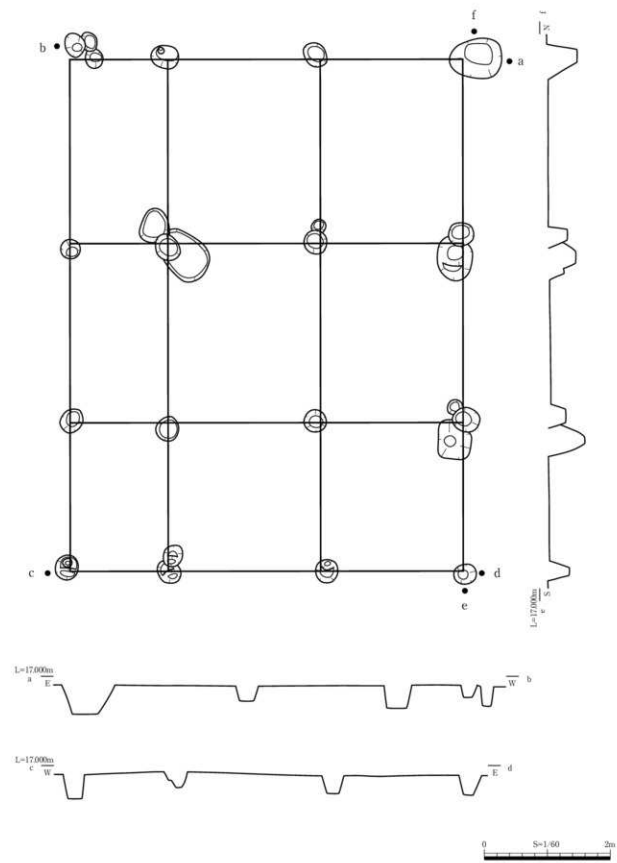
第 51 図　SB 20 遺構図・土層断面図（S=1/60）



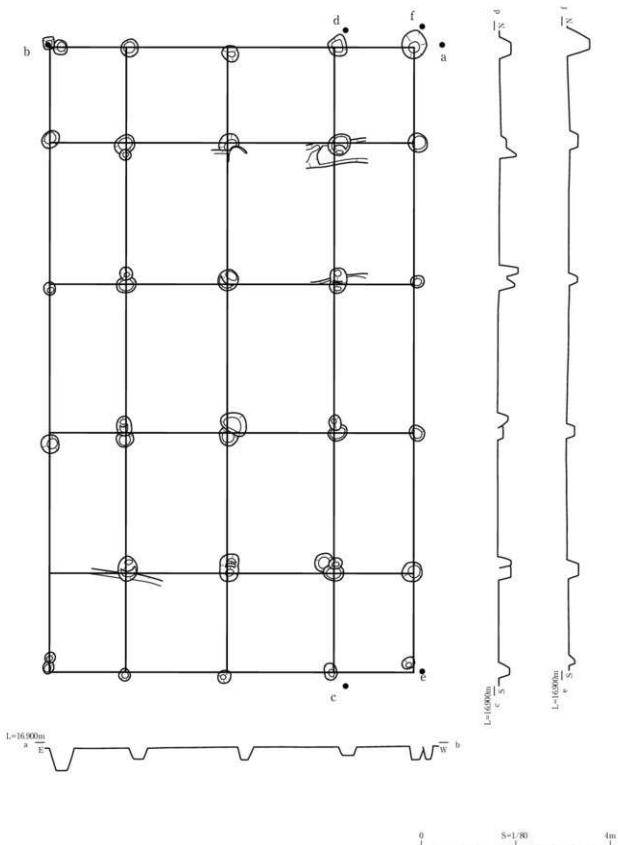
第 52 図　SB 21、22 遺構図・土層断面図（S=1/60）



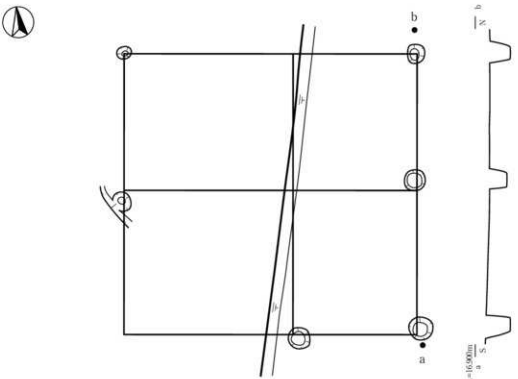
第 53 図　SB 23、24 遺構図・土層断面図（S=1/60）



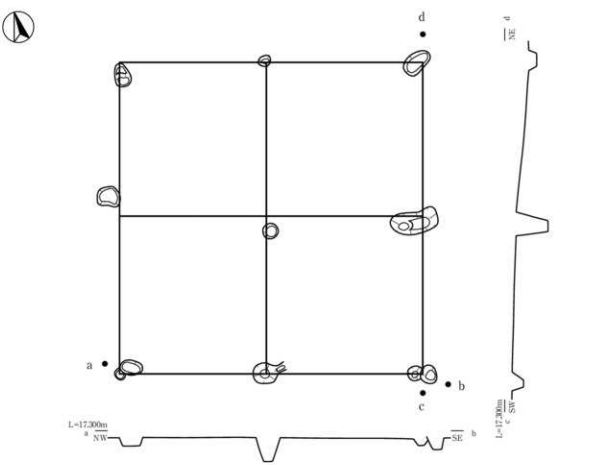
第 54 図　SB 25 遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 55 図　SB 26 遺構図・土層断面図（S=1/80）

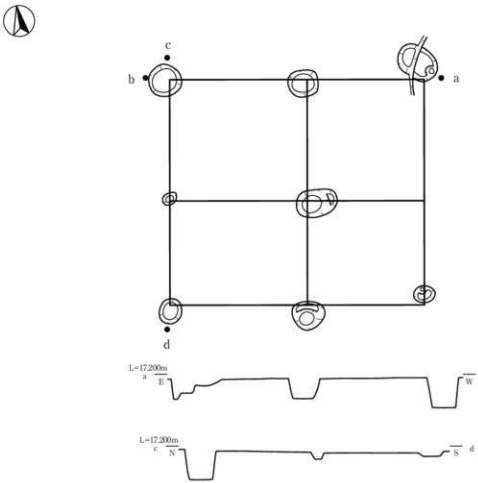


SB 27

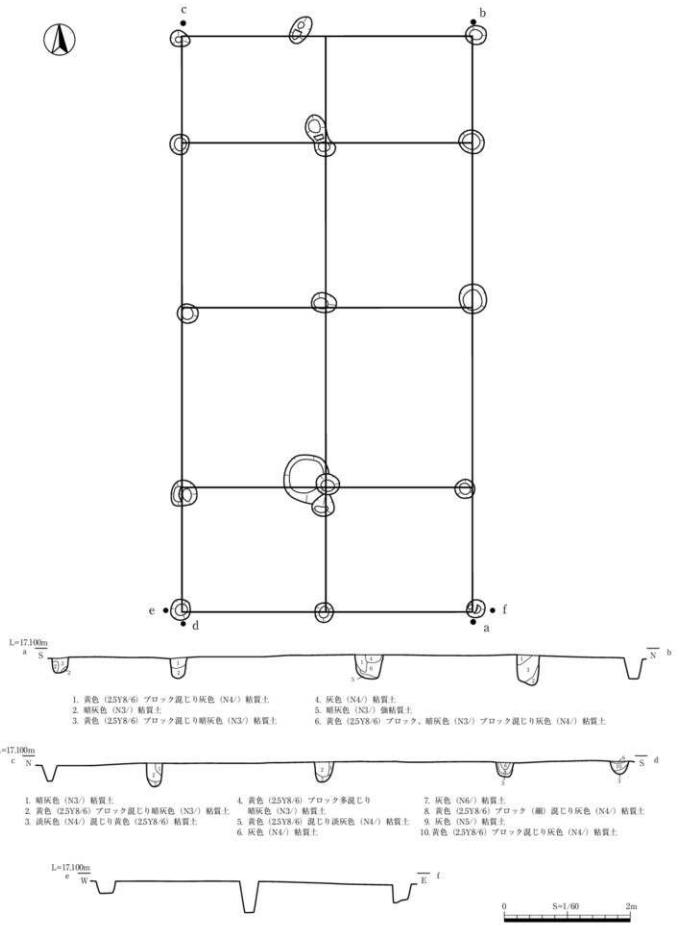


SB 39

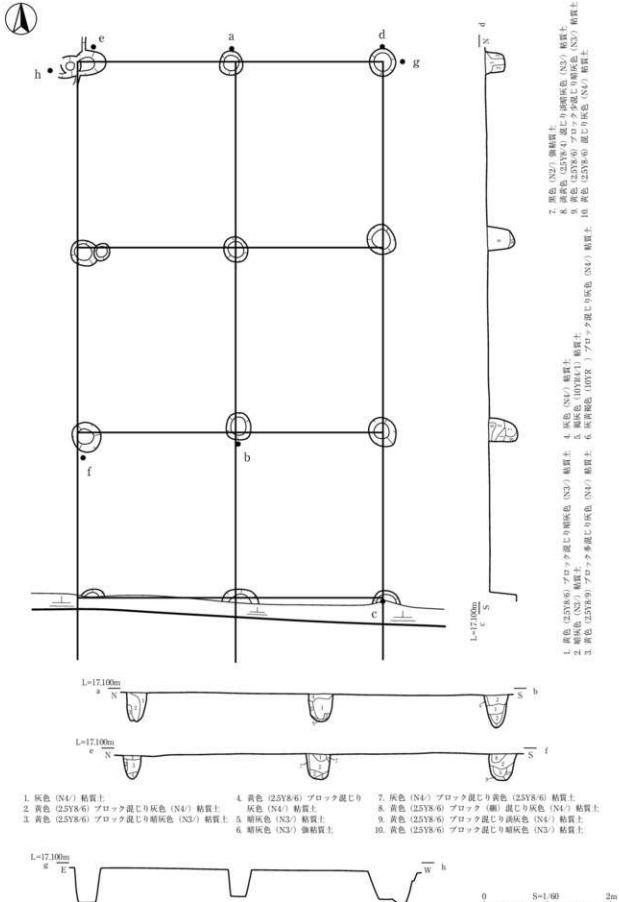
第 56 図　SB 27、39 遺構図・土層断面図（S=1/60）



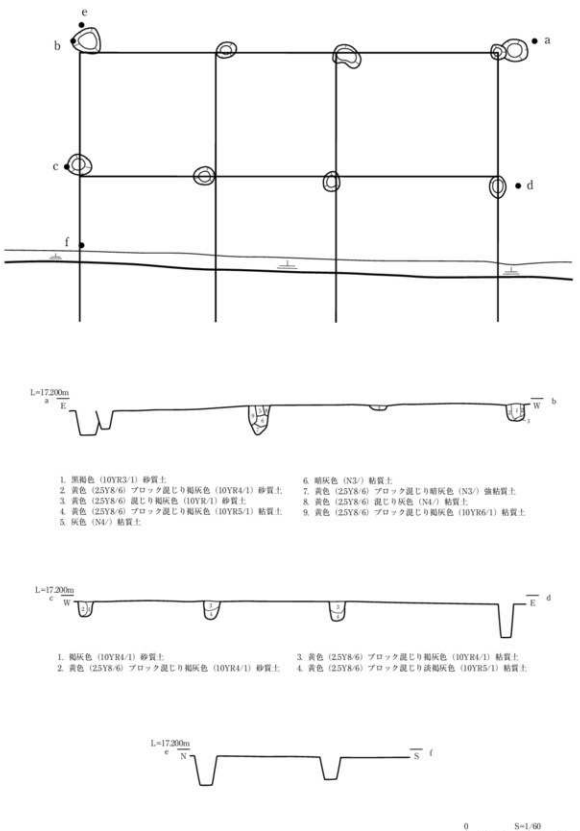
第 57 図　SB 28、29 遺構図・土層断面図（S=1/60）



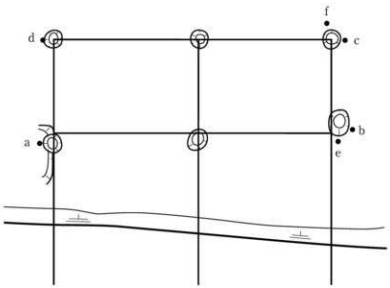
第 58 図　SB 30 遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 59 図　SB 31 遺構図・土層断面図（S=1/60）

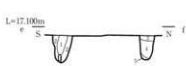


第 60 図　SB 32 遺構図・土層断面図（S=1/60）



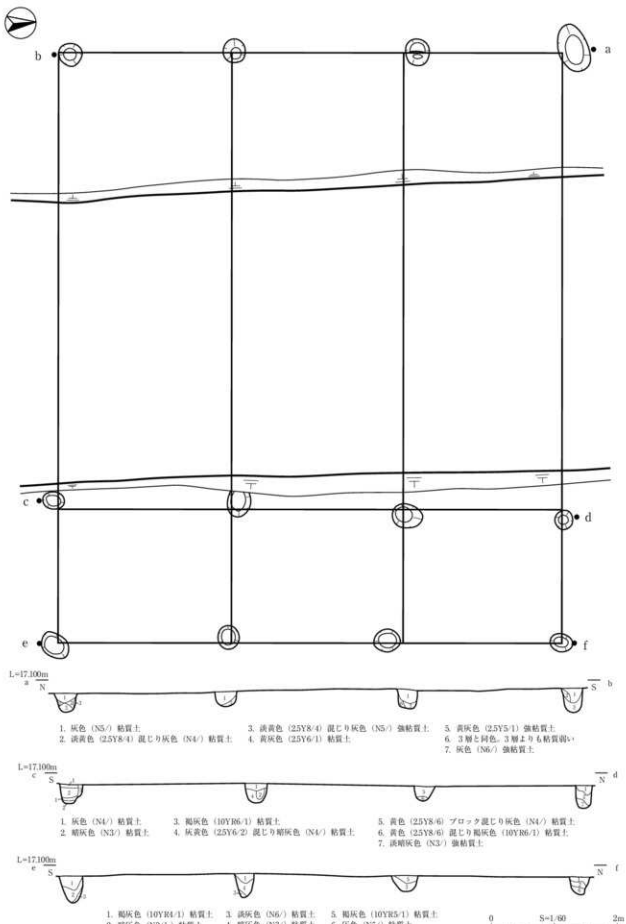
1. 灰色（N4/）粘質土（炭化物混じる）
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰色（N4/）強粘質土
3. 灰色（N4/）強粘質土
4. にぶい黄橙色（10YR6/4）混じり灰色（N4/）粘質土

1. 灰色（N4/）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり暗灰色（N3/）強粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰色（N5/）粘質土
4. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり灰色（N5/）強粘質土

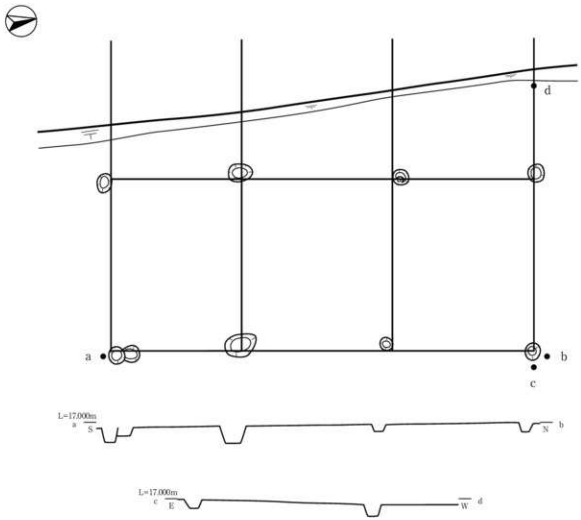


1. 灰色（N5/）混じり黄色（2.5Y8/6）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック、炭化物混じり灰色（N5/）粘質土
3. 灰色（N5/）粘質土
4. 灰色（N4/）強粘質土
5. 黄色（2.5Y8/6）混じり淡灰色（N5/）粘質土

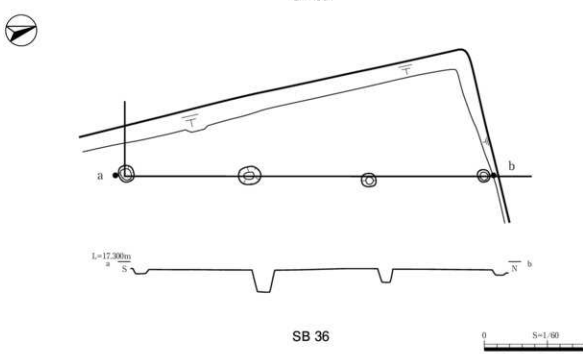
第 61 図　SB 33 遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 62 図　SB 34 遺構図・土層断面図（S=1/60）

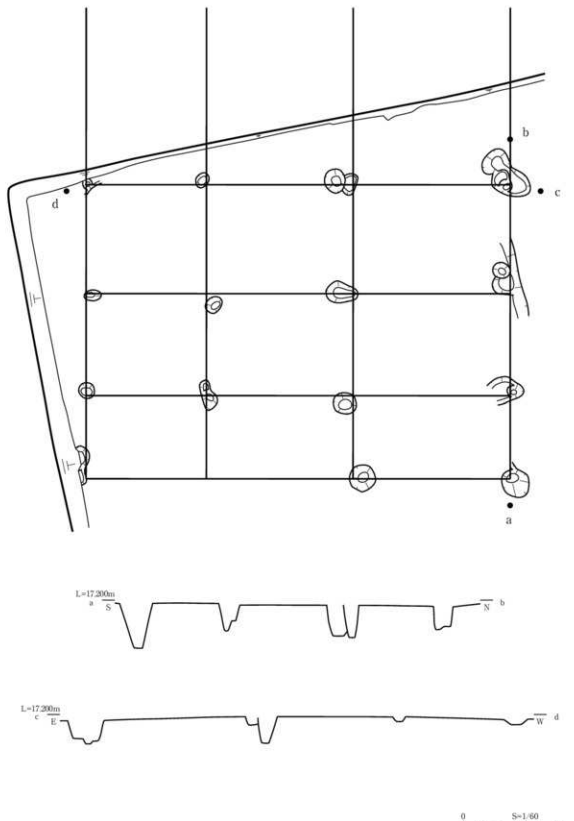


SB 35

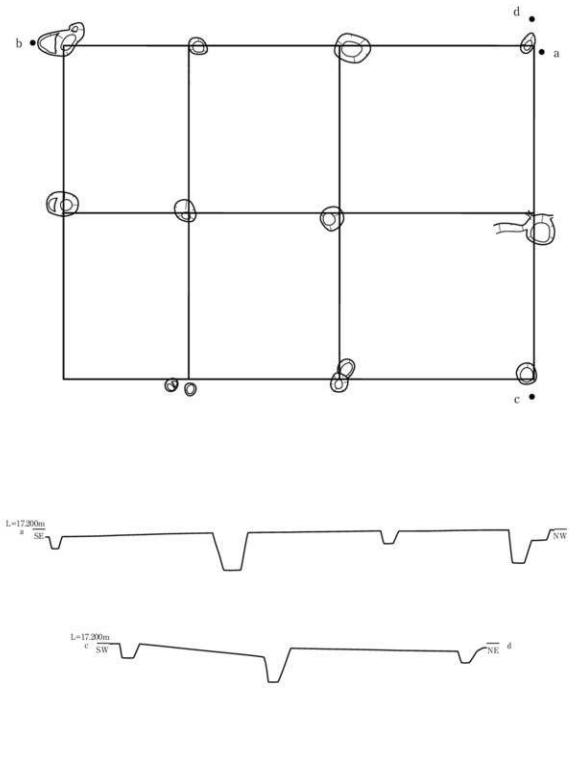


SB 36

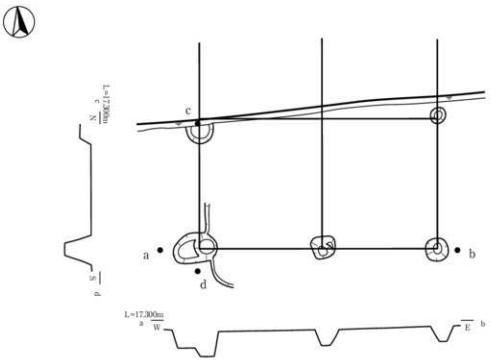
第 63 図　SB 35、36 遺構図・土層断面図（S=1/60）



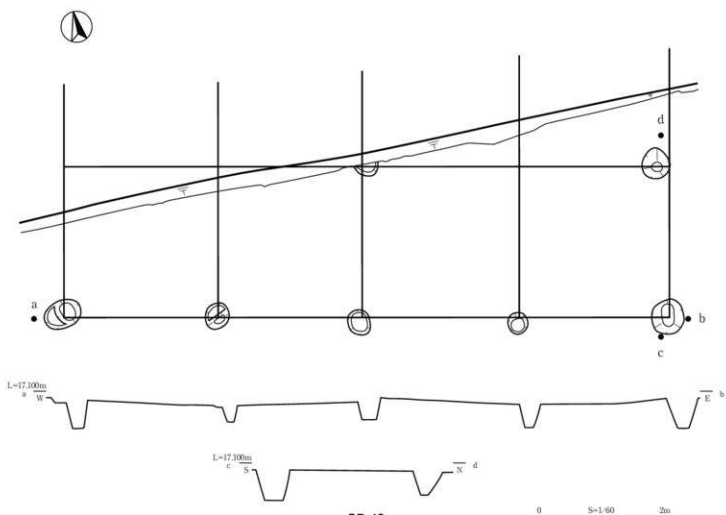
第 64 図　SB 37 遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 65 図　SB 38 遺構図・土層断面図（S=1/60）

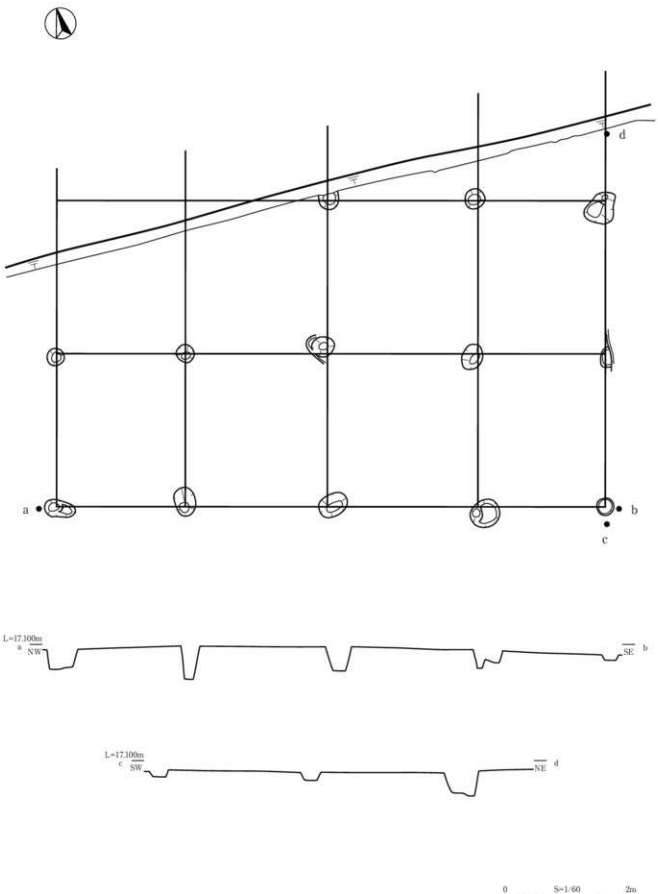


SB 40

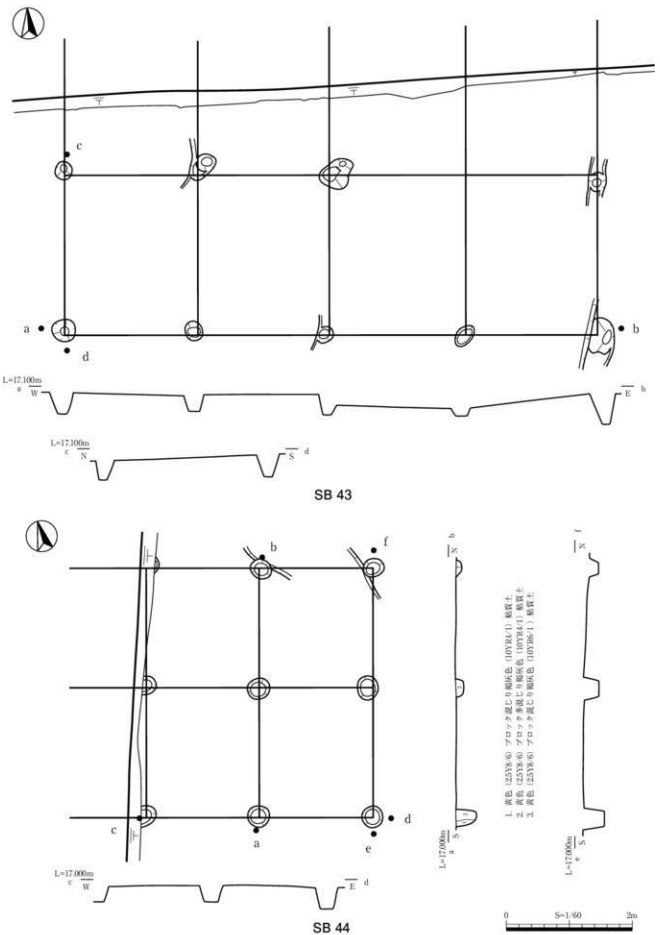


SB 42

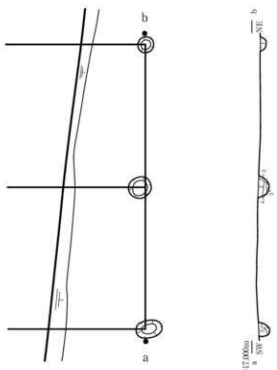
第 66 図　SB40、42 遺構図・土層断面図（S=1/60）



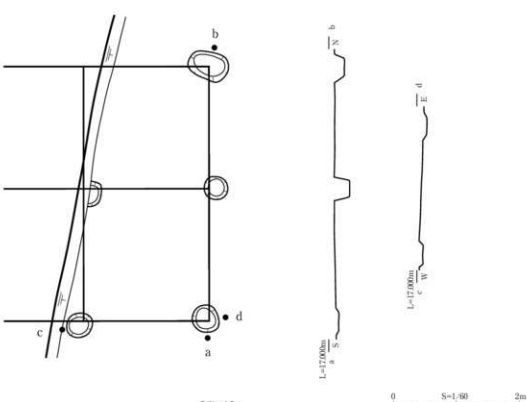
第 67 図　SB 41 遺構図・土層断面図（S=1/60）



第 68 図　SB43、44 遺構図・土層断面図（S=1/60）

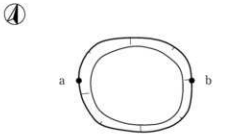


SB 45



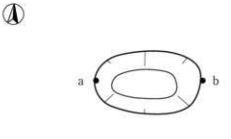
SB 46

第 69 図　SB 45、46 遺構図・土層断面図（S=1/60）



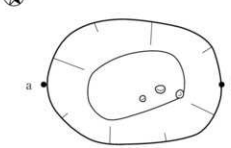
SK 1

1. 炭、骨片混じり褐灰色粘質土
2. 骨片少混じり灰褐色粘質土
3. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土
4. 暗灰色土混じり淡黄灰色粘質土
5. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土

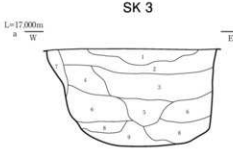


SK 2

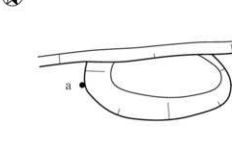
1. 黄色土、炭・骨片混じり褐灰色粘質土
2. 炭・骨片少混じり暗褐灰色粘質土
3. 淡暗灰褐色粘質土
4. 淡灰黄色粘質土（やや暗い）



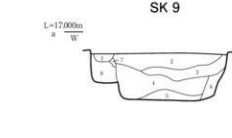
SK 3



1. 炭・骨片少混じり褐灰色粘質土
2. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
3. 黄色粒、炭粒混じり褐灰色粘質土
4. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
5. 黄色土、骨片混じり灰褐色粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡褐色粘質土
8. 褐灰色粘土混じり淡黄色粘質土
9. 淡灰褐色粘質土

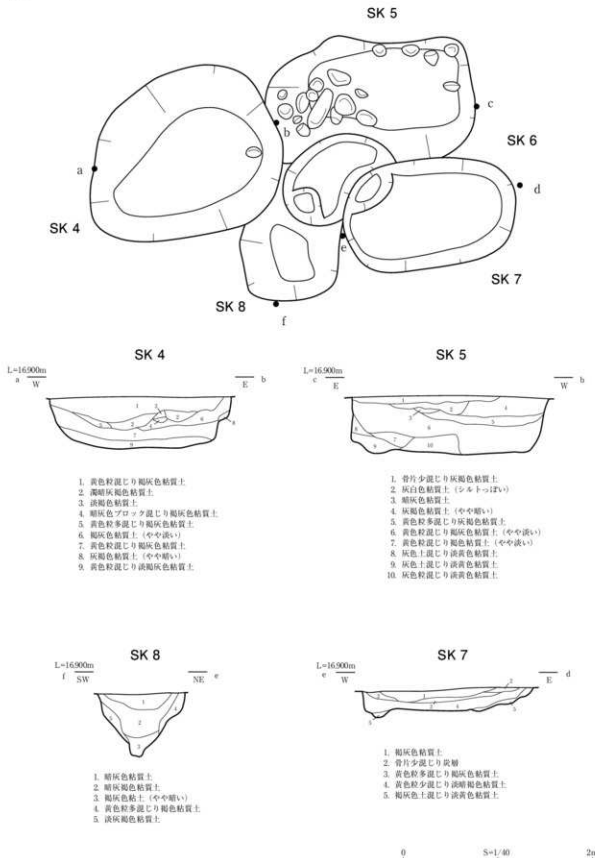


SK 9



1. 骨片少混じり褐色粘質土（やや暗い）
2. 褐灰色粘質土（やや暗い）
3. 褐灰色粘質土
4. 暗褐色粘質土
5. 濁黒色粘質土
6. 濁暗灰色粘質土
7. 濁黄褐色粘質土（やや暗い）
8. 褐灰色粘質土（やや暗い）

第 70 図　SK 1、2、3、9 遺構図・土層断面図（S=1/40）

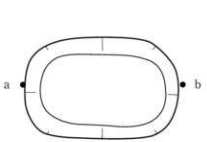


第 71 図　SK 4、5、6、7、8 遺構図・土層断面図（S=1/40）

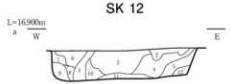
SK 10

1. 黄色粒混じり灰色粘質土
2. 黄色粒少混じり灰色粘質土
3. 黄色粒混じり灰色粘質土
4. 黄色土混じり灰褐色粘質土
5. 灰褐色土混じり淡黄色粘質土
6. 灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 黄色土混じり淡暗褐灰色粘質土
8. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土
9. 黄色粒少混じり淡暗灰色粘質土
10. 黄色粒少混じり淡暗褐灰色粘質土

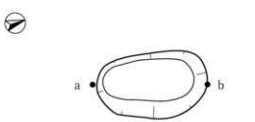
SK 11



SK 12

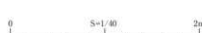


1. 淡褐灰色粘質土
2. 淡黄褐色粘質土
3. 黄色粒混じり淡褐灰色粘質土
4. 淡褐色土混じり淡黄色粘質土
5. 淡黄色土混じり淡褐色粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡黄色粘質土
8. 灰色土混じり淡黄色粘質土
9. 褐灰色粘質土（やや暗い）
10. 濁淡黄褐色粘質土
11. 淡褐灰色粘質土
12. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土



SK 13

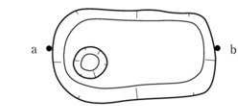
1. 褐灰色粘質土
2. 骨片・炭粒混じり褐灰色粘質土（やや暗い）
3. 褐灰色粘質土（やや暗い）
4. 褐色粘質土（やや淡く明るい）
5. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
6. 淡灰黄色粘質土（やや暗い）



第 72 図　SK10、11、12、13 遺構図・土層断面図（S=1/40）

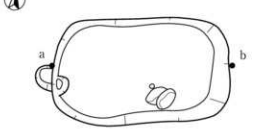
SK 14

1. 暗褐色，黄色土混じり褐灰色粘質土
2. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土

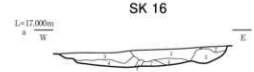


SK 15

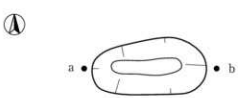
1. 褐灰色粘質土
2. 黄色ブロック混じり褐灰色粘質土
3. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
4. 灰褐色粘質土
5. 暗褐灰色粘質土（やや淡い）
6. 灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土（やや淡い）
8. 黄色粒混じり灰褐色粘質土
9. 黄色粒混じり淡暗灰色粘質土
10. 淡灰褐色粘質土
11. 黄色粒少混じり淡黄色粘質土
12. 暗褐灰色粘質土（やや淡い）
13. 黄色ブロック混じり淡灰褐色粘質土



SK 16

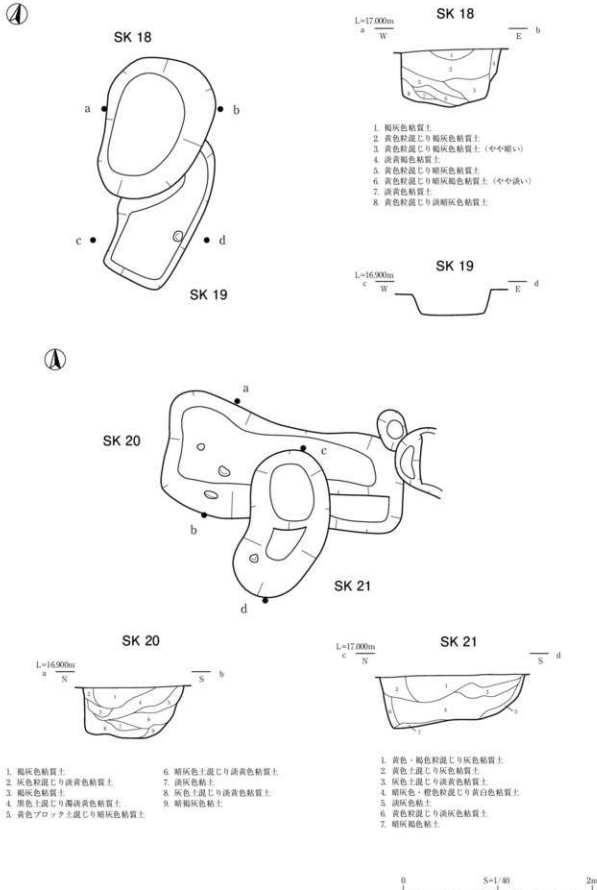


1. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土
2. 褐灰色粘質土（やや暗い）
3. 炭・焼土粒混じり灰褐色粘質土
4. 黄色土混じり淡褐灰色粘質土
5. 灰褐色粘質土
6. 淡灰黄色粘質土（やや暗い）
7. 淡黄色粘質土（地山質）

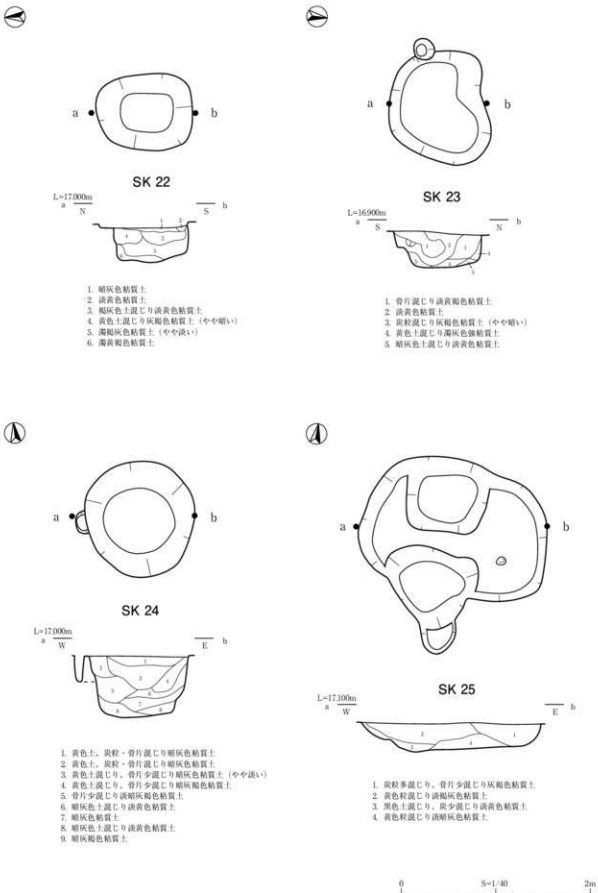


SK 17

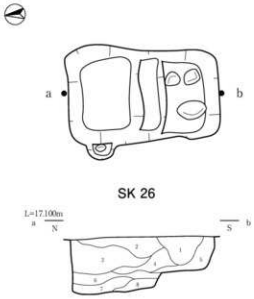
第 73 図　SK 14、15、16、17 遺構図・土層断面図（S=1/40）

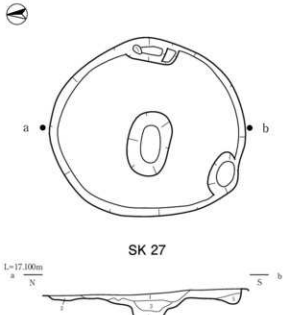


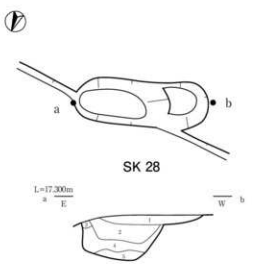
第 74 図　SK 18、19、20、21 遺構図・土層断面図（S=1/40）

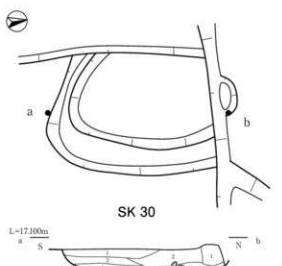


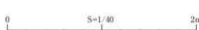
第 75 図　SK 22、23、24、25 遺構図・土層断面図（S=1/40）



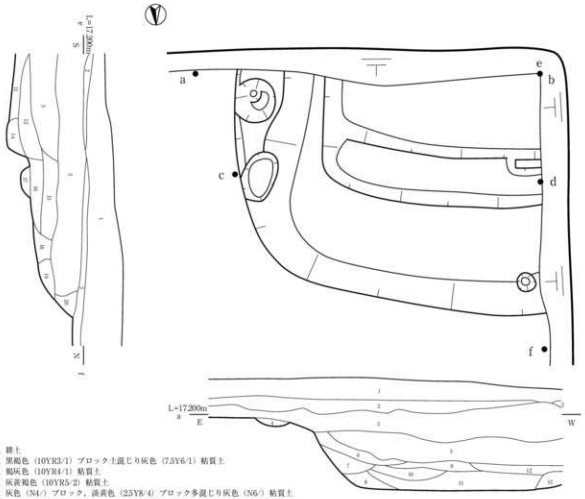




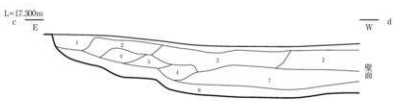




第 76 図　SK 26、27、28、30 遺構図・土層断面図（S=1/40）



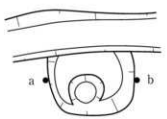
1. 耕土
2. 黒褐色（10YR3/1）ブロック土混じり灰色（7.5Y6/1）粘質土
3. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
4. 灰黄褐色（10YR5/2）粘質土
5. 灰色（N4/）ブロック、淡黄色（2.5Y8/4）ブロック多混じり灰色（N6/）粘質土
6. 褐灰色（N3/）ブロック、黄橙色（10YR8/6）ブロック混じり灰色（N5/）粘質土
7. 淡黄色（2.5Y8/4）、黄橙色（10YR8/8）混じり灰色（N6/）粘質土
8. 淡黄色（2.5Y8/4）、黄橙色（10YR8/8）ブロック（大）混じり灰色（N6/）粘質土
9. 淡黄色（2.5Y8/4）、黄橙色（10YR8/8）混じり、
灰色（N5/）ブロック土混じり灰色（N6/）粘質土
10. 灰色（N6/）混じり、灰色（N4/）ブロック土混じり淡黄色（2.5Y8/4）粘質土
11. 灰色（N4/）混じり、淡黄色（2.5Y8/6）ブロック土混じり淡灰色（N6/）粘質土
12. 淡黄色（2.5Y8/6）ブロック土混じり灰色（N5/）粘質土
13. 灰色（N4/）粘質土
14. 淡黄色（2.5Y8/4）ブロック、灰色（N4/）ブロック混じり灰色（N6/）粘質土
15. 黄色（2.5Y8/6）ブロック土混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
16. 灰色（N5/）粘質土
17. 淡灰色（N6/）粘質土
18. 黄色（2.5Y8/6）混じり灰色（N6/）粘質土
19. 淡黄色（2.5Y8/4）ブロック土混じり灰色（N6/）粘質土
20. 黄色（2.5Y8/6）ブロック土混じり褐灰色（N4/）粘質土



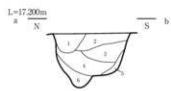
1. 灰色（N6/）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック土混じり灰色（N6/）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック土多混じり灰色（N6/）粘質土
4. 黄色（2.5Y8/6）ブロック土混じり淡灰色（N6/）粘質土
5. 淡灰色（N6/）混じり黄色（2.5Y8/6）粘質土
6. 淡灰色（N6/）粘質土
7. 灰色（N4/）混じり、淡黄色（2.5Y8/4）ブロック土混じり灰色（N6/）粘質土

SK 31

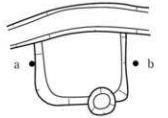
第 77 図　SK 31 遺構図・土層断面図（S=1/40）



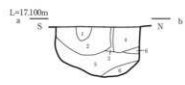
SK 32



1. 炭化物混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
2. 明黄褐色（10YR7/6）ブロック土混じり、黒褐色（10YR3/1）粒混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
3. 明黄褐色（10YR7/6）ブロック（大）混じり、黒褐色（10YR3/1）粒混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
4. 黄色（2.5Y 6/）ブロック混じり、黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
5. 淡褐灰色（10YR5/1）粘質土
6. 黄色（2.5YR8/6）ブロック混じり、黒褐色（10YR3/1）ブロック混じり淡褐灰色（10YR5/1）粘質土

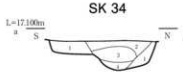


SK 33



1. 灰色（N5/）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック、灰色（N4/）ブロック混じり灰色（N5/）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
4. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり灰色（N4/）粘質土
5. 黄色（2.5Y8/6）ブロック（大）多混じり灰色（N4/）粘質土
6. 褐灰色（10YR4/1）混じり黄色（2.5Y8/6）粘質土

SK 34



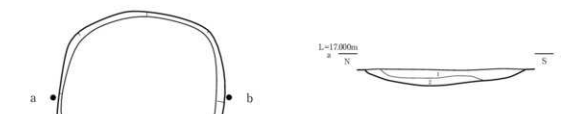
1. 淡褐灰色（10YR5/1）粘質土
2. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
3. 黒褐色（10YR3/1）粘質土
4. 褐灰色（10YR5/1）粘質土（粘質強い）

SK 35

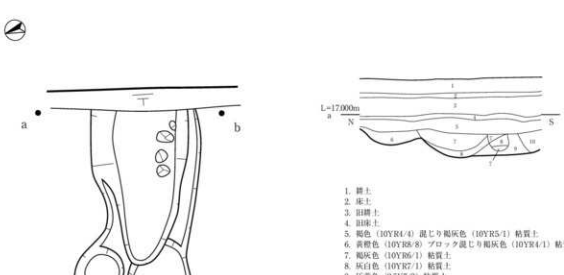
1. 炭化物混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
2. 淡黄色（2.5Y8/4）ブロック土混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
4. 褐灰色（10YR4/1）、黄色（2.5Y8/6）多混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
5. 褐灰色（10YR4/1）ブロック（中～大）、黄色（2.5Y8/6）ブロック（小～中）多混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
6. 黄灰色（2.5Y5/1）粘質土

第 78 図　SK 32、33、34、35 遺構図・土層断面図（S=1/40）

SK 36

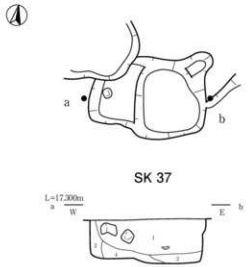


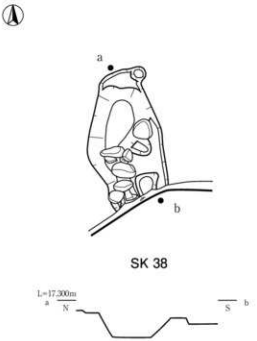
SK 39

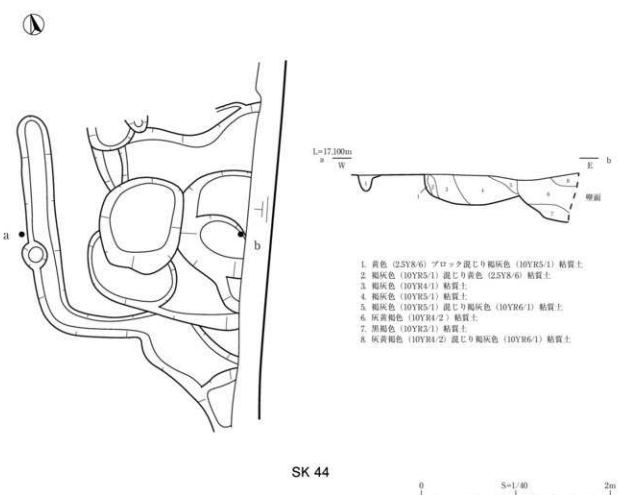


SK 40

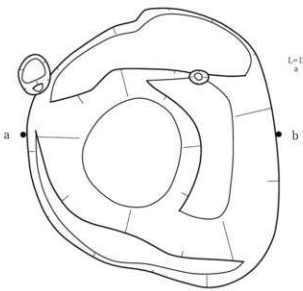
第 79 図　SK 36、39、40 遺構図・土層断面図（S=1/40）

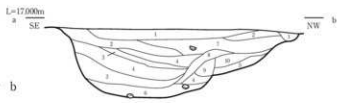






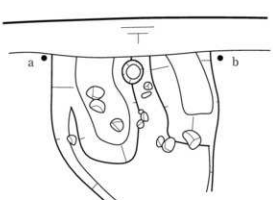
第 80 図　SK 37、38、44 遺構図・土層断面図（S=1/40）

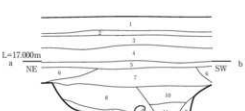




1. 暗褐色（10YR3/3）混じり灰色（N6/）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり灰色（N6/）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰色（N5）強粘質土
4. 灰色（N4/）強粘質土
5. 灰色（N5/）強粘質土
6. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰色（N5/）粘質土
7. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり灰色（N6/）粘質土
8. 淡黄色（2.5Y8/4）多混じり灰白色（N7/）強粘質土
9. 灰色（N6/）強粘質土
10. 淡黄色（2.5Y8/4）混じり灰白色（N7/）粘質土

SK 41



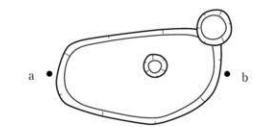


1. 腐土
2. 床土
3. 黄橙色（10YR8/8）、褐灰色（7.5YR5/1）混じり明青灰色（N7/1）粘質土
4. 旧耕土
5. 旧床土
6. 褐色土混じり黄橙色（10YR8/8）ブロック土混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
7. 褐色（10YR4/4）混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
8. 褐色（10YR4/4）混じり灰白色（10YR7/1）やや砂質土
9. 灰白色（N7/）粘質土
10. 灰白色（10YR7/1）やや砂質土混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
11. 褐灰色（10YR6/1）粘質土と黒褐色（10YR3/1）粘質土との混土

SK 42

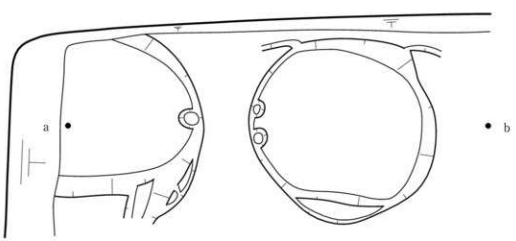
0 S=1/40 2m

第 81 図　SK 41、42 遺構図・土層断面図（S=1/40）



1. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
2. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR4/1）粘質土
3. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土

SK 43

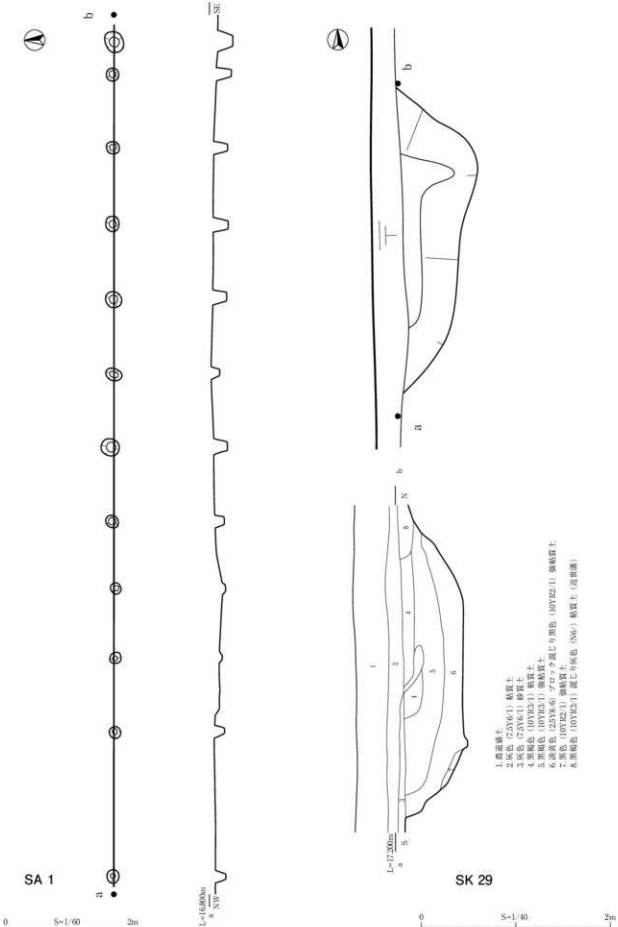


SK 45　　SK 46

1. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
2. 淡黄色（2.5Y8/4）ブロック、褐色（10YR4/4）ブロック混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
3. 淡黄色（2.5Y8/4）ブロック多混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
4. 淡黄色（2.5Y8/4）ブロック、褐色（10YR4/4）混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
5. 褐灰色（10YR6/1）と褐色（10YR4/4）との混土
6. 黄色（2.5Y8/6）ブロック混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土
7. 黄色（2.5Y8/6）ブロック多混じり灰色（N6/）粘質土
8. 褐灰色（10YR4/1）粘質土
9. 黄色（2.5Y8/6）ブロック微混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土
10. 褐灰色（10YR5/1）粘質土
11. 褐灰色（10YR5/1）混じり黄色（2.5Y8/6）粘質土

0　S=1/40　2m

第 82 図　SK 43、45、46 遺構図・土層断面図（S=1/40）



第 83 図　SA 1（S=1/60）、SK 29（S=1/40）遺構図・土層断面図

第5節　遺物

遺物は弥生時代から近世にかけての土器・陶磁器、土製品、石製品、鉄製品が出土した。実測図は第84図～第114図までを掲載している。以下は、掲載した遺物の中で特徴的なものについて記載している。大きさや調整など遺物の詳状況については、観察表を参照していいただきたい。

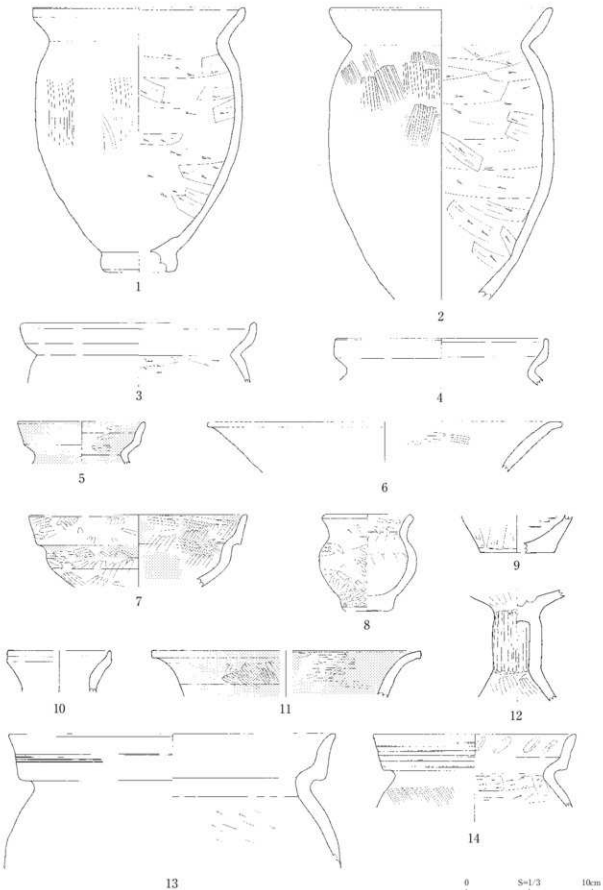
1～57は弥生時代後期後半の土器である。1と2は、くの字型甕で、外面体部上半には煤が付着し、体部下半は被熱が著しい。7は鉢型土器で、こちらも外面に煤が付着している。8の小型壺は口縁部が一部欠損するだけで、ほぼ完形品である。祭祀用土器と思われる。

58～237は古代土器である。58～190は須恵器、191～237は土師器である。73は有台坏で、外底部には墨書が見られるが、文字の解読はできない。61・63・74も有台坏の底部で、体部を人為的に打ち欠いた可能性がある。99は無台坏で、口縁部から体部にかけて、灯心油痕が付着している。163と168の盤の外底部には一文字の墨書が書かれているが、解読はできない。166の盤の外底部には格子状の文様が見られる。成形時に付いたものと思われる。

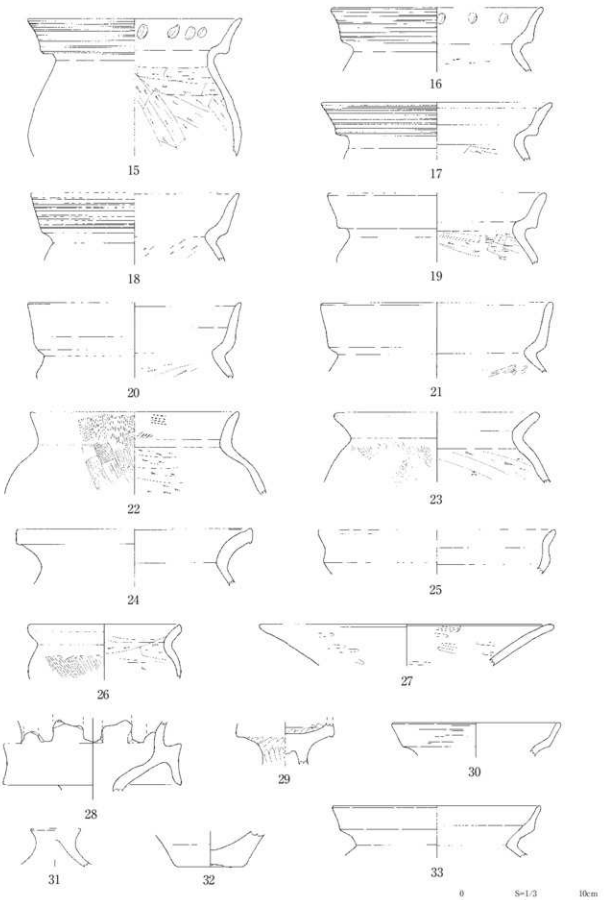
238～300は中世土師器皿、301～314は白磁・青磁の中世輸入磁器、315～365は瀬戸焼・越前焼・加賀焼・珠洲焼の中世国産陶器、366は中世瓦質土器、368～375は近世陶磁器である。319は、大窯期と思われる瀬戸焼天目茶碗である。口縁部の一部を欠損するだけで、ほぼ完形品である。327は体部に数条の沈線を施す瀬戸焼灰釉瓶子である。市内では初の出土である。332と333は加賀焼甕の肩部で、332は斜格子、333はより複雑な格子の押印が認められる。350は第Ⅴ期の珠洲焼すり鉢で、口縁端部には櫛目波状文帯を施す。完形品に近いが、底部は人為的に欠失させている。

383～431は石製品である。399は宝塔相輪で、本調査区における石塔はこれ1点のみであった。若干ずれがあり粗雑な造りとなっている。404～423は自然石であるが一部に煤が付着しており、何らかの理由で火を受けていたようである。北加賀地区の中世集落遺跡で多く確認できる。

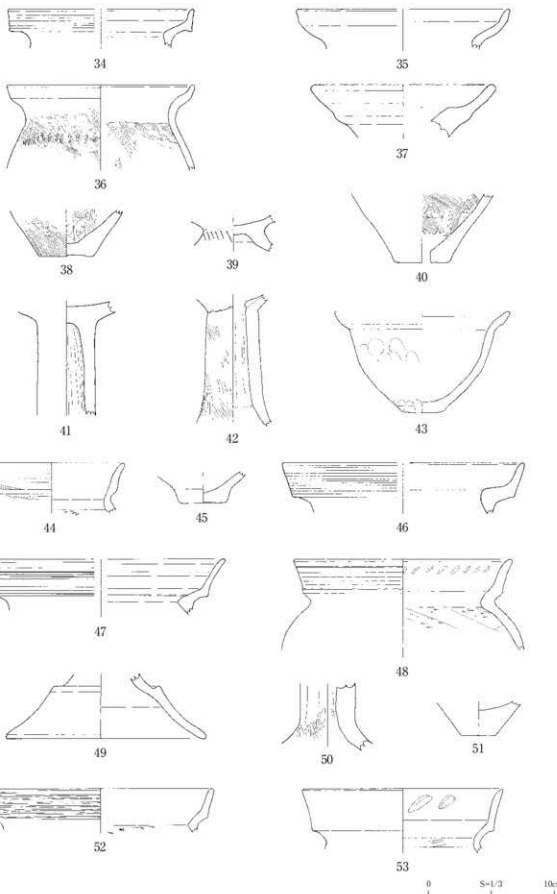
432～454は銭貨を含む鉄・銅製品である。447の鉄製刀子は先端部にあたる。449は鉄製皿で、柄を取り付けるための突起がある。450は銅製錫杖頭である。県内では4例目。市内では富樫館跡より続いて2例目である。輪は一部欠損しているが、円形に近い宝珠形をしたと思われる。輪の左右4ヶ所の節に葉芽を表現し、輪の下部は、下から中に巻き込む形状をし、左右上に宝瓶を飾る。輪中央花先の上は欠損しているが、1層分の層塔を見ることができる。穂袋（柄部）の下端は簡略化した蓮華座が認められ、中央に2条の紐帯を巡らす。遊鐶は失っていた。全体的には簡素な造りで、前述した富樫館跡出土の錫杖と同じタイプである。



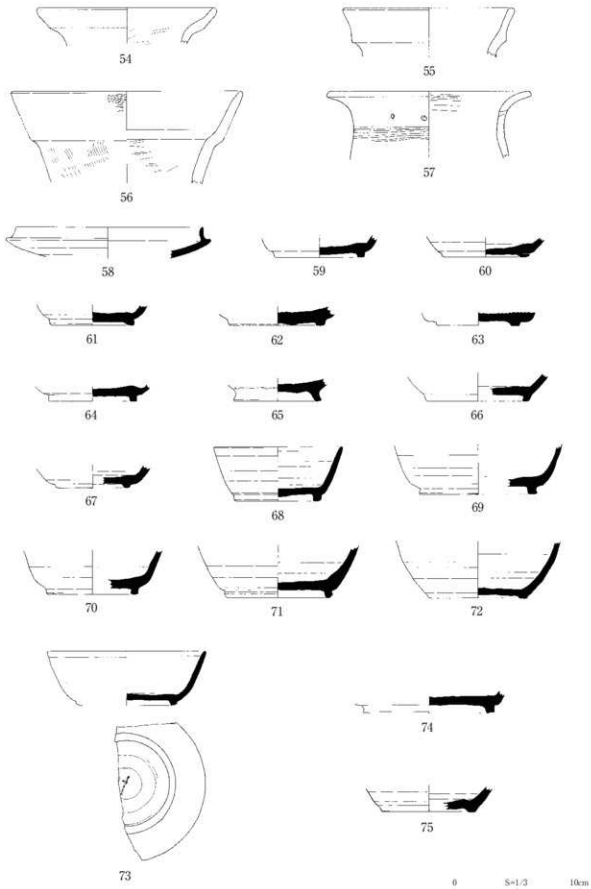
第 84 図　遺物実測図 1（S=1/3）



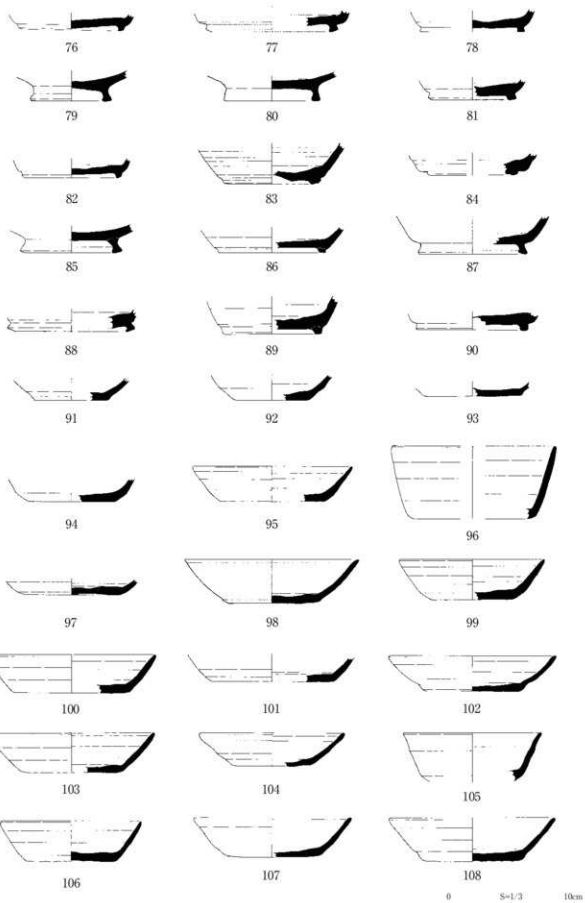
第 85 図　遺物実測図 2（S=1/3）



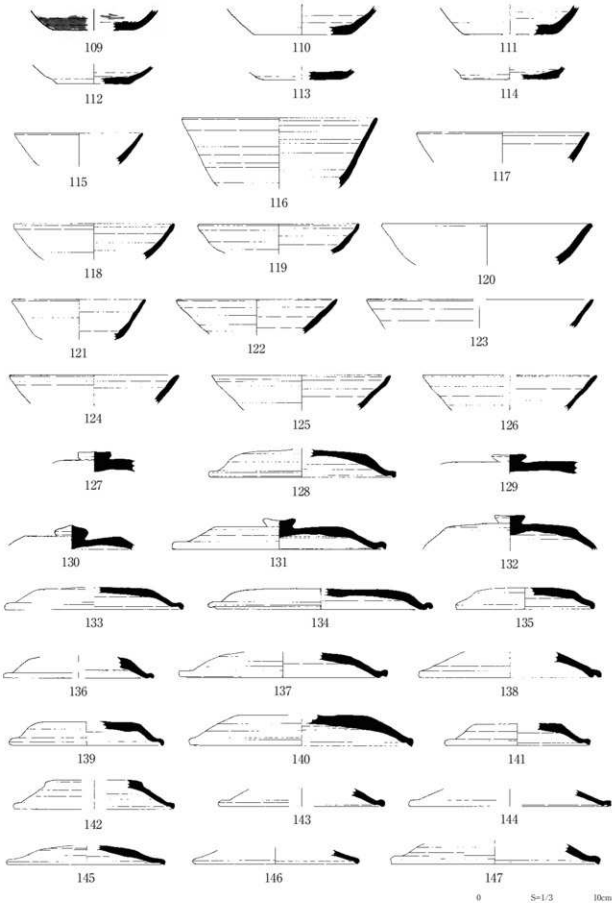
第 86 図　遺物実測図 3（S=1/3）



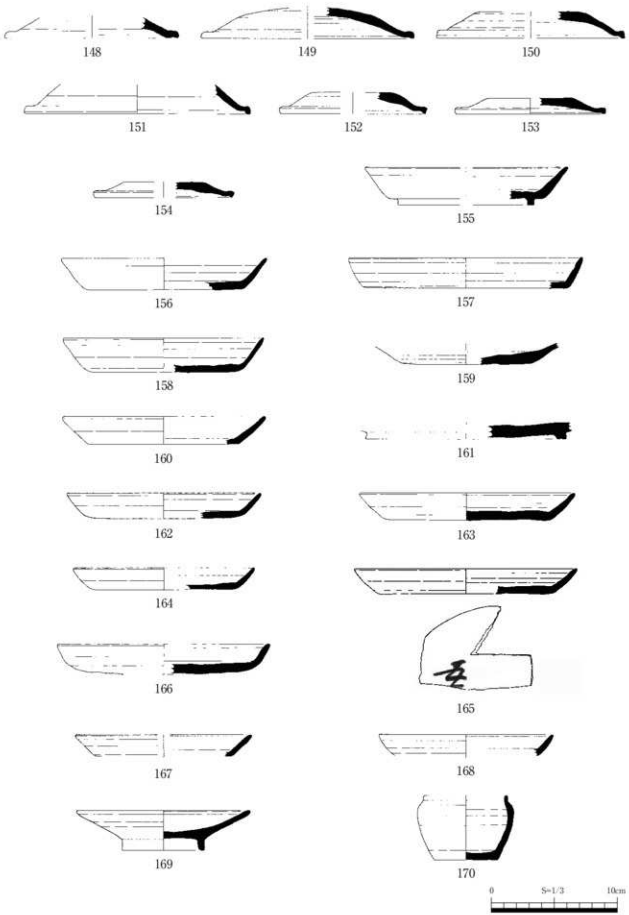
第 87 図　遺物実測図 4（S=1/3）



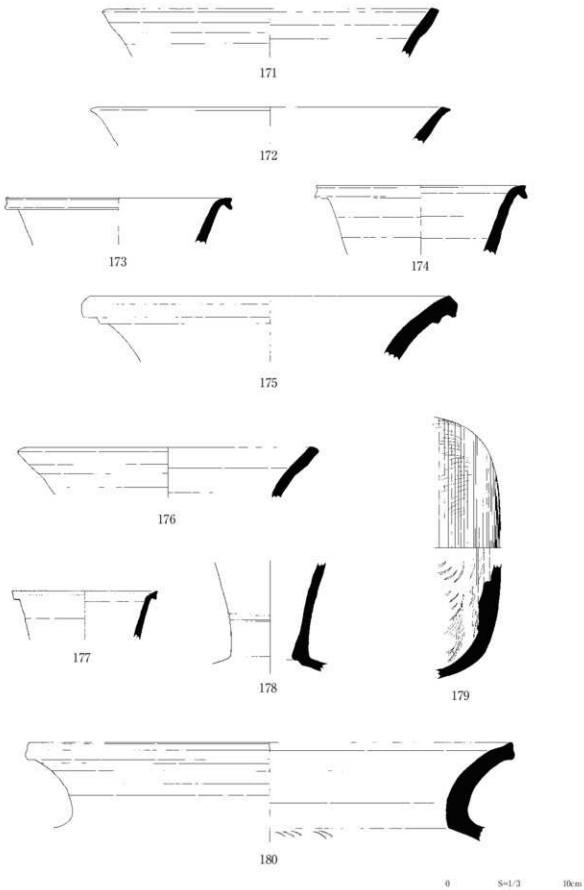
第 88 図　遺物実測図 5（S=1/3）



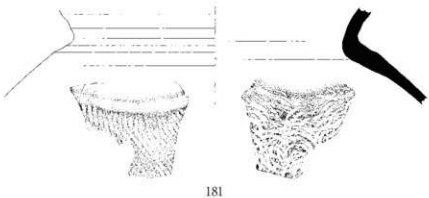
第 89 図　遺物実測図 6（S=1/3）



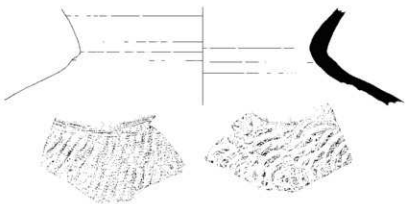
第 90 図　遺物実測図 7（S=1/3）



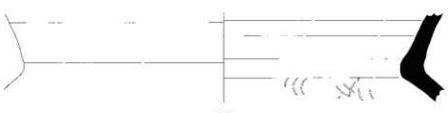
第 91 図　遺物実測図 8（S=1/3）



181



182



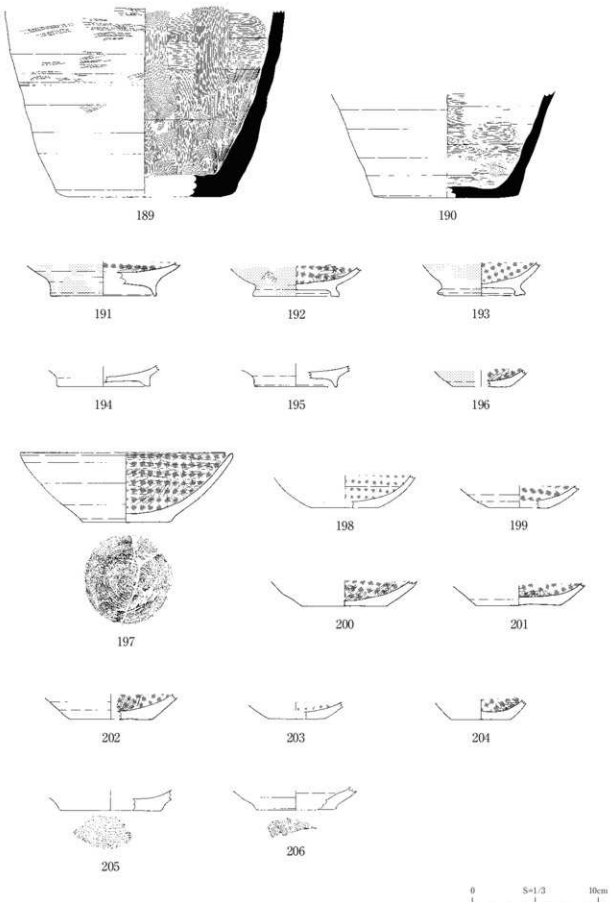
183

184　185　186

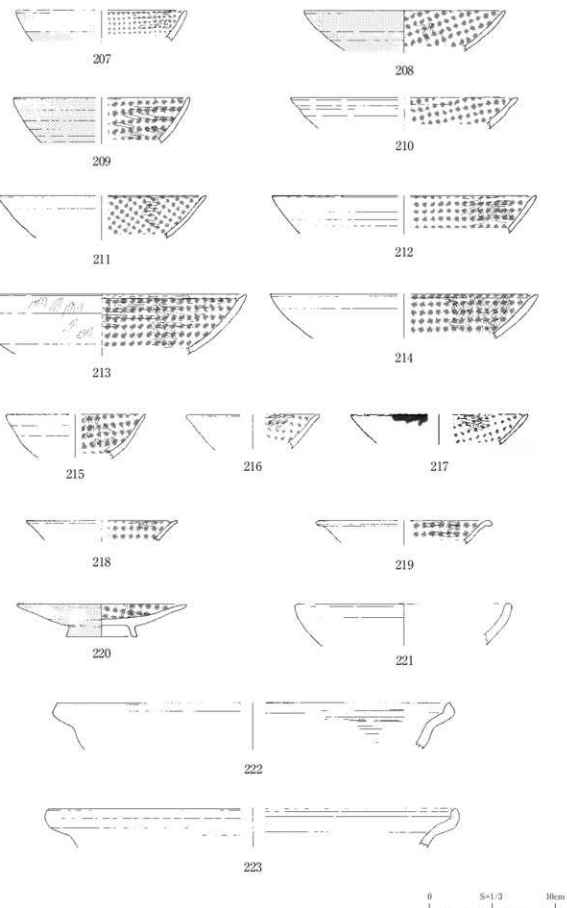
187　188

0　S=1/3　10cm

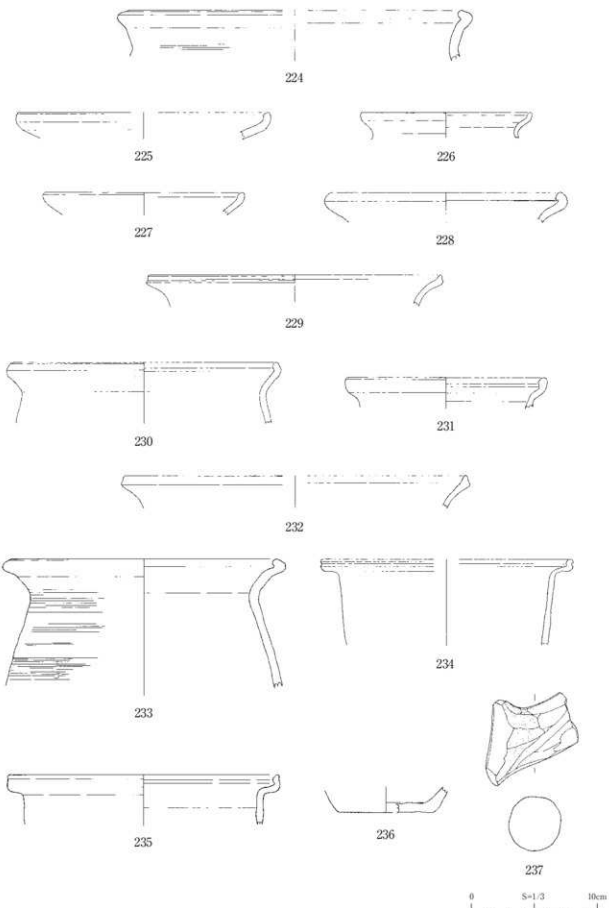
第 92 図　遺物実測図 9（S=1/3）



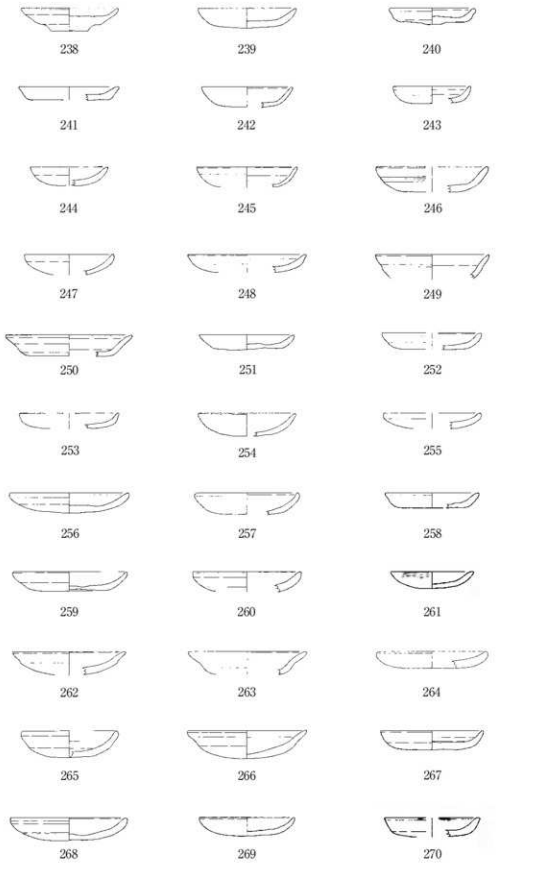
第 93 図　遺物実測図 10（S=1/3）



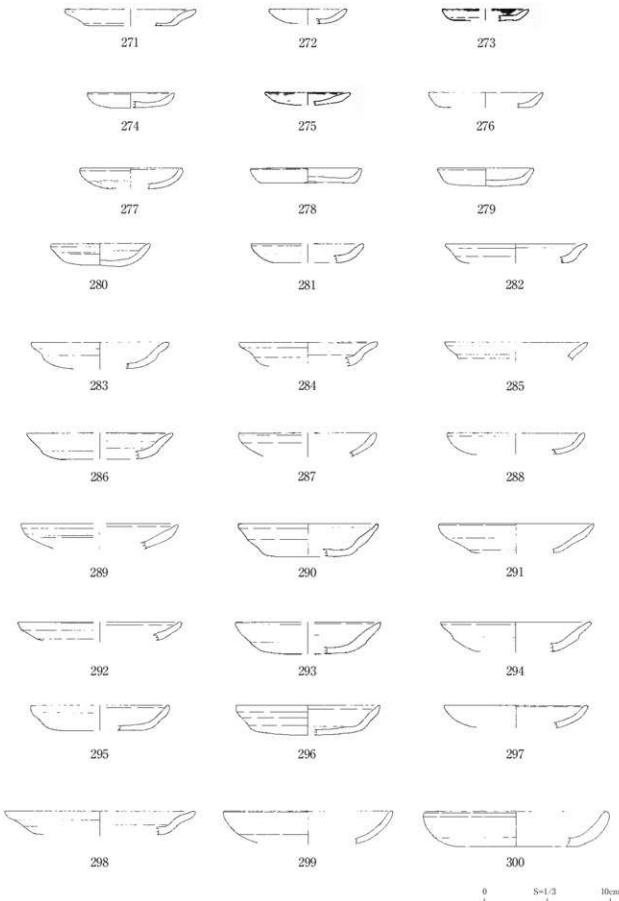
第 94 図　遺物実測図 11（S=1/3）



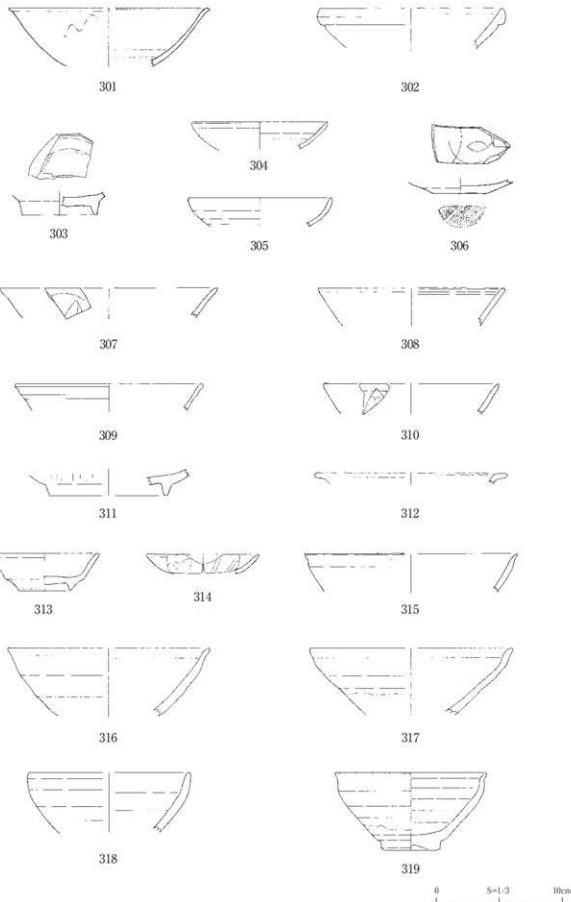
第 95 図　道物実測図 12（S=1/3）



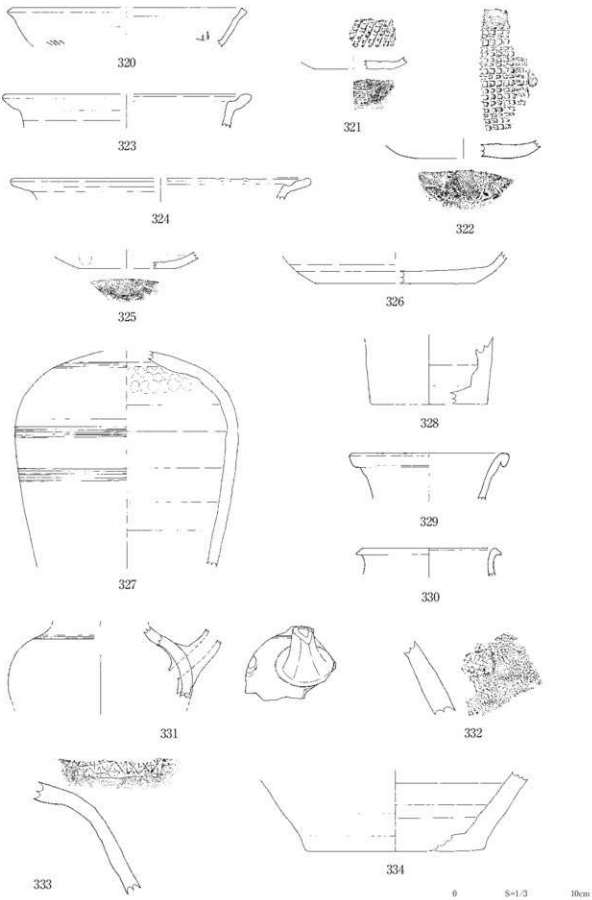
第 96 図　道物実測図 13（S=1/3）



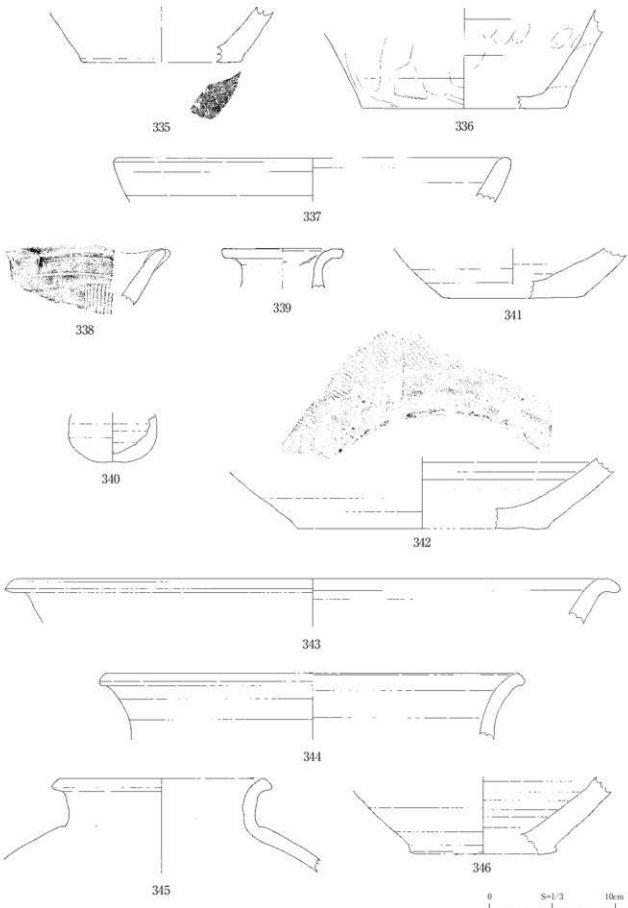
第 97 図　遺物実測図 14（S=1/3）



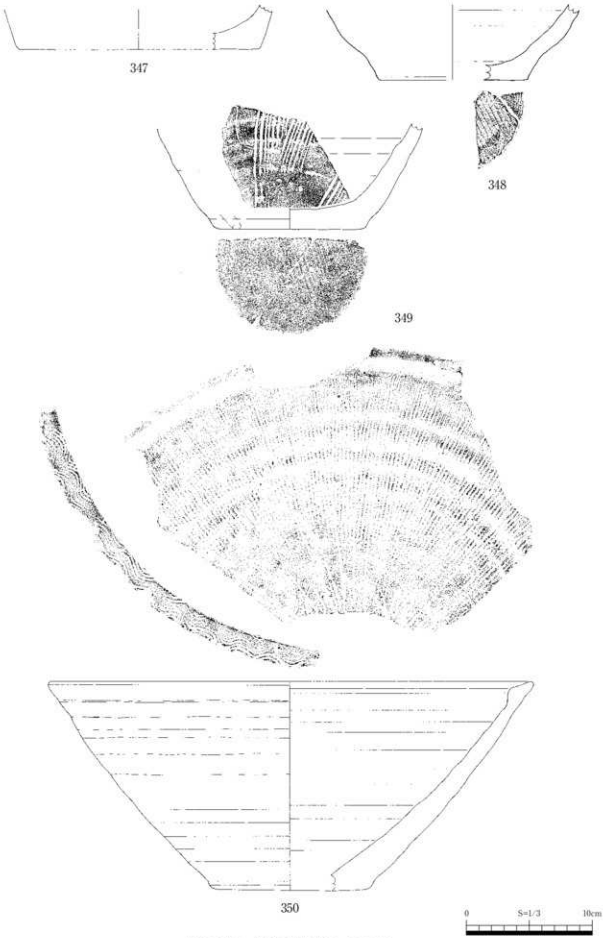
第 98 図　遺物実測図 15（S=1/3）



第 99 図　遺物実測図 16（S=1/3）

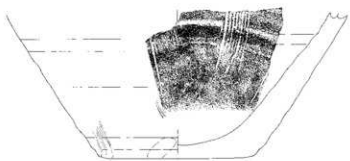


第 100 図　遺物実測図 17（S=1/3）

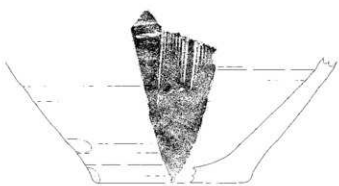


第 101 図　遺物実測図 18（S=1/3）

351

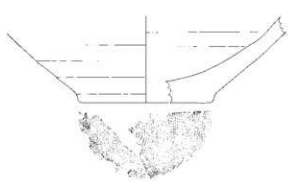


352

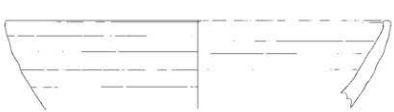


353

354

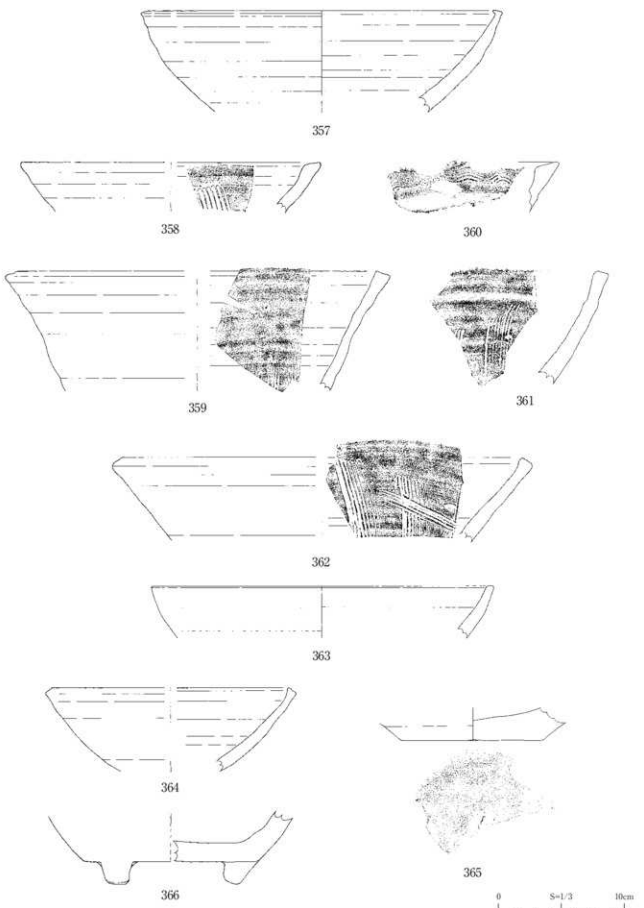


355

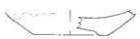


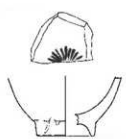
356

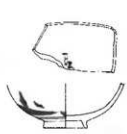
第 102 図　遺物実測図 19（S=1/3）

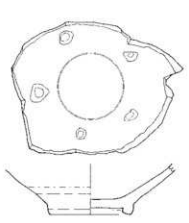


第 103 図　遺物実測図 20（S=1/3）

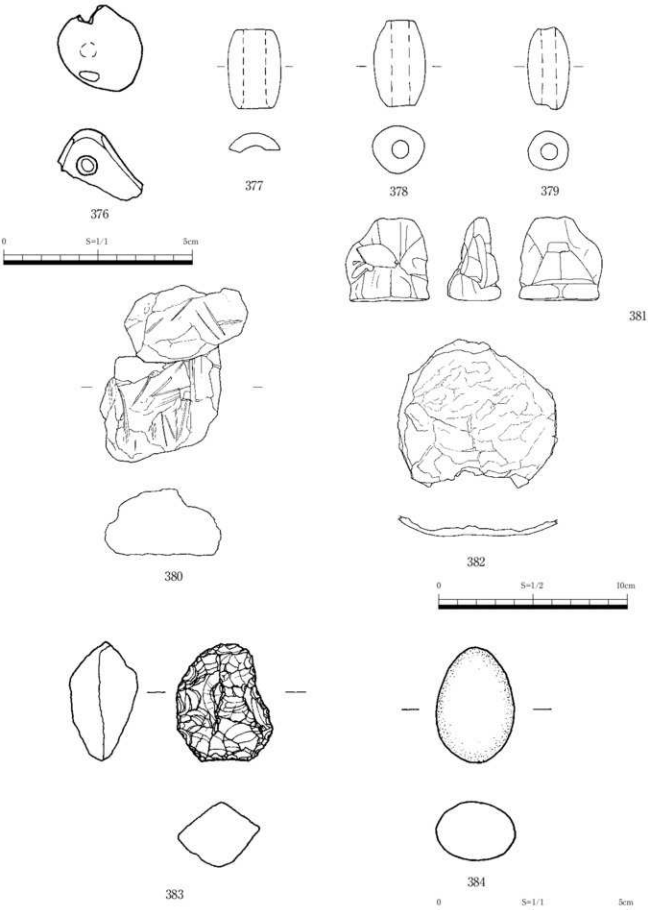




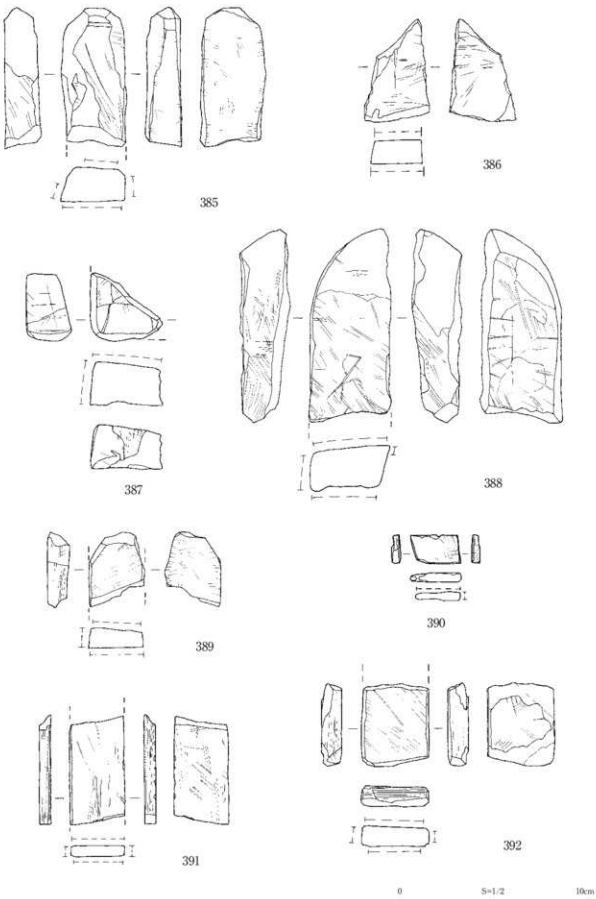




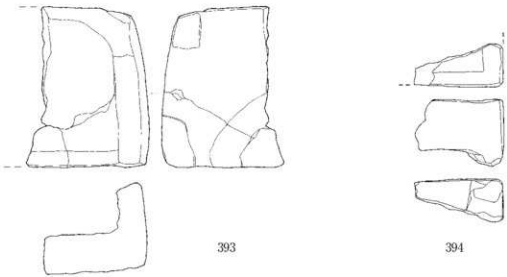
第 104 図　遺物実測図 21（S=1/3）

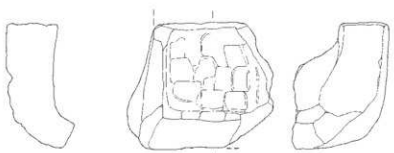


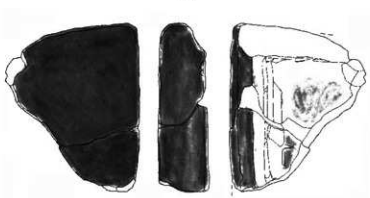
第 105 図　遺物実測図 22（376、383、384（S=1/1）、377 ～ 382（S=1/2））

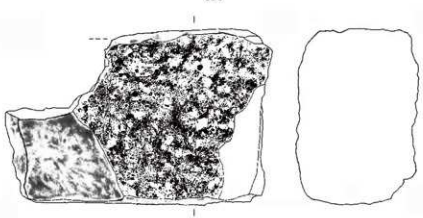


第 106 図　遺物実測図 23（S=1/2）

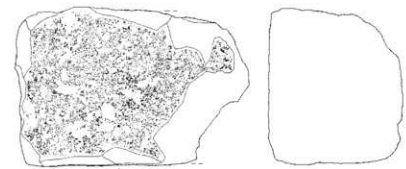




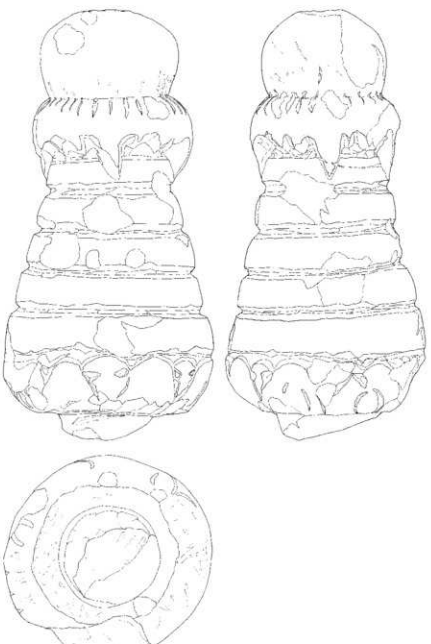




第 107 図　遺物実測図 24（S=1/3）

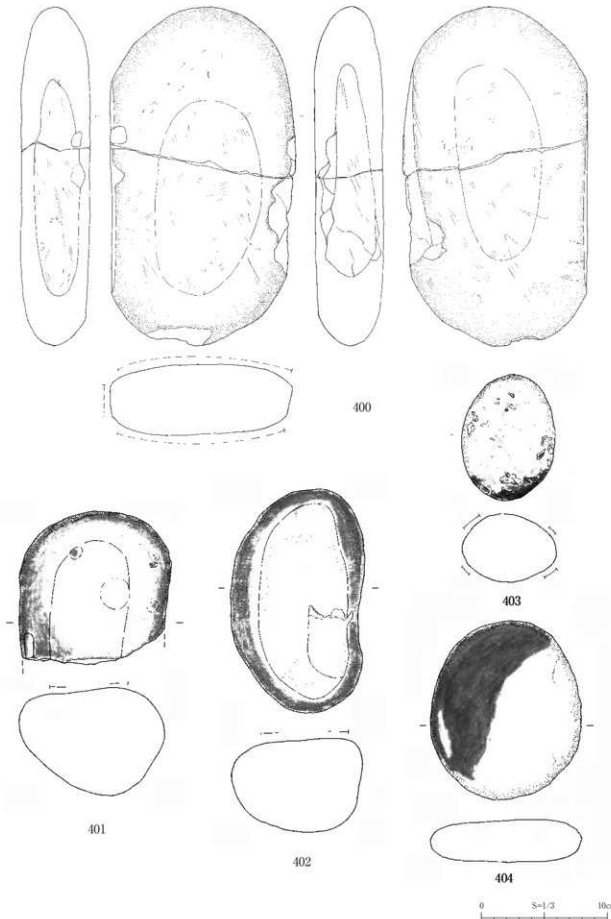


398

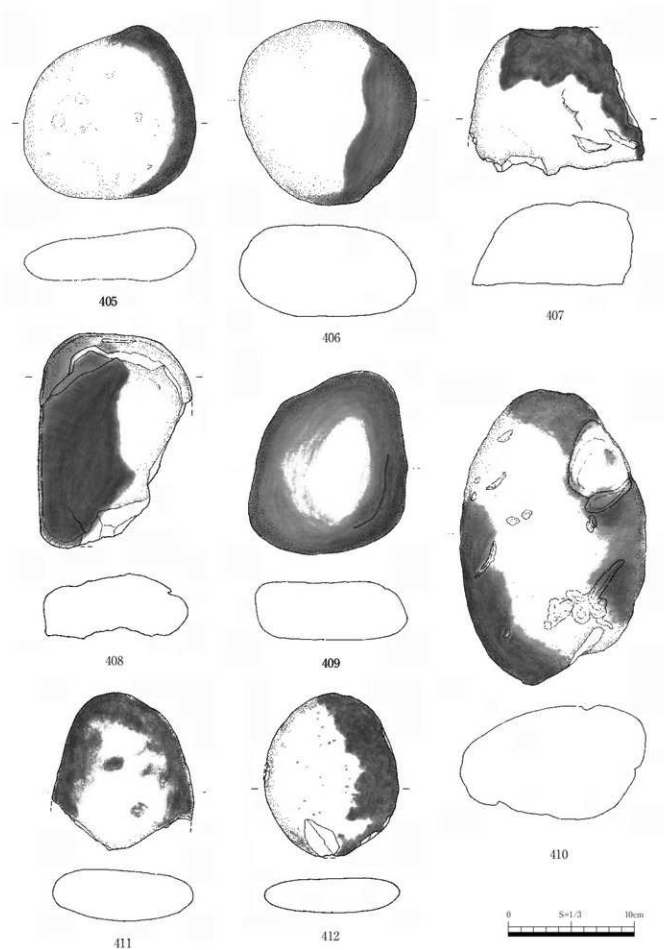


399

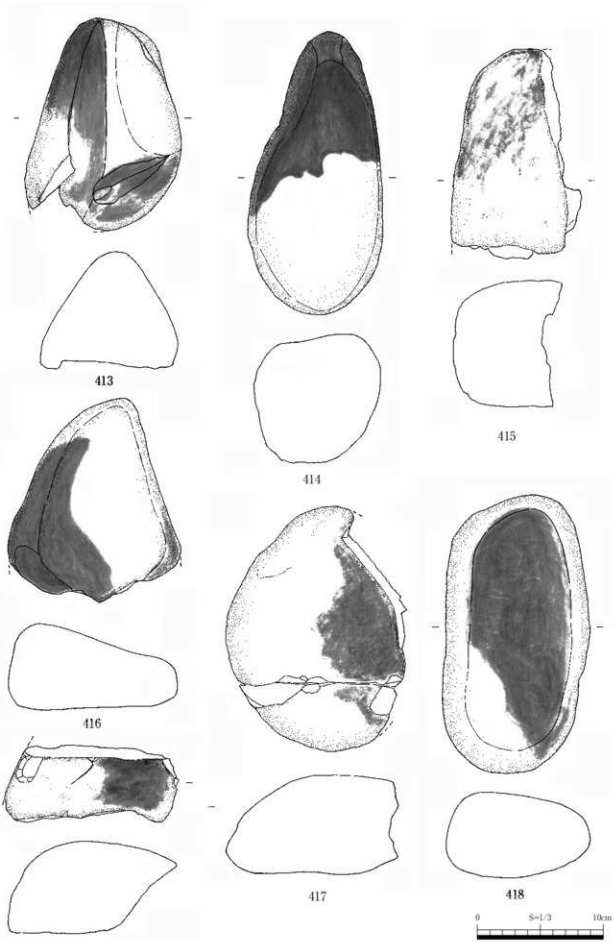
第 108 図　遺物実測図 25（S=1/3）



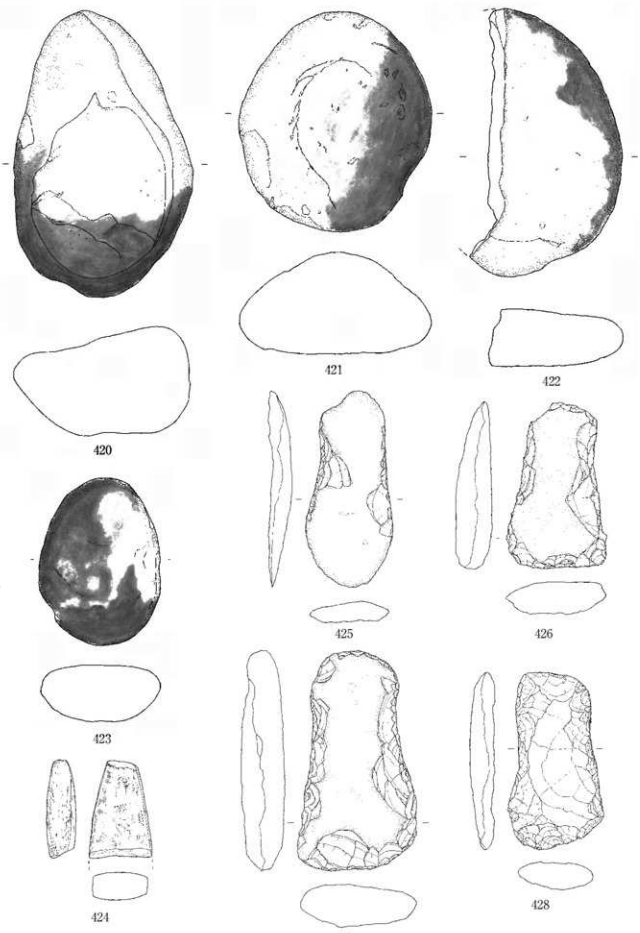
第 109 図　遺物実測図 26（S=1/3）



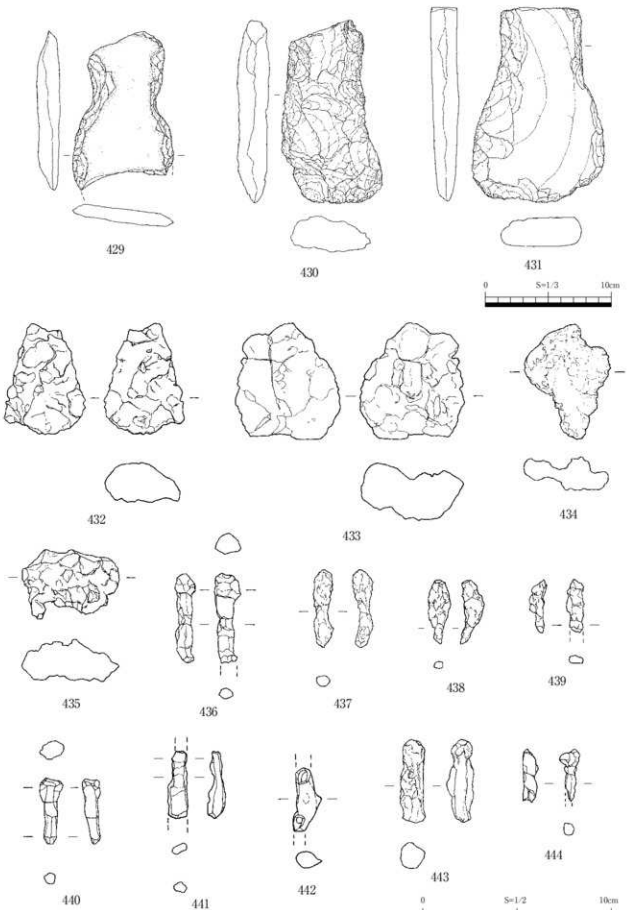
第 110 図　遺物実測図 27（S=1/3）



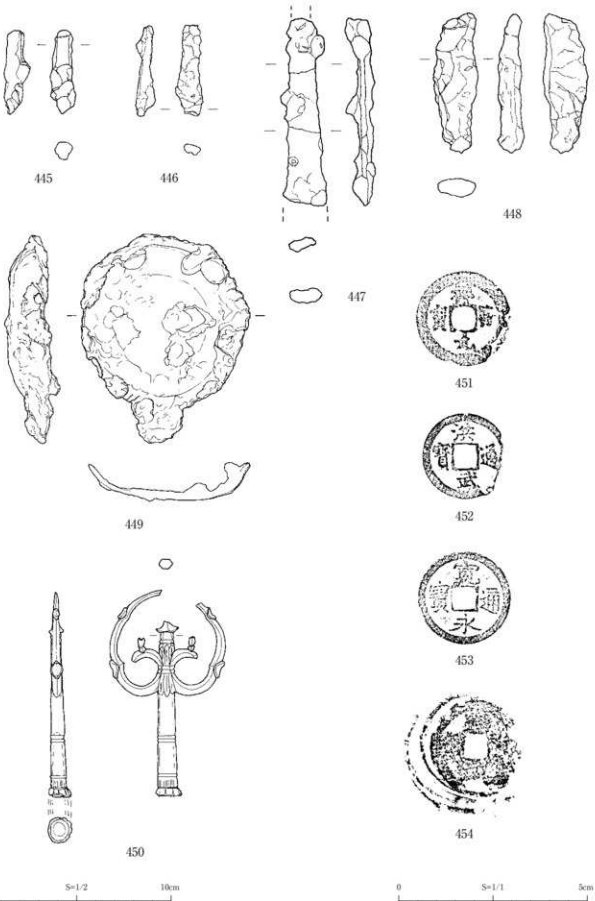
第 111 図　遺物実測図 28（S=1/3）



第 112 図　遺物実測図 29（S=1/3）



第 113 図　遺物実測図 30（429 ～ 431（S=1/3）、432 ～ 444（S=1/2））



第 114 図　遺物実測図 31（445 ～ 450（S=1/2）、451 ～ 454（S=1/1））

第4章　総括

《弥生時代》

本調査区における弥生時代は、後期後半を主体とする集落跡である。この時期の遺構は、ＳＩ１～３の竪穴建物、ＳＢ１・２の布掘建物、円形周溝状遺構ＳＤ11などが挙げられ、ＳＤ11を迂回するようにして東西に走るＳＤ10も当該時期と考えられる。これら弥生時代の遺構は、本調査区の東側に集中している。

郷クボタ遺跡は、本調査区より東方約120ｍに渡って展開しており、その東方部における発掘調査においても、当該時期の竪穴建物を始めとする遺構や遺物が多く見つかっており、集落域が広がっていることを示している。そういう意味では、本調査区で見つかった主要遺構の場所は、集落の西限にあたると考えられる。また、Ａ区中央を南北に流れる旧河道２からも弥生土器を発見している。このことから、集落が機能しているときには、この河は流水していたと思われ、ここが集落の境界になっていたかもしれない。

《古代》

古代の主要な遺構は、ＳＢ３～17の掘立柱建物で、本調査区の北側に集中する。建物のほとんどは南北棟であるが、ＳＢ13～15・17の４棟は東西棟となる。南北棟の建物は、Ａ区西端、この時期には埋まっていたと思われる旧河道２を挟んだ東側、及びＢ区と、大きく３ヶ所のエリアに分けて建てられていたようである。南北棟建物群がある旧河道２の東エリアと、Ｂ区との間には、先述したＳＢ13～15・17の東西棟建物が存在する。これらの位置関係を見ると、建物群は計画的に配置していたことが想定できる。

建物の中には重複するものあり、複数回建替えがあったようであるが、その前後関係は、柱穴内からの遺物出土数が少なく、切り合いもほとんど見られないことから、判断することは困難を極める。それでも、柱穴の配列や建物位置などから、（ＳＢ３、ＳＢ４、ＳＢ６、ＳＢ８、ＳＢ11、ＳＢ13、ＳＢ14、ＳＢ17）と、（ＳＢ５、ＳＢ10、ＳＢ12、ＳＢ15、ＳＢ17）、（ＳＢ７、ＳＢ９、ＳＢ17）に大別すると考えた。

また、本調査区の東隣にある郷用水は、古代においても同じ箇所で流水していたことが、東方部の発掘調査で明らかとなっている。Ｂ区北東端で検出した大きな落ち込み遺構ＳＸ１は、その遺構の形状から、船着場など郷用水と大きく関わる水利施設にあたると推測している。

時期は、７世紀の須恵器坏など古代の幅のある遺物が出土しているが、全体的な出土量から、９世紀中頃が主体と考えられる。

《中世》

中世は掘立柱建物、竪穴状遺構などで構成される集落跡で、本調査区全般で確認できる。Ａ区南東部、Ａ区中央部より南側、Ａ区南東部、Ｃ区中央部、Ｄ区南部、Ｅ区西端部、Ｅ区東部に左記の遺構が集中しており、この地に居宅を構えていたようである。この居宅地にある掘立柱建物や竪穴状遺構の中には、重複するものがあり、建替えが行われていたことを示している。宅地は５間×４間、４間×３間の中規模の掘立柱建物と、３間×２間、２間×２間の小規模掘立柱建物が各１棟で構成され、１基の竪穴状遺構が敷設する箇所としない箇所に分かれる。井戸は確認していない。未調査区に存在していたと思われ、共同利用されていたと推測する。また、Ａ区北端部を東西に走るＳＤ１・２と、Ｄ区南端で認められる東西方向のＳＤ28・29は、幅１～２ｍの幅をもつ規模の大きい溝で、排水と同時に集落の境界となる可能性をもっている。時期は14世紀代を中心とする。

Ａ区中央部より西側の一角には、ＳＫ１～27の方形を中心とした土坑が集中して見つかっている。土坑の一部からは炭化物や骨片が確認でき、この地で399の宝塔相輪を検出したことから、左記の土坑群は墓坑で、当該地域は墓域であったと考えられる。墓坑群は、古代掘立柱建物ＳＢ７辺りの周りを囲むようにして掘られている。ＳＢ７付近には墓域の中心となる信仰対象物が設置していたかもしれない。なお、墓坑の一つとされるＳＫ３内の350の珠洲焼すり鉢が、伏せた状態で見つかっており、骨蔵器の蓋に転用したと思われる。この墓群は15世紀以降で、集落廃絶後に造成されたと推測する。

参考文献

垣内光次郎	1999「石の文化誌」『中世北陸の石文化Ⅰ』 北陸中世考古学研究会
河合忍　安英樹	1999「石鍬雑考」『石川県考古資料調査・集成事業報告書　農工具』 石川考古学研究会
柿田祐司	2006「加賀・能登の様相」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会
櫻井甚一	1990「福水出土の古密教仏具からみた能登の山林宗教考」『石川縣銘文集成研究編　能登加賀の中世文化』 北国新聞社
田中照久・木村宏一郎	2005「越前」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』 全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～実行委員会
田嶋明人	1988「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 石川考古学研究会　北陸古代土器研究会
藤澤良祐	2008『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
藤田邦夫	1997「中世加賀国の土師器様相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房
宮下幸夫	1997「在地窯「加賀窯」」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』 桂書房
吉岡康暢	1994『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
	1998『富樫館跡Ⅲ』 野々市町教育委員会
	2009『郷クボタ遺跡』 野々市町教育委員会
	2009『徳用クヤダ遺跡Ⅰ』 野々市町教育委員会

第2表　土器・陶磁器・漆器観察表

番号	遺構	器種	口径	器高	底径	調整（外）	色調（外）	残存率	備考	実測番号
			(mm)	(mm)	(mm)	調整（内）	色調（内）			
1	SI 1	弥生甕	164			ヨコナデ、ハケ、ナデ	にぶい黄橙	口縁部　完形	全体的に摩耗	T1
						ヨコナデ、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙			
2	SI 1	弥生甕	178			ヨコナデ、ハケ、ナデ	明黄褐	口縁部　完形	内外面に煤付着	T3
						ヨコナデ、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙～灰黄			
3	SI 1	弥生甕	188	頸部径		ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	5/36		N40
				162		ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
4	SI 1	弥生甕	172	頸部径		ヨコナデ	灰黄褐、黒褐	1/6	外面に煤付着	N6
				150		ヨコナデ	にぶい黄橙			
5	SI 1	弥生壺	102			ヨコナデ	にぶい橙、浅黄橙	1/4	内外面　赤彩	T39
						ヨコナデ、ミガキ、ナデ	にぶい橙、浅黄橙			
6	SI 1	弥生高杯	282			ナデ	灰白、褐灰	1/4		T38
						ナデ、ミガキ	明褐灰			
7	SI 1	弥生鉢	174	頸部径		ミガキ	黒褐、にぶい黄褐	1/6	外面に煤付着	N5
				148		ミガキ	赤褐、にぶい黄橙		内外面　赤彩	
8	SI 1	弥生壺	72	76	40	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙、黒褐	5/6口縁	内面に指頭圧痕	N37
						ミガキ、ナデ	にぶい黄橙、褐灰	胴部～底部まで完形		
9	SI 2	弥生甕			60	ケズリ、ナデ	にぶい黄褐	1/4		N67
						ケズリ、ナデ	黒褐			
10	SI 2	弥生壺	(82)	頸部径		ナデ	橙	1/9		N68
				58		ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐			
11	SI 2	弥生高坏	(214)			ロクロナデ、ミガキ	にぶい橙	1/18	内外面　赤彩	N65
						ミガキ	にぶい橙			
12	SI 2	弥生高坏			裾部径	ミガキ	にぶい黄橙	小片		N64
					40	ミガキ	にぶい黄橙			
13	SI 3	弥生甕	260			ヨコナデ、ナデ	浅黄橙	1/4	摩耗著しい	T2
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙		煤付着	
14	SI 3	弥生甕	162	頸部径		ハケ	にぶい黄橙、黒	1/4	外面に煤付着、擬凹線7条	N31
				127		ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙、にぶい黄橙		指頭圧痕	
15	SI 3	弥生甕	170			ヨコナデ、ナデ	にぶい橙	2/9	摩耗著しい	T26
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙		口縁内部　指頭圧痕	
16	SI 3	弥生甕	168			工具によるナデ、ナデ	にぶい橙	約1/9	擬凹線8条、指頭圧痕	T18
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
17	SI 3	弥生甕	184			ヨコナデ	浅黄橙、にぶい黄橙	1/9	擬凹線7条	T24
						ヨコナデ、ケズリ	褐灰、灰白			
18	SI 3	弥生甕	166	頸部径		ナデ	にぶい褐、黒褐	口縁1/2	擬凹線8条、煤付着	N41
				129		ヨコナデ、ケズリ	橙、にぶい橙		内外面摩耗	
19	SI 3	弥生甕	174			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、浅黄橙	1/4	外面に煤付着（少量）	T23
						ナデ、ケズリ、ハケ	にぶい黄橙、浅黄橙			
20	SI 3	弥生甕	170			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/9		T25
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
21	SI 3	弥生甕	185	頸部径		ヨコナデ	にぶい黄橙、黒褐	1/3	外面に煤付着	N32
				157		ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
22	SI 3	弥生甕	166			ハケ、工具によるナデ	にぶい黄橙	1/6	全体に摩耗	T20
						ケズリ、ナデ	にぶい橙			
23	SI 3	弥生甕	163	頸部径		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	1/3	外面摩耗	N33
				136		ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
24	SI 3	弥生甕	188	頸部径		ヨコナデ	にぶい黄橙	1/7	一部煤付着	N27
				148		ヨコナデ	にぶい黄橙			
25	SI 3	弥生甕	188			ヨコナデ	にぶい橙	1/9		T22
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
26	SI 3	弥生甕	118			ヨコナデ、ナデ、ハケ	にぶい黄橙、にぶい黄褐	1/6	外面、口縁部に煤付着	T21
						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙、浅黄橙			
27	SI 3	弥生高杯	234			ミガキ	浅黄橙	1/9	摩耗著しい	T19
						ミガキ	浅黄橙			
28	SI 3	弥生装飾器台		台部		ナデ	橙	4/9	摩耗	N35
				1層～3層		ナデ	橙			
29	SI 3	弥生高杯		口縁部	脚部径	ナデ、ミガキ	橙	2/3（台の部分）		N34
				78	34	ナデ、ミガキ	橙			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
30	SB2	弥生甕	134			ナデ	灰褐	小片	擬凹線か？ 焼成不良	M3
						ナデ	灰褐			
31	SB2	弥生蓋	つまみ部 40			マメツ不明	橙	ほぼ完形	焼成不良	M4
						マメツ不明	橙			
32	SK 25	弥生底部			56	ナデ	橙、浅黄橙	1/2	焼成並	M126
						ナデ	にぶい黄橙			
33	SD 8	弥生甕	165			ヨコナデ	浅黄橙	1/8	焼成並	M153
						ヨコナデ	浅黄橙			
34	SD 18	弥生甕	(148)	頸部径 112		ヨコナデ	にぶい黄橙、黒褐	1/12	擬凹線、煤付着	N99
						ヨコナデ	にぶい黄橙、明黄褐			
35	SD 18	弥生甕	(170)			ナデ	にぶい黄橙	1/9	外面　摩耗	N100
						ヨコナデ	灰黄			
36	SD 18	弥生甕	150	頸部径 118		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、褐灰、黒褐	口縁　1/4 頸部　1/2	外面　連続刺突紋、煤付着 内面　連続紋	N94
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、褐灰			
37	SD 18	弥生壺			148	ロクロナデ	にぶい黄橙、明赤褐	13/18	内外面　赤彩　摩耗	N98
						ロクロナデ	にぶい黄橙、黄褐、明赤褐			
38	SD 18	弥生甕			43	ハケ、ナデ	にぶい橙、橙	底部　完形		N96
						ハケ、ナデ	褐灰			
39	SD 18	弥生台付土器		頸部径 48		ナデ、ハケ？	にぶい黄橙	小片	赤彩か？（摩耗）	N97
						ナデ	灰白、褐			
40	SD 18	弥生壺孔土器			44～49	ナデ	にぶい橙	底部完形	外面　摩耗、底部歪み あり	N95
						ハケ	にぶい橙			
41	SD 18	弥生高坏			脚部径 (46)	ナデ	浅黄橙	小片	摩耗、しぼり痕	N92
						ナデ	浅黄橙			
42	SD 2	弥生高坏			柱状部径 44	ハケ後ミガキ	にぶい黄橙、橙、褐灰	ほぼ完形	黒斑あり、焼成並	M59
						しぼり目	にぶい橙			
43	SD 12	弥生鉢	139	80	34	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	口縁　1/6 底部完形	指頭圧痕	N36
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙			
44	P14	弥生甕	115			ナデ	灰白	1/6	擬凹線5条、焼成不良	M153
						ナデ、ケズリ	灰白			
45	P23	弥生甕			37	ナデ	にぶい橙	1/2	焼成並	M30
						ナデ	浅黄橙			
46	P43	弥生甕	(192)	頸部径 48		ヨコナデ	橙	1/12	擬凹線12条	N73
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙			
47	P69	弥生甕	(198)			ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁　1/18 頸部　1/7	擬凹線8条	N105
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
48	SX 1	弥生甕	174	頸部径 146	体部径 192	ヨコナデ	黒、にぶい黄橙	1/6	擬凹線6条、指頭圧痕 摩耗	N30
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
49	SX 1	弥生器台	158			ヨコナデ	橙	1/12	摩耗	N29
						ヨコナデ	橙			
50	SX 1	弥生高杯			脚部径 44	ミガキ	にぶい黄橙、オリーブ黒	5/12		N28
						ナデ	にぶい黄橙			
51	旧河道2	弥生底部			27	ナデ	灰白	2/3		M175
						ナデ	にぶい黄橙			
52	旧河道2	弥生甕	179			ナデ	にぶい黄橙	1/12	擬凹線7～8条、煤付着 焼成並	M180
						ナデ、ケズリ	灰黄褐			
53	旧河道2	弥生甕	159			ハケ、ナデ	浅黄橙	1/8	指頭圧痕、煤付着 焼成良	M165
						ナデ	灰黄褐			
54	旧河道2	弥生壺	142			ナデ	にぶい橙	1/8	焼成並	M171
						ナデ、ハケ	にぶい橙			
55	旧河道2	弥生壺	136			ナデ	浅黄橙	小片	焼成並	M179
						ナデ	浅黄橙			
56	旧河道2	弥生壺	184			ハケ	橙	1/5	焼成並	M177
						ナデ、ハケ	にぶい黄橙			
57	旧河道2	弥生壺	162		7.6	ナデ	にぶい黄橙、橙	1/6	外面に透穴2、沈線4条 焼成並	M176
						ハケ、ナデ	にぶい黄橙、橙			
58	SD 2	須恵器坏身	149			ロクロナデ	灰	1/8		M63
						ロクロナデ	灰			
59	SK 16	須恵器有台坏			72	ロクロナデ	灰	1/4	焼成並	M9
						ロクロナデ	灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
60	SK 25	須恵器有台坏			70	ロクロナデ、ヘラ切り	黄灰、灰	1/3	焼成並	M133
						ロクロナデ	灰			
61	SK 25	須恵器有台坏			67	ロクロナデ	黄灰	ほぼ完形	焼成並	M132
						ロクロナデ	黄灰			
62	SK 25	須恵器有台坏			76	ヘラ切り	灰	1/2	焼成やや不良	M134
						ロクロナデ	灰			
63	SK 25	須恵器有台坏			66	ヘラ切り	灰白	ほぼ完形	焼成不良	M135
						ロクロナデ	灰白			
64	SD 1	須恵器有台坏			70	ヘラ切り	灰	底部完形	焼成良	M111
						ロクロナデ	黄灰			
65	SD 2	須恵器有台坏			70	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	2/3	焼成並	M67
						ロクロナデ	灰			
66	SD 2	須恵器有台坏			82	ロクロナデ	黄灰	1/8	焼成並	M66
						ロクロナデ	黄灰			
67	SD 8	須恵器有台坏			59	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/4	焼成並	M97
						ロクロナデ、ヘラ切り	灰			
68	SD 8	須恵器有台坏	102	43	69	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/2	焼成良	M103
						ロクロナデ	灰白			
69	P3	須恵器有台坏			93	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/5	焼成良	M51
						ロクロナデ	灰			
70	P7	須恵器有台坏	73			ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/3	焼成並	M50
						ロクロナデ	灰			
71	P20	須恵器有台坏			86	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/3	焼成並	M44
						ロクロナデ、ヘラ切り	灰白			
72	P26	須恵器有台坏			78	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/2	焼成並	M34
						ロクロナデ	灰			
73	P37	須恵器有台坏	126	43	80	ロクロナデ	灰、灰白	1/3 口縁 1/2 底部	墨書　文字不明瞭	N7
						ロクロナデ	灰白			
74	P41	須恵器有台坏			105	ロクロナデ	灰	底部完形		N10
						ロクロナデ	灰白			
75	P47	須恵器有台坏			74	ロクロナデ	灰	1/4		N87
						ロクロナデ	灰			
76	SX 1	須恵器有台坏			102	ロクロナデ	灰白、灰	1/4		N16
						ロクロナデ	灰白			
77	SX 1	須恵器有台坏			105	ロクロナデ	灰白	2/9		N13
						ロクロナデ	灰白			
78	SX 1	須恵器有台坏			84	ロクロナデ	灰	1/4		N15
						ロクロナデ	灰			
79	旧河道2	須恵器有台坏			64	ロクロナデ	灰	1/4	重焼痕	N9
						ロクロナデ	灰			
80	旧河道2	須恵器坏			76	ロクロナデ	黄灰、暗灰	1/2	重焼痕	N24
						ロクロナデ	黄灰			
81	旧河道1	須恵器有台坏			70	ロクロナデ、ナデ	灰褐	1/3		N23
						ロクロナデ	灰褐			
82	旧河道2	須恵器有台坏			79	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/3	焼成　やや不良	M169
						ロクロナデ	灰白			
83	旧河道3	須恵器有台坏			76	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/3	焼成並	M170
						ロクロナデ	灰			
84	SI 11	須恵器有台坏			72	ロクロナデ	灰	1/5		N34
						ロクロナデ	灰			
85	包含層	須恵器有台坏			81	ロクロナデ	黄灰	1/8	焼成並	M88
						ロクロナデ	黄灰			
86	包含層	須恵器有台坏			85	ロクロナデ	灰	1/4	焼成並	M152
						ロクロナデ	灰			
87	包含層	須恵器有台坏			86	ロクロナデ	オリーブ黒、灰	1/4		N10
						ロクロナデ	灰			
88	包含層	須恵器有台坏			100	ロクロナデ	黄灰	1/7		N12
						ロクロナデ	黄灰			
89	包含層	須恵器坏			79	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/4	焼成並	M139
						ロクロナデ	灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
90	包含層	須恵器坏			87	ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/6	焼成良	M140
91	SK 32	須恵器坏			60	ロクロナデ ロクロナデ	灰黄 灰黄	1/4		N38
92	SD 1	須恵器坏			60	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰白 灰白	1/6	焼成やや不良	M117
93	SD 1	須恵器坏			79	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰白 灰白	1/3	焼成やや不良	M107
94	SD 2	須恵器坏			70	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰白 灰白	1/4	煤付着 焼成不良	M65
95	SD 2	須恵器坏	127	28	84	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/6	焼成並	M64
96	SD 2	須恵器坏	(131)			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/14	焼成並	M78
97	SD 8	須恵器坏			76	ロクロナデ ロクロナデ	灰褐 灰褐	1/2	焼成並	M104
98	SD 18	須恵器坏	138	35	74	ロクロナデ ロクロナデ	灰、灰黄 灰、灰黄	1/6	摩耗、焼成不良	N102
99	P2	須恵器坏	115	32	66	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰黄 灰黄	1/3	焼成並	M56
100	P5	須恵器坏	133	30	94	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/4	焼成並、歪み大	M49
101	P9	須恵器坏			98	ヘラ切り ロクロナデ	灰白 灰白	1/7	焼成不良	M55
102	P22	須恵器坏	133	28	80	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/4	焼成並	M36
103	P25	須恵器坏	132	31	82	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰白 灰白	1/5	焼成並	M32
104	P28	須恵器坏	116			ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/10	焼成並	M20
105	P28	須恵器坏	110			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/4	焼成並	M19
106	P35	須恵器坏	121	35	77	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	褐灰、灰白 灰白	3/5	焼成不良 重焼痕	M28
107	P37	須恵器坏	126	31	72	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/4	内外面に鉄分付着	N8
108	P38	須恵器坏	132	34	80	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/4	工具痕	N11
109	P46	須恵器坏			64	ロクロナデ ロクロナデ	黒褐 灰黄褐、黒褐	1/3	煤付着、摩耗、焼成不良	N84
110	旧河道1	須恵器坏			78	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/4		N43
111	旧河道1	須恵器坏			76	ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰白	1/6	焼成不良	N44
112	旧河道1	須恵器坏			60	ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰白	1/4		N45
113	旧河道1	須恵器坏			68	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/6		N25
114	包含層	須恵器坏			76	ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰黄	1/4	焼成不良	N11
115	SK 15	須恵器坏	120			ロクロナデ ロクロナデ	褐灰 黄灰	1/8	焼成並、重焼痕	M8
116	SD 8	須恵器坏	155			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/8	焼成良	M102
117	SD 1	須恵器坏	137			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰白	1/6	焼成良	M109
118	P11	須恵器坏	128			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/10	焼成並	M47
119	P13	須恵器坏	128			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/8	焼成並、重焼痕	M48

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
120	P24	須恵器坏	167			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/8	焼成良	M31
121	P33	須恵器坏	107			ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰	1/12	焼成良、重焼痕	M26
122	旧河道1	須恵器坏	128			ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰白	5/18		N41
123	包含層	須恵器坏	(180)			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/18		N18
124	包含層	須恵器坏	134			ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰	1/10	重焼痕	N16
125	包含層	須恵器坏	142			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/5		N13
126	包含層	須恵器坏	(138)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	小片		N17
127	SD 2	須恵器蓋	つまみ径 26			ロクロナデ ロクロナデ	褐灰 褐灰	1/3	焼成並	M60
128	SD 8	須恵器蓋	149			ロクロナデ ロクロナデ	褐灰 黄灰	1/7	焼成良、重焼痕	M99
129	P28	須恵器蓋	つまみ径 26			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	つまみ完形	焼成良	M21
130	包含層	須恵器蓋	つまみ径 26			ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰白	つまみ完形 小片		N8
131	包含層	須恵器蓋	170	24	つまみ径 26	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/9		N7
132	包含層	須恵器蓋	つまみ径 24			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/3		N19
133	P29	須恵器蓋	14			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/8	焼成良、重焼痕	M22
134	P46	須恵器蓋	179	16	130	ロクロナデ ロクロナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/9	焼成不良	N81
135	包含層	須恵器蓋	108			ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰白	1/12	焼成並	M151
136	SK 30	須恵器蓋	(120)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/9		N35
137	SD 2	須恵器蓋	164			ロクロナデ ロクロナデ	青灰 青灰	1/8	焼成良	M62
138	SD 2	須恵器蓋	143			ロクロナデ ロクロナデ	灰白 灰白	1/6	焼成並	M61
139	SD 8	須恵器蓋	124			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/5	焼成良、重焼痕	M95
140	SD 8	須恵器蓋	179			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/3	焼成並、重焼痕	M94
141	SD 8	須恵器蓋	116			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/8	焼成良、重焼痕	M96
142	P1	須恵器蓋	(128)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	小片	焼成並	M17
143	P6	須恵器蓋	(132)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	小片	焼成並、重焼痕	M16
144	P10	須恵器蓋	(160)			ロクロナデ ロクロナデ	灰黄 灰黄	小片	焼成不良	M180
145	P17	須恵器蓋	126			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/5	焼成並、重焼痕	M42
146	P18	須恵器蓋	133			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/12	焼成並	M13
147	P20	須恵器蓋	165			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/12	焼成並、重焼痕	M45
148	P42	須恵器蓋	(139)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/9		N4
149	旧河道1	須恵器蓋	(170)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	小片		N42

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
150	旧河道1	須恵器坏蓋	150		90	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰白	1/12		N47
151	旧河道2	須恵器蓋	180			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/12	焼成並	M173
152	包含層	須恵器蓋	(116)			ロクロナデ ロクロナデ	褐 褐	小片	焼成並	M150
153	包含層	須恵器蓋	119	13		ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/10	焼成良、重焼痕	M146
154	包含層	須恵器蓋	(109)			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	小片	焼成並	M149
155	SK 31	須恵器盤	(162)	30	108	ロクロナデ ロクロナデ	灰白、灰 灰黄、黄灰	1/9	重焼痕	N32
156	P4	須恵器盤	163	25	127	ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/8	焼成良	M52
157	P16	須恵器盤	186	24	164	ロクロナデ ロクロナデ	灰、灰白 灰白	1/9	焼成良、重焼痕	M40
158	P23	須恵器盤	159	27	127	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰黄 灰黄	1/4	焼成並	M29
159	P30	須恵器盤			105	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/3	焼成良	M23
160	P31	須恵器盤	161	20	120	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/16	焼成並	M24
161	SX 1	須恵器盤	(160)			ロクロナデ ロクロナデ	灰白、灰 灰白	1/12		N14
162	旧河道1	須恵器盤	154	20	124	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/7	内外面　黒い一本線 重焼痕	N46
163	旧河道2	須恵器盤	172	22	127	ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/2	焼成良、重焼痕	M168
164	旧河道2	須恵器盤	144			ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/6	焼成良、重焼痕	M166
165	旧河道2	須恵器盤	177			ロクロナデ、ヘラ切り ロクロナデ	灰 灰	1/6	焼成良、重焼痕、黒書	M174
166	包含層	須恵器盤	170	24	150	ロクロナデ ロクロナデ	にぶい褐、灰白 灰、褐灰	1/4	外底部　格子状文様	T43
167	包含層	須恵器盤	(140)			ロクロナデ ロクロナデ	灰黄 黄灰	1/9		N14
168	包含層	須恵器盤	138			ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	1/7		N15
169	旧河道1	須恵器有台皿	138	32	66	ロクロナデ ロクロナデ	灰 灰	口縁　1/4 底部完形		N40
170	P38	須恵器小壺	66	51	50	ロクロナデ ロクロナデ	黄、黄灰 灰	口縁　1/5 底部　1/2		N12
171	SK 25	須恵器甕	367			ロクロナデ ロクロナデ	黒褐、黄灰 黄灰	1/14	焼成並	M131
172	SK 25	須恵器甕	286			ロクロナデ ロクロナデ	灰 黄灰	1/10	焼成並	M130
173	SK 25	須恵器甕	180			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/10	焼成良	M129
174	SD 8	須恵器甕	166			ロクロナデ ロクロナデ	灰黄 黄灰	1/8	焼成良、降灰	M100
175	SD 2	須恵器甕	254			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 灰白	1/20	焼成並	M69
176	旧河道2	須恵器甕	239			ロクロナデ ロクロナデ	灰、黒褐 灰オリーブ	小片	焼成並、自然釉降灰	M172
177	P48	須恵器瓶	115			ロクロナデ ロクロナデ	黄灰 黄灰	1/5	自然釉降灰	N80
178	旧河道1	須恵器瓶		胴部径 63		ロクロナデ ロクロナデ	黄灰、灰黄 黄灰	1/2	自然釉降灰	N22
179	SK 6	須恵器横瓶	R(206)			カキ目 タタキ	灰黄 灰白	小片	焼成良、自然釉 指頭圧痕、同心円	M6

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
180	SD 2	須恵器甕	388			ナデ	灰、灰オリーブ	1/10	降灰	M87
						ナデ、タタキ	灰			
181	SD 8	須恵器甕			216	ナデ、タタキ	黄灰	1/8	焼成良、降灰、同心円	M101
						ナデ	黄灰			
182	P19	須恵器甕		頸部径 195		ナデ、タタキ	黄灰	1/8	焼成並 細かなウロコ状　同心円	M46
						ナデ、タタキ	褐灰			
183	包含層	須恵器甕		頸部径 313		ナデ	黒褐、黄灰	小片	焼成良、降灰、同心円	M91
						ナデ、タタキ	灰			
184	SD 2	須恵器瓶			163	ナデ	灰	1/4	焼成並、降灰	M83
						ナデ	灰			
185	SD 2	須恵器瓶			113	ナデ	褐灰	1/8	焼成並	M80
						ナデ	灰白			
186	P15	須恵器瓶			102	ナデ	灰	1/5	焼成並	M41
						ナデ	灰白			
187	包含層	須恵器瓶	155			ナデ	灰	1/6	焼成並	M89
						ハケ	灰			
188	包含層	須恵器瓶			128	ナデ	灰、灰白	1/4	焼成良	M142
						ハケ	灰			
189	SD 8	須恵器瓶			143	タタキ、ナデ、ハケ	灰	1/5	焼成並	M106
						タタキ、ナデ、ハケ	灰白			
190	SD 9	須恵器瓶			114	ナデ	灰	1/2	焼成良、降灰	M105
						ハケ、ナデ	灰白			
191	旧河道1	土師器有台坏			84	ナデ	にぶい黄橙	1/5	外面　赤彩 内面　黒色	N58
						ミガキ	黒			
192	SX 3	土師器有台坏			69	ミガキ	にぶい褐	8/9	外面　摩耗、赤彩 内面　黒色	N31
						ミガキ	黒			
193	包含層	土師器有台坏			70	ナデ	にぶい黄橙、灰	2/3	外面　赤彩 内面　黒色、剥離	N62
						ナデ	オリーブ黒			
194	SK 25	土師器埦			74	ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	1/4	焼成不良、剥離ぎみ	M127
						ナデ	にぶい橙			
195	旧河道1	土師器有台埦			66	ナデ	にぶい橙	1/5	摩耗	N52
						ナデ	にぶい褐、灰黄褐			
196	SD 6	土師器埦			46	ナデ	にぶい橙	1/8	外面　赤彩 内面　黒色	N69
						ミガキ	オリーブ黒			
197	SK 42	土師器埦	169	55	69	ナデ、回転糸きり後ナデ	にぶい黄橙	底部ほぼ完形 口縁　1/3		N88
						ミガキ	黒			
198	SD 8	土師器埦			53	ナデ	にぶい黄橙	1/3	焼成並、摩耗	M93
						ナデ	褐灰			
199	旧河道1	土師器埦			48	ナデ	にぶい黄橙	1/4		N56
						ナデ	黒			
200	旧河道1	土師器埦			68	ナデ	にぶい黄橙	1/2		N53
						ミガキ	オリーブ黒			
201	旧河道1	土師器坏			68	ナデ	にぶい黄橙、オリーブ黒	底部定形		N63
						ミガキ	黒			
202	包含層	土師器埦			66	ナデ	にぶい黄橙	2/9		N2
						ナデのちミガキ	黒褐			
203	P76	土師器埦			45	ナデ	にぶい黄橙	1/4	内面黒色、焼成並	M14
						ナデ	黒褐			
204	包含層	土師器埦			48	ナデ	にぶい黄橙	1/2		N71
						ミガキ	黒			
205	SK 15	土師器埦			81	ナデ	にぶい黄橙	1/4	焼成並、糸切り痕	M7
						ナデ	にぶい黄橙			
206	SD 1	土師器埦			64	ナデ	橙	1/4	焼成並	M116
						ナデ	橙			
207	P37	土師器埦	(136)			ヨコナデ	にぶい黄橙、橙	1/9	外面　赤彩、摩耗 内面　黒色	N9
						ミガキ	黒			
208	旧河道1	土師器埦	160			ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄褐	1/7	口縁部摩耗、赤彩	N59
						ミガキ	黒、にぶい黄橙			
209	包含層	土師器埦	(140)			ヨコナデ	にぶい褐	小片	外面摩耗、赤彩 内面黒色	N3
						ナデ、ミガキ	黒褐			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
210	SD 6	土師器埦	(180)			ナデ	にぶい黄橙	小片	摩耗	N61
						ミガキ	オリーブ黒			
211	P48	土師器埦	(166)			ヨコナデ	浅黄橙、灰	1/12	内外面摩耗	N82
						ミガキ	黒			
212	旧河道1	土師器埦	(210)			ナデ	にぶい黄橙、灰	1/18		N55
						ミガキ	黒			
213	旧河道1	土師器埦	230			ナデ、ミガキ	にぶい黄橙、オリーブ黒	1/3		N51
						ミガキ	黒、オリーブ黒			
214	包含層	土師器埦	(212)			ナデ、ミガキ	にぶい黄橙、オリーブ黒	1/9	内面黒色	N54
						ミガキ	オリーブ黒、黒			
215	包含層	土師器埦	(110)			ヨコナデ	黒褐、浅黄橙	小片	外面摩耗	N1
						ナデ、ミガキ	黒			
216	包含層	土師器埦	(107)			ナデ	灰白、褐灰	小片	焼成並、黒斑	M27
						ミガキ	黒褐			
217	包含層	土師器埦	(141)			ナデ	黒褐、にぶい黄橙	小片	焼成並、煤付着	M54
						ミガキ	黒褐			
218	包含層	土師器埦	(120)			ロクロナデ	にぶい黄橙、褐灰	1/12	内面黒色	N60
						ミガキ	黒			
219	包含層	土師器皿	(140)			ヨコナデ	褐灰、にぶい黄橙	小片	内面黒色	N6
						ナデ、ミガキ	黒			
220	旧河道1	土師器皿	145	26	56	ロクロナデ	にぶい褐	口縁　わずか 底部　1/4	外面　赤彩 内面　黒色	N57
						ミガキ	黒			
221	SK 15	土師器鉢	172			ナデ	浅黄橙	1/12	焼成良	M121
						ナデ	浅黄橙			
222	SK 30	土師器鍋	(310)			ナデ	にぶい黄橙	小片		N36
						ナデ、カキ目	にぶい黄橙			
223	SD 2	土師器甕	(331)			ナデ	灰白	小片	焼成不良	M84
						ナデ	灰白			
224	SD 16	土師器甕	(282)			ナデ	にぶい黄橙	小片		N37
						ナデ	にぶい黄橙			
225	SD 8	土師器甕	(300)			ナデ	浅黄橙、にぶい黄褐	小片	焼成良、煤付着	M98
						ナデ	浅黄橙、にぶい黄褐			
226	P8	土師器甕	136			ナデ	にぶい褐、黒褐	1/8	焼成不良	M53
						ナデ	にぶい褐、黒褐			
227	P20	土師器甕	160			ナデ	にぶい黄褐	1/12	焼成良	M12
						ナデ	にぶい黄褐			
228	P21	土師器甕	183			ヨコナデ	浅黄橙	1/10	焼成並	M38
						ヨコナデ	浅黄橙			
229	P21	土師器甕	233			ヨコナデ	浅黄橙	1/10	焼成並、煤付着	M39
						ヨコナデ	浅黄橙			
230	P21	土師器甕	212			ヨコナデ	浅黄橙、にぶい黄橙	1/4	焼成並、煤付着	M37
						ヨコナデ	にぶい褐、浅黄橙			
231	P32	土師器甕	160			ナデ	にぶい橙	1/14	焼成並	M11
						ナデ	にぶい橙			
232	P34	土師器甕	(275)			ナデ	にぶい橙	小片	焼成良	M25
						ナデ	にぶい橙			
233	包含層	土師器甕	224	頸部径 180		ナデ、カキ目	にぶい黄橙	1/4	内外面摩耗	N70
						ナデ	にぶい黄橙			
234	包含層	土師器甕	(201)			ヨコナデ	にぶい橙	小片	焼成並	M156
						ヨコナデ	にぶい橙			
235	包含層	土師器甕	216	頸部径 190		ヨコナデ	浅黄橙	小片	内面摩耗	N46
						ヨコナデ	浅黄橙			
236	旧河道1	土師器甕			76	ナデ	灰黄	1/4		N21
						ナデ	にぶい黄橙			
237	SD 8	土師器瓶				ナデ	にぶい黄橙		把手、煤付着	M154
							にぶい橙			
238	旧河道2	土師器皿	77			ナデ	にぶい黄橙、褐灰	1/2	焼成並 全体の3/4くらい黒斑	M157
						ナデ	褐灰、にぶい橙			
239	SI 5	土師器皿	78	16	48	ナデ	にぶい黄橙	1/4		N63
						ナデ	にぶい黄橙			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
240	SI 5	土師器皿	68	13	54	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	口縁　1/12 底部　1/3	歪み	N84
241	SI 5	土師器皿	80	11	64	ナデ ナデ	橙、にぶい橙 橙、にぶい橙	1/6	内外面摩耗	N85
242	SI 6	土師器皿	72	16	46	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6		N16
243	SI 6	土師器皿	62	13	38	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6		N17
244	SI 6	土師器皿	62	15	30	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6		N21
245	SI 6	土師器皿	80			ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6		N23
246	SI 6	土師器皿	(90)	24		ヨコナデ、ナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	小片		N14
247	SI 6	土師器皿	72			ナデ ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/5	内外面摩耗	N20
248	SI 6	土師器皿	94			ヨコナデか ヨコナデか	にぶい黄橙、褐灰 にぶい黄橙	1/7	内外面摩耗	N18
249	SI 6	土師器皿	90		10	ヨコナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/7		N19
250	SI 6	土師器皿	101	17	70	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	灰黄褐、にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6		N11
251	SI 9	土師器皿	76	8～12	53	ナデ ナデ	にぶい橙 にぶい橙	1/2	内外面摩耗、歪み	N52
252	SI 9	土師器皿	80	13	52	ナデ ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	1/9	内外面摩耗	N53
253	SI 9	土師器皿	(80)	12	50	ナデ ナデ	にぶい橙 にぶい橙、灰褐	1/7	内外面摩耗	N54
254	SI 10	土師器皿	78	18	40	ナデ ナデ	にぶい橙 にぶい橙	ほぼ完形	摩耗	N30
255	SI 10	土師器皿	78			ナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	1/5	摩耗	N31
256	SI 12	土師器皿	95	16	50	ナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	1/7	摩耗	N35
257	SI 12	土師器皿	84	17	40	ヨコナデ、ナデ ナデ、ヨコナデ	浅黄橙、黒褐、褐灰 灰白、黒褐、褐灰	口縁　1/6 底部　5/12		N36
258	SI 13	土師器皿	74	12	54	ナデ ナデ	浅黄橙 にぶい橙	1/4	内外面摩耗	N106
259	SK 16	土師器皿	91	16		ナデ ナデ	にぶい橙、にぶい黄橙 にぶい黄橙	ほぼ完形	焼成不良	M10
260	SK 30	土師器皿	86			ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6		N34
261	SK 31	土師器皿	66	13	20	ナデ ナデ	にぶい橙、灰褐 橙、灰褐	1/6	内外面摩耗、煤付着 灯明痕	N30
262	SK 37	土師器皿	90			ナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/4	内面摩耗	N45
263	SK 37	土師器皿	94			ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/7		N46
264	SD 1	土師器皿	89	13		ナデ ナデ	橙 橙	1/5	焼成良	M114
265	SD 1	土師器皿	77	21		ナデ、ヨコナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6	焼成良、指頭圧痕	M113
266	SD 2	土師器皿	95	22		ナデ ナデ	灰白 にぶい橙	1/4	焼成並	M58
267	SD 14	土師器皿	82	15	50	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 橙	1/3		N77
268	SD 14	土師器皿	93	18	40	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙、黒褐	1/7	歪み	N76
269	SD 29	土師器皿	68～75	15	40	ナデ ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	3/4	内外面摩耗	N101

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
270	P55	土師器皿	(76)	15	50	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい橙、黒褐 浅黄橙、黒褐	1/9	油煤付着	N92
271	P56	土師器皿	(104)	13	74	ヨコナデ ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	1/9	外面摩耗	N89
272	P58	土師器皿	62	12	30	ヨコナデ ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	2/9	内外面摩耗	N104
273	P62	土師器皿	(69)	90	50	ヨコナデ、ナデ ナデ、ヨコナデ	浅黄橙、黒 浅黄橙、黒	1/9	内外面煤付着	N93
274	P66	土師器皿	70	12	40	ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙、灰黄褐	1/5	摩耗により調整不明瞭	N69
275	P67	土師器皿	68	10～12		ヨコナデ ヨコナデ	にぶい橙 黒	2/9	内外面摩耗、油煤付着 歪み	N101
276	P70	土師器皿	90	12	70	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙、にぶい橙 にぶい黄橙、にぶい橙	1/6	摩耗	N98
277	SX 2	土師器皿	82	16		ヨコナデ、指頭圧痕 ナデ	にぶい褐 灰褐	1/4	焼成並 指頭圧痕、掌の痕？	M5
278	旧河道2	土師器皿	88	12	76	ナデ ナデ	にぶい橙、褐灰 橙	4/5	指頭圧痕	M158
279	旧河道2	土師器皿	76	14		ナデ ナデ	灰黄橙 にぶい褐	1/6	焼成不良、指頭圧痕	M159
280	旧河道2	土師器皿	79	18		ナデ ナデ	浅黄橙 浅黄橙	ほぼ完形	焼成良	M164
281	包含層	土師器皿	90	15	54	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 にぶい橙	1/9		N72
282	SI 5	土師器皿	113			ヨコナデ、ナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/9		N65
283	SI 5	土師器皿	110			ヨコナデ、ナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/5		N64
284	SI 5	土師器皿	110			ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/9		N66
285	SI 6	土師器皿	(114)			ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/7		N22
286	SI 6	土師器皿	116	21	66	ヨコナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/2		N12
287	SI 6	土師器皿	(110)			ナデ ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	小片		N15
288	SI 11	土師器皿	110			ナデ ナデ	浅黄橙、灰白 浅黄橙、灰白	1/6	内外面摩耗	N33
289	SI 12	土師器皿	(125)			ナデ、ヨコナデ 	にぶい橙 にぶい橙	小片	内面摩耗	N37
290	SI 14	土師器皿	112	26	68	ヨコナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/6	摩耗、外面剥離	N109
291	SD 2	土師器皿	123			ナデ ナデ	橙 橙	1/8	焼成並	M57
292	SD 17	土師器皿	(130)			ロクロナデ 	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/12		N50
293	SD 30	土師器皿	105	25	70	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙、灰黄褐	1/3		N91
294	SX 5	土師器皿	120			ヨコナデ、ナデ ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい橙、黒褐	1/12		N50
295	包含層	土師器皿	110	20	80	ヨコナデ、ナデ ヨコナデ	にぶい黄橙、灰白 にぶい黄橙	1/6	外面摩耗	N125
296	包含層	土師器皿	114	24	82	ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/4	付着物多い	N131
297	包含層	土師器皿	114			ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	1/9	外面摩耗	N130
298	SI 12	土師器皿	152			ヨコナデ ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	1/7	内外面摩耗	N38
299	SD 1	土師器皿	135			ナデ ナデ	浅黄橙、にぶい黄橙 浅黄橙	1/8		M108

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
300	SD 1	土師器皿	148			ナデ ナデ	橙 橙	1/8	焼成前、指頭圧痕	M115
301	P50	白磁碗	(160)			白磁釉 白磁釉	灰白 灰白	1/18		N83
302	P74	白磁碗	(150)			白磁釉 白磁釉	灰白 灰白	1/12		N97
303	包含層	白磁碗			60	白磁釉 白磁釉	灰白 灰白	1/3	蛇ノ目釉剥ぎ アルミナ付着	M148
304	SD 2	白磁皿	108			白磁釉 白磁釉	灰白 灰白	1/16		M185
305	P72	白磁皿	114			白磁釉 白磁釉	灰白 灰白	1/6		N99
306	P49	白磁皿			40	白磁釉 白磁釉	灰白、灰オリーブ 灰白、灰	1/2	糸切り痕	N86
307	SI 5	青磁碗	(172)			青磁釉 青磁釉	オリーブ灰 オリーブ灰	1/18		N56
308	SI 5	青磁碗	(148)			青磁釉 青磁釉	灰オリーブ 灰オリーブ	1/12		N57
309	P71	青磁碗	150			青磁釉 青磁釉	灰 灰	1/7		N79
310	P57	青磁碗	(140)			青磁釉 青磁釉	灰オリーブ 灰オリーブ	小片	蓮弁文	N103
311	P54	青磁碗			94	青磁釉 青磁釉	明緑灰 明緑灰	1/9	内外壁剥、釉剥ぎ	N100
312	SI 8	青磁皿	(154)	2.8		青磁釉 青磁釉	灰オリーブ 灰オリーブ	1/18	蓮弁文	N51
313	SI 10	青磁皿	88	30	40	青磁釉 青磁釉	明オリーブ オリーブ灰	口縁　1/4 底部　1/2強	釉剥ぎ	N27
314	SI 4	青磁皿	80			青磁釉 青磁釉	明緑灰 明緑灰	小片		M125
315	SI 6	瀬戸平碗	170			灰釉 灰釉	灰オリーブ 灰オリーブ	1/2		N2
316	SK 37	瀬戸平碗	(160)			灰釉 灰釉	灰オリーブ、灰白 灰オリーブ	1/18	露胎	N43
317	SD 19	瀬戸平碗	(162)			灰釉 灰釉	オリーブ黄、灰黄 オリーブ黄	1/18	露胎	N124
318	SI 5	瀬戸天目 茶碗	(130)			鉄釉 鉄釉	黒、にぶい褐 黒、にぶい褐	1/18		N57
319	SK 25	瀬戸天目 茶碗	120	62	46	鉄釉 鉄釉	暗赤褐、赤黒 にぶい赤褐	ほぼ完形	釉に光沢が無い	M137
320	SI 5	瀬戸卸皿	(190)			灰釉 灰釉	灰白 灰白	1/18	卸目わずかに残る	N1
321	SI 6	瀬戸卸皿			(62)		にぶい黄橙 にぶい黄橙、褐	小片	卸目、回転糸切り痕	N3
322	P75	瀬戸卸皿			(78)		淡黄 灰白	小片	卸目、回転糸切り痕	N111
323	P59	瀬戸折縁 皿	(198)			灰釉	灰オリーブ オリーブ灰	1/18		N102
324	P66	瀬戸大皿	(240)				灰白 灰白	1/9		N68
325	SI 5	瀬戸皿			(76)		灰白 灰白	1/7	回転糸切り痕	N59
326	SI 5	瀬戸直縁 大皿			130		にぶい黄橙 灰白	1/4	回転糸切り痕	N60
327	P65	瀬戸瓶子	体部最大径 178			灰釉	灰オリーブ 灰黄	口縁なし 体部　2/3程度	指頭圧痕	N77
328	包含層	瀬戸瓶子			94	灰釉	にぶい黄橙 にぶい黄	1/4		N114
329	SI 13	瀬戸壺	127				オリーブ黄 灰オリーブ	小片	漆継ぎ	N105

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
330	SD 17	瀬戸壺	116			灰釉	黄と灰オリーブ混合	1/9		N49
						灰釉	灰オリーブ			
331	SK 38	瀬戸水注				灰釉	灰オリーブ、灰白	小片		N280
							灰白、灰			
332	SK 31	加賀甕					灰オリーブ	小片		N33
							灰黄			
333	SD 29	加賀甕					灰	小片		N108
							灰			
334	SK 26	越前甕			142		にぶい橙	1/6	焼成並、降灰	M123
							明褐			
335	SK 37	越前甕			(130)		灰褐、黒褐、灰褐	小片		N47
							暗灰褐			
336	SD 1	越前甕			161		褐灰	1/4	板状具痕、指頭圧痕 焼成並	M118
							にぶい黄橙			
337	SD 2	越前 すり鉢	315				にぶい黄橙	小片	焼成並	M82
							にぶい黄橙			
338	SD 2	越前 すり鉢					にぶい黄橙	小片	焼成並、卸目9本	M71
							灰白			
339	SK 29	越前壺	96				灰オリーブ、にぶい黄褐	1/4	自然釉、接合痕	N26
							灰オリーブ、にぶい黄褐			
340	SK 37	珠洲小壺	体部最大径 70				灰、灰白	4/9		N40
							灰白			
341	SD 2	珠洲甕			112		灰黄	1/3	焼成並	M75
							灰白			
342	SD 2	珠洲甕			197		灰白	1/4	焼成並	M74
							灰			
343	SD 2	珠洲甕	487				オリーブ黒、灰	小片	焼成並	M81
							オリーブ黒、灰			
344	包含層	珠洲壺					灰	小片	焼成良	M90
							灰			
345	P73	珠洲壺	175				灰	1/4	自然釉	N87
							灰			
346	SD 2	珠洲壺			117		灰	1/12	焼成並	M76
							灰			
347	SD 2	珠洲壺			192		灰	1/8	焼成並	M72
							灰			
348	包含層	珠洲壺			120		灰	1/6	静止糸切り痕	N115
							灰			
349	SI 6	珠洲 すり鉢			(120)		灰白	1/2	静止糸切痕、指頭圧痕、 卸目	N7
							灰白			
350	SK 3	珠洲 すり鉢	384	130	165		灰	ほぼ完形	櫛目波状文、卸目9本	M1
							黄灰			
351	SI 10	珠洲 すり鉢	(340)				灰	小片	卸目	N29
							灰			
352	SK 37	珠洲 すり鉢			126		灰白、黄灰	1/4	工具痕、指頭圧痕、卸目	N41
							灰			
353	SK 37	珠洲 すり鉢			(124)		灰	1/9	指頭圧痕、卸目	N42
							灰白、灰			
354	SD 2	珠洲 すり鉢	200				灰	1/8	重焼痕、焼成並	M79
							灰			
355	SD 2	珠洲 すり鉢			107		灰	1/2	焼成並、 回転糸切り痕	M73
							灰白			
356	SD 2	珠洲 すり鉢	360				灰白	1/12	焼成並	M70
							灰白			
357	SD 17	珠洲 すり鉢	288				灰	1/7		N48
							灰			
358	SD 28	珠洲 すり鉢	(238)				灰	小片	骨針 卸目	N110
							灰			
359	P64	珠洲 すり鉢	(304)				灰	1/12	卸目	N78
							灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整（外） 調整（内）	色調（外） 色調（内）	残存率	備考	実測 番号
360	旧河道2	珠洲 すり鉢					黄灰 黄灰	小片	焼成並	M167
361	SX 5	珠洲 すり鉢					灰 灰	小片	卸目	N49
362	壁面	珠洲 すり鉢	(334)				灰 灰、暗黄灰	1/9	卸目	N127
363	包含層	珠洲 すり鉢	272				灰 灰	1/8	焼成並	M144
364	包含層	珠洲 すり鉢	(200)				灰黄 黄灰、灰黄	1/18		N132
365	包含層	珠洲 すり鉢			114		灰白 灰白	1/3	焼成不良、静止糸切り	M141
366	SK 45	瓦質火鉢			138		にぶい黄橙 黄灰	1/3		N104
367	包含層	越前 すり鉢	297				灰褐、にぶい橙 にぶい橙、灰褐	1/9	焼成良、卸目6本	M145
368	SD 3	肥前碗			45	施釉	灰白、にぶい橙 灰	1/2		N27
369	SD 3	唐津碗			58	透明釉 透明釉	にぶい橙 灰黄	1/4	露胎	N29
370	包含層	肥前碗			45	透明釉 透明釉	オリーブ灰 明緑灰	1/4	見込みに染付菊花文	M147
371	SI 4	肥前皿			32	透明釉 露胎	灰白、橙 灰白、橙	ほぼ完形	焼成並 煤付着、碁笥底	M124
372	包含層	肥前皿			44	透明釉 透明釉	灰白、にぶい橙 灰白、にぶい橙	ほぼ完形	畳付全面に砂付着 蛇ノ目釉剥ぎ	M120
373	SK 25	肥前碗			57	透明釉 透明釉	青灰 青灰	1/8	染付	M136
374	SK 27	肥前碗			35	透明釉 透明釉	灰白 灰白	1/2	色絵 見込みに赤銅色で文字	M122
375	SK 46	瀬戸平碗			65	灰釉 灰釉	オリーブ灰、灰白 オリーブ灰	完形	露胎、砂目	N90
382	SI 6	漆器皿			52	黒漆 黒漆				N9

第３表　土製品観察表

番号	グリッド 遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	色調	備　考	実測 番号
376	SK 25	土鈴		18.0	15.0	橙、浅黄橙 にぶい褐	焼成並、中空　手捏ね	M128
377	SI 6	土錘	42.0	28.0	7.0	にぶい黄橙 橙		N13
378	P44	土錘	45.0	27.0	25.0	にぶい褐 灰黄褐		N85
379	包含層	土錘	44.0	21.0	21.0	灰白		N74
380	SI 6	壁土	94.0	78.0	39.0		工具痕	N26
381	SD 3	土人形	44.0	44.0	28.0	にぶい黄橙 にぶい黄橙	男性座像、刀穴有り 底部穿孔有り	N28

第4表　石製品観察表

番号	グリッド 遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考	実測 番号
383	SK 37	火打石	32.0	26.0	17.0	13	石英		N44
384	P96	碁石（白）	30.0	21.0	16.0	13.5	頁岩		N96
385	P60	砥石	74.0	35.0	19.0	66.5	凝灰岩	中砥石	N83
386	SD 2	砥石	51.0	34.0	13.0	30	緑色凝灰岩	中砥石	M86
387	P45	砥石	36.0	38.0	24.0	37.6	凝灰岩	中砥石	N39
388	壁面	砥石	102.0	44.0	27.0	127.5	凝灰岩	中砥石	N126
389	SI 10	砥石	40.0	29.5	12.0	15	粘板岩	仕上砥	N32
390	SI 6	砥石	15.0	27.0	5.0	2.6	粘板岩	仕上砥	N4
391	SI 5	砥石	58.0	29.0	6.0	20.6	粘板岩	仕上砥	N55
392	壁面	砥石	44.0	36.0	11.0	26.3	粘板岩	仕上砥	N128
393	SI 7	砥石	130.0	99.0	76.0	330	凝灰岩	煤付着、剥離	N67
394	SK 37	行火	53.0	71.0	34.0	63.8	凝灰岩		N75
395	SD 19	行火	116.0	101.0	77.0	339	凝灰岩		N122
396	SD 19	行火	108.0	133.0	41.0	209	凝灰岩	剥離	N123
397	SI 6	炉縁石	212.0	140.0	102.0	2,020	凝灰岩	煤付着、剥離	N5
398	SX 4	炉縁石	185.0	127.0	110.0	1,830	凝灰岩	煤付着、剥離	N89
399	包含層	相輪	342.0	164.0	158.0	6,900	緑色凝灰岩	宝篋印塔	M2
400	SI 12	砥石	279.0	148.0	56.0	3,650	砂岩	荒砥	N117
401	SK 38	砥石	122.0	121.0	91.0	1,960	粗流凝灰岩	荒砥	N95
402	P65	砥石	178.0	107.0	79.0	2,000	凝灰岩		N86
403	SK 37	磨石類	100.0	75.0	54.0	540	火山礫凝灰岩	煤付着	N71
404	SI 6	自然石	143.0	120.0	34.0	915	火山礫凝灰岩	煤付着	N25
405	SI 6	自然石	138.0	138.0	50.0	1,120	火山礫凝灰岩	煤付着	N24
406	SI 12	自然石	147.0	141.0	73.0	2,130	火山礫凝灰岩	煤付着	N111
407	SI 12	自然石	118.0	140.0	72.0	1,320	凝灰岩	煤付着	N108
408	SI 12	自然石	171.0	122.0	61.0	1,580	火山礫凝灰岩	煤付着	N121
409	SI 12	自然石	147.0	127.0	52.0	1,335	凝灰岩	煤付着	N110
410	SI 12	自然石	235.0	148.0	92.0	4,700	火山礫凝灰岩	煤付着	N112
411	SI 12	自然石	125.0	113.0	42.0	760	粗流凝灰岩	煤付着	N107
412	SI 12	自然石	130.0	107.0	29.0	510	凝灰岩	煤付着	N120

番号	グリッド	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	実測
	遺構		(mm)	(mm)	(mm)	(g)			番号
413	SI 12	自然石	169.0	124.0	95.0	1,990	安山岩	煤付着 剥離	N109
414	SI 12	自然石	236.0	108.0	105.0	3,330	火山礫凝灰岩	煤付着	N116
415	SI 12	自然石	166.0	104.0	102.0	1,829	凝灰岩	煤付着	N119
416	SI 12	自然石	162.0	138.0	70.0	1,900	火山礫凝灰岩	煤付着	N115
417	SI 12	自然石	195.0	143.0	83.0	3,200	緑色凝灰岩	煤付着	N106
418	SI 12	自然石	221.0	118.0	68.0	278	火山礫凝灰岩	煤付着	N118
419	SK 37	自然石	61.5	138.0	73.0	790	砂岩	煤付着	N76
420	SK 37	自然石	228.0	142.0	96.0	3,500	火山礫凝灰岩	煤付着	N72
421	SK 37	自然石	175.0	154.0	82.0	2,600	火山礫凝灰岩	煤付着	N73
422	SK 38	自然石	214.0	122.0	55.0	1,330	緑色凝灰岩	煤付着	N94
423	SK 37	自然石	133.0	97.0	47.0	905	凝灰岩	煤付着	N74
424	SI 1	磨製石斧	111.0	50.0	23.0	150	蛇紋岩		T42
425	SI 2	打製石斧	155.0	70.0	19.0	190	緑色凝灰岩		N66
426	SI 3	打製石斧	132.0	81.0	29.0	330	火山礫凝灰岩	定形	T17
427	P68	打製石斧	175.0	95.0	35.0	690	火山礫凝灰岩		N82
428	SD 1	打製石斧	140.0	75.0	22.0	272	火山礫凝灰岩		M119
429	SD 29	打製石斧	126.0	81.0	19.0	201	火山礫凝灰岩		N107
430	旧河道2	打製石斧	144.0	174.0	28.0	346	凝灰岩		M182
431	包含層	打製石斧	154.0	104.0	25.0	495	粗流凝灰岩		M155

第５表　鉄製品・銅製品観察表

番号	グリッド遺構	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	質量 (g)	備　考	実測番号
432	SD 14	鉄滓	58.0	43.0	27.0	53.0		N79
433	SD 14	鉄滓	61.0	56.0	33.0	102.1		N78
434	P27	鉄製品	60.0	45.0	18.0	30.8		M35
435	P63	鉄滓	37.0	52.0	22.5	43.6		N88
436	SI 5	釘	48.0	14.0	11.0	7.6		N61
437	SI 5	釘	48.0	11.0	11.0	3.5		N62
438	SI 6	釘	34.0	12.0	13.0	2.6		N10
439	SK 36	釘	23.0	10.0	9.0	1.4		N48
440	SK 38	釘	35.0	13.0	10.0	3.2		N81
441	SK 46	棒状製品	36.0	11.0	10.5	3.9		N113
442	SD 18	釘	34.0	15.5	9.0	2.4		N103
443	P56	釘	44.0	14.0	14.0	8.3		N90
444	P56	釘	28.0	11.0	8.00	1.2		N91
445	包含層	釘	44.0	15.0	14.0	8.3		N129
446	包含層	刀子	48.0	15.0	11.0	6.4		N20
447	SK 46	刀子	99.0	24.5	16.0	27.6		N112
448	P66	刀子	74.0	24.0	14.0	22.7		T 30
449	SK 25	皿	109.0	90.0	3.0	148.8		M138
450	SI 6	鍔杖	109.0	61.0	14.0	30.4		N133
451	SD 4	銅銭	径 25.0			2.0	祥符通宝　北宋銭	N161
452	旧河道2	銅銭	径 25.0			2.1	洪武通宝　明銭	N162
453	P12	銅銭	径 23.0			1.2	寛永通宝　古寛永	N160
454	SD 2	銅銭				13.8	不明 被熱受け5枚接着	N163

A区　西側全景（西から）

E区　全景（西から）

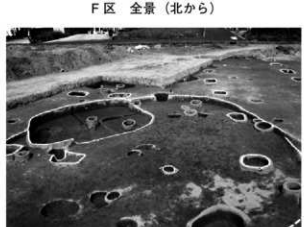
C区　全景（西から）

E区　東側全景（南西から）

D区　北側全景（北西から）

F区　全景（北から）

D区　南側全景（南から）

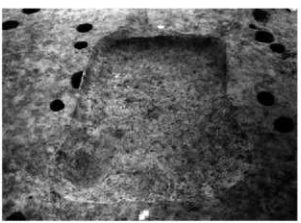


B区　SI 1（南西から）

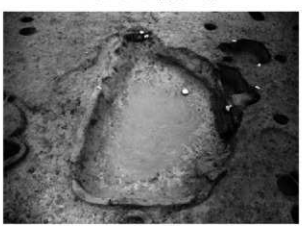
D区　SI 2（南西から）

E区　SI 6 鍬杖出土状況

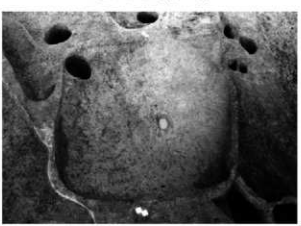
B区　SI 3（南西から）



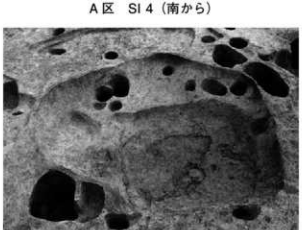
E区　SI 8（北から）



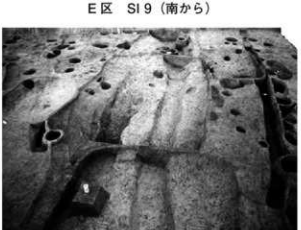
A区　SI 4（南から）



E区　SI 9（南から）



E区　SI 6（北西から）



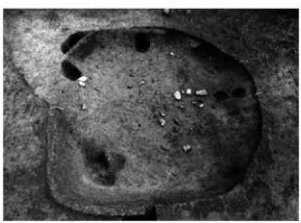
E区　SI 9～12、SD22・23（南から）

E区　SI 12 石礫堆積状況

A区　SB1（北西から）

D区　SI 13（北から）

A区　SB2（東から）



D区　SI 14（西から）

A区　SB3（南から）

D区　SI 15（北から）

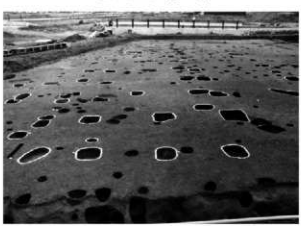
A区　SB4・5（北から）

A区　SB5・6（南から）

B区　SB16（北から）

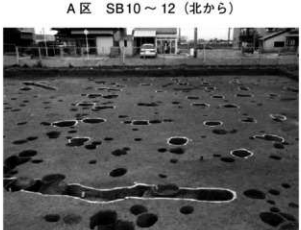
A区　SB8（北から）

C区　SB30（北から）

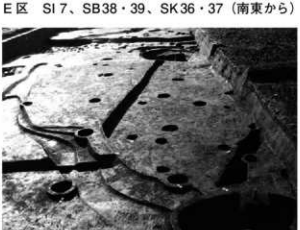


A区　SB10～12（北から）

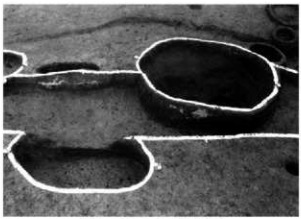
E区　SI 7、SB38・39、SK36・37（南東から）



A区　SB11・12（南から）



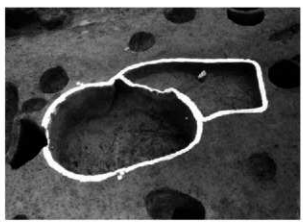
D区　SB44・45（北から）



A区　SK3・9（南から）

A区　SK15～17（西から）

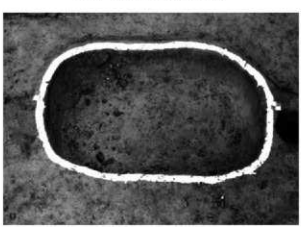
A区　SK3 珠洲焼すり鉢出土状況



A区　SK18・19（西から）

A区　SK4～8（南から）

A区　SK20・21（北から）



A区　SK12（南から）

A区　SK24（南から）

A区　SK26（東から）

E区　SK35（北東から）

A区　SK27（西から）

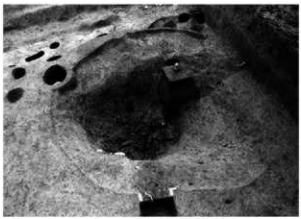
E区　SK38（南から）

C区　SK29（南から）

D区　SK39（北から）

C区　SK31（東から）

D区　SK40（西から）



D区　SK41（北東から）

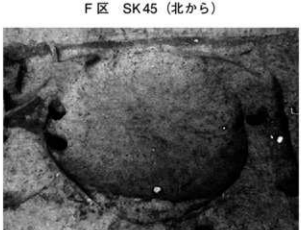
A区　SD1（西から）

D区　SK44（西から）

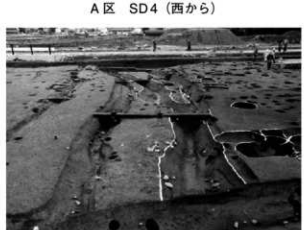
A区　SD2（東から）

F区　SK45（北から）

A区　SD4（西から）



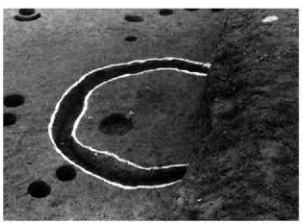
F区　SK46（南から）



A区　SD5～8（北から）

D区　SD9（南から）

D区　SD28・29（東から）

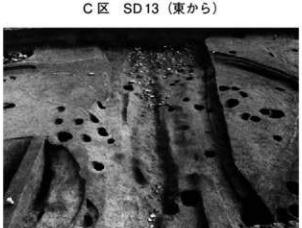


A区　SD11（南から）

B区　SX1（東から）

C区　SD13（東から）

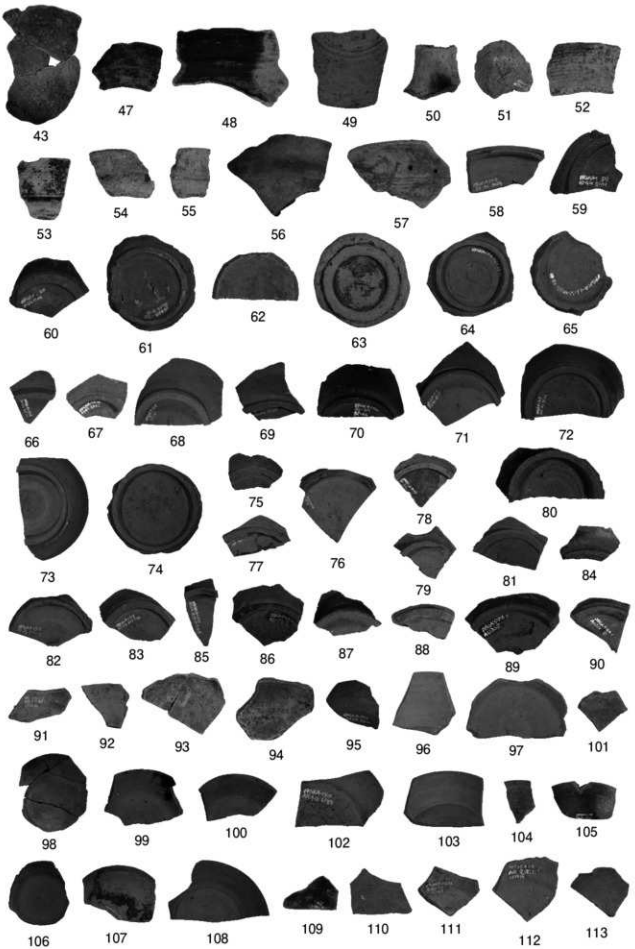
E区　P65 瀬戸焼瓶子出土状況

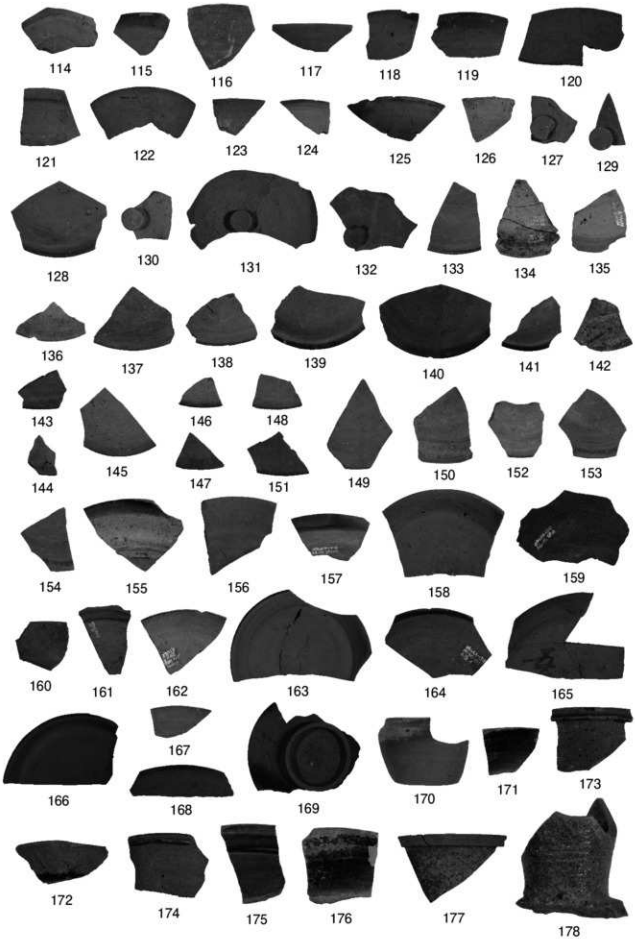


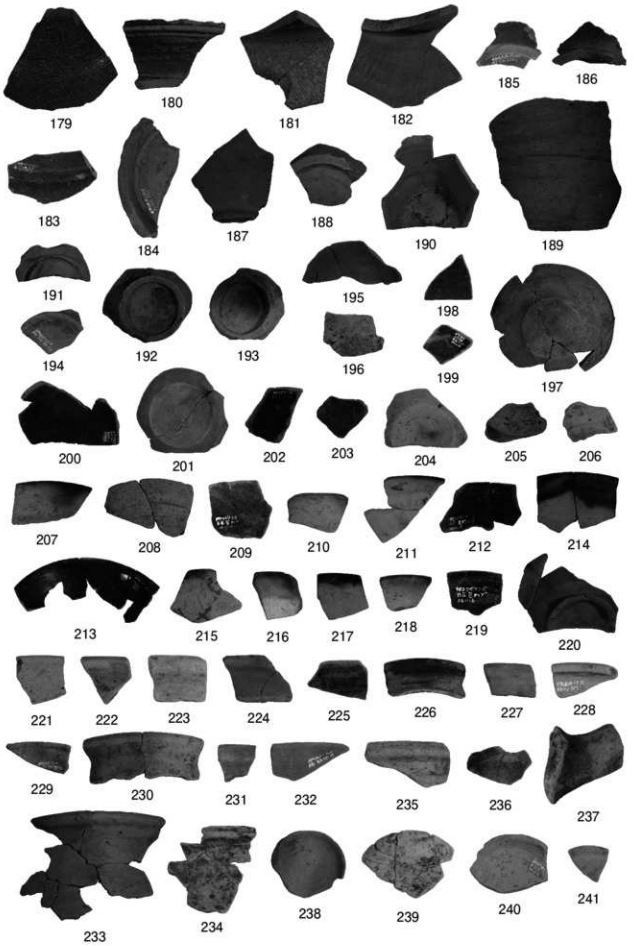
D区　SD27（北西から）

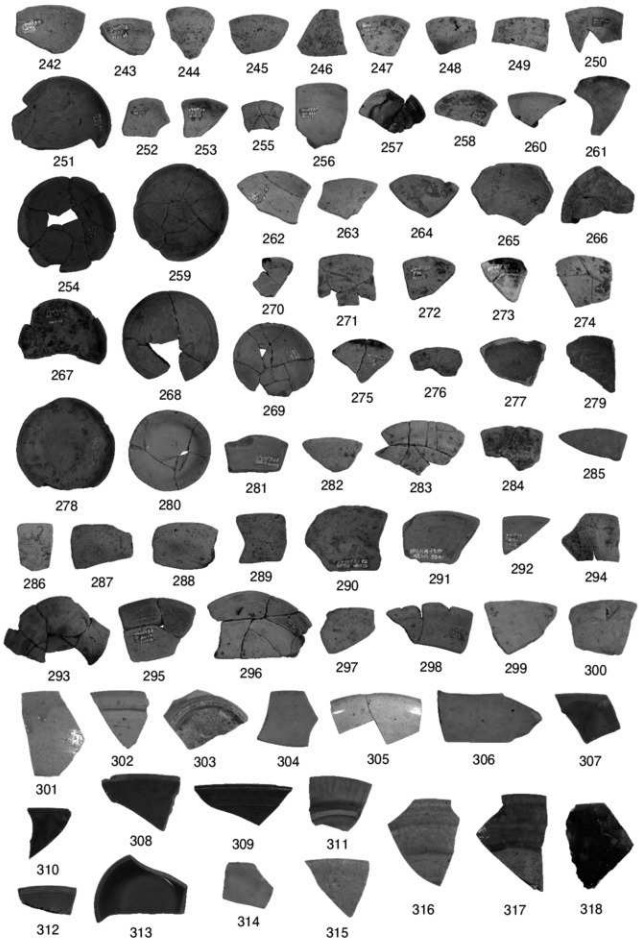
A区　相輪出土状況

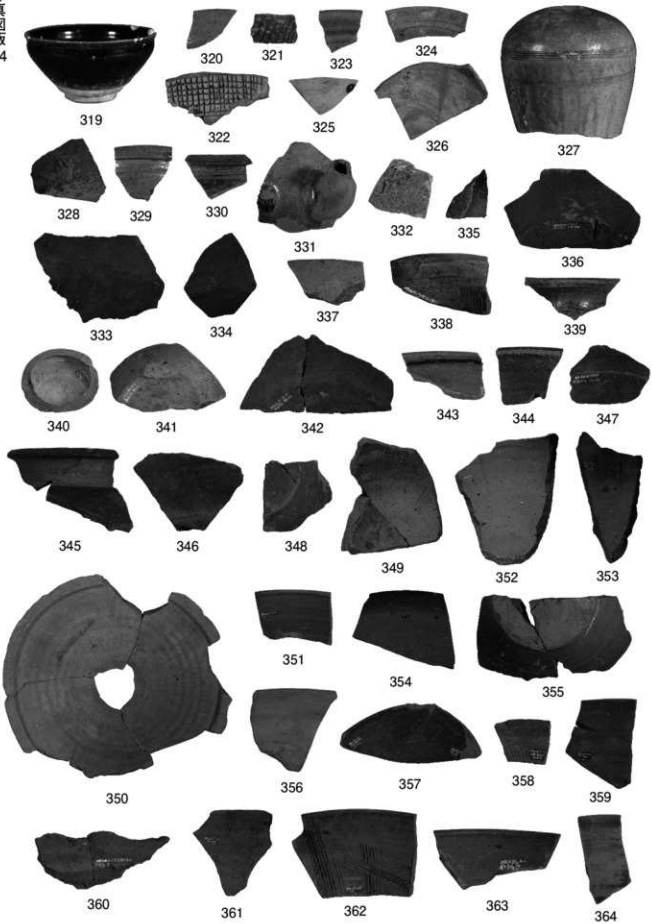
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
44
45
46

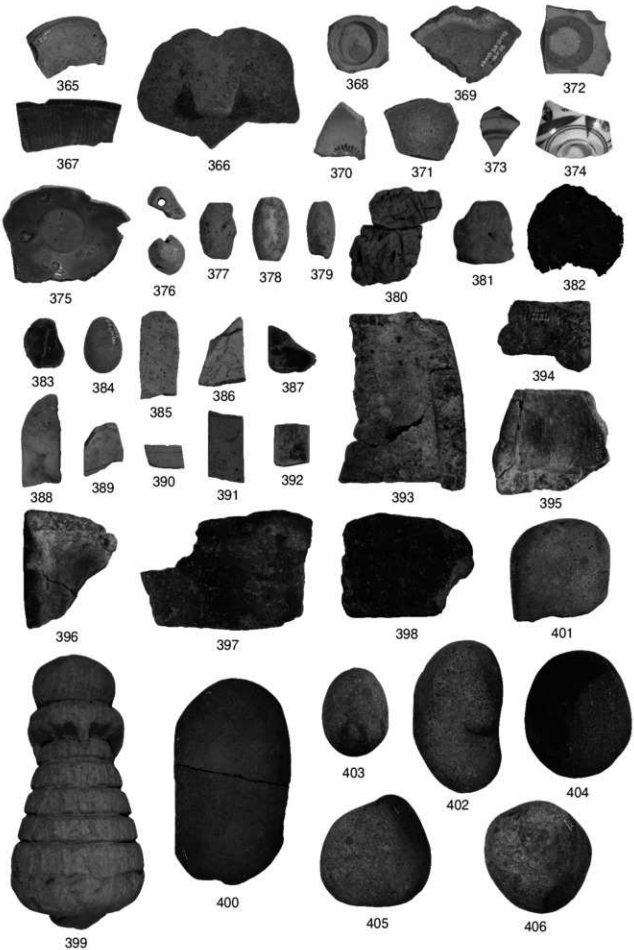

43
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
77
76
78
79
80
81
84
82
83
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
101
98
99
100
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113

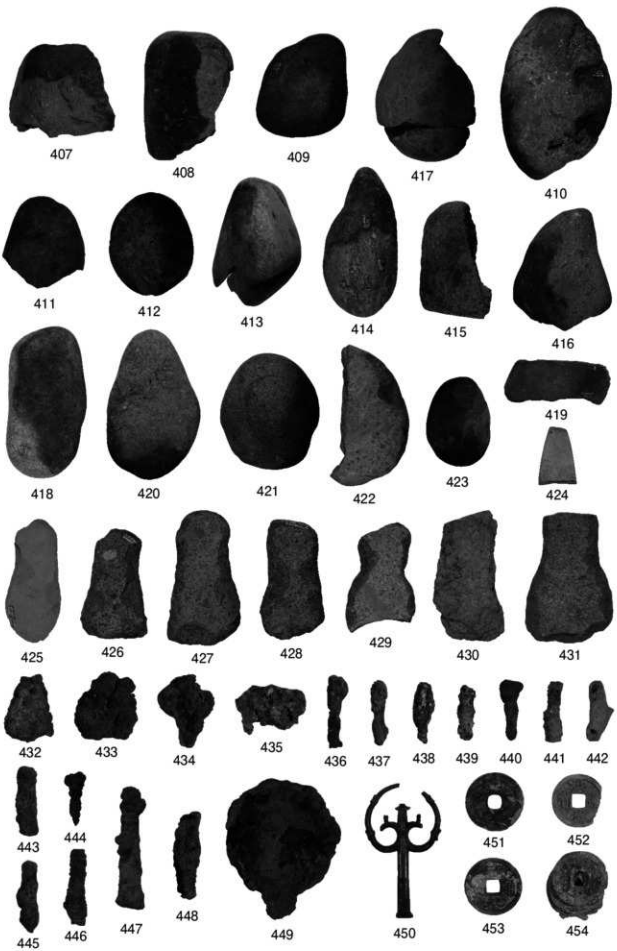

114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
129
128
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
146
148
144
145
147
151
149
150
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
167
166
168
169
170
171
173
172
174
175
176
177
178


179
180
181
182
185
186
183
184
187
188
190
189
191
195
198
194
192
193
196
199
197
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
214
213
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
235
236
237
233
234
238
239
240
241


242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
255
256
257
258
260
261
254
259
262
263
264
265
266
270
271
272
273
274
267
268
269
275
276
277
279
278
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
294
293
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
310
308
309
311
316
317
318
312
313
314
315


319
320
321
323
324
322
325
326
327
328
329
330
331
332
335
336
333
334
337
338
339
340
341
342
343
344
347
345
346
348
349
352
353
350
351
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364


365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406


407
408
409
417
410
411
412
413
414
415
416
418
420
421
422
423
419
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454

報告書抄録

ふりがな	ごうくぼたいせき
書名	郷クボタ遺跡２
副書名	
シリーズ名	北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	9
編著者名	田村昌宏
編集機関	野々市市教育委員会
所在地	〒921-8510　石川県野々市市三納一丁目１番地　TEL076-227-6122
発行年月日	西暦　2014年３月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
郷（ごう）クボタ遺跡 ２次調査	石川県（いしかわけん） 野々市（ののいち）市 郷（ごう）町	17344	1201803	36° 32′ 9″	136° 35′ 20″	20061002 ～ 20070112	2,249	記録保存 調査
郷（ごう）クボタ遺跡 ３次調査	石川県（いしかわけん） 野々市（ののいち）市 郷（ごう）町	17344	1201803	36° 32′ 11″	136° 35′ 20″	20070821 ～ 20070926	662	記録保存 調査
郷（ごう）クボタ遺跡 ５次調査	石川県（いしかわけん） 野々市（ののいち）市 郷（ごう）町	17344	1201803	36° 32′ 10″	136° 35′ 18″	20080916 ～ 20090205	2,132	記録保存 調査
郷（ごう）クボタ遺跡 ８次調査	石川県（いしかわけん） 野々市（ののいち）市 郷（ごう）町	17344	1201803	36° 32′ 8″	136° 35′ 19″	20111115 ～ 20111221	452	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郷（ごう）クボタ遺跡 ２次調査	集落	弥生 古代 中世	竪穴建物、竪穴状遺構、 掘立柱建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、 中世陶磁器	
郷（ごう）クボタ遺跡 ３次調査	集落	弥生 古代	竪穴建物、掘立柱建物、溝	弥生土器、土師器、須恵器	
郷（ごう）クボタ遺跡 ５次調査	集落 墓	弥生 古代 中世	竪穴状遺構、掘立柱建物、 土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、 中世陶磁器、打製石斧、 宝塔相輪	
郷（ごう）クボタ遺跡 ８次調査	集落	中世	竪穴建物、掘立柱建物、 土坑、溝	中世陶磁器、錫杖	

要約

弥生時代後期後半、古代、中世の集落跡を確認した。弥生時代では、竪穴建物３棟、布堀建物２棟を確認し、弥生土器や打製石斧をはじめとする石製品が出土した。遺構・遺物は調査区の東側に集中し、本調査区東方における発掘調査でも竪穴建物跡を複数確認していることから、本調査区は当該時期における集落の西端にあたると考えられる。

古代では、15棟の掘立柱建物を確認した。建物は４間×２間、５間×２間の南北棟が主体で、複数回の建て替えがあった。また、建物の配置は計画的に建っており、倉庫群であった可能性をもつ。遺物は須恵器、土師器が主で、須恵器の一部には墨書が認められる。

中世においては、散村形態をもつ集落跡を確認した。主要な遺構は竪穴状遺構12棟、掘立柱建物28棟である。掘立柱建物２棟と竪穴状遺構１基で構成された居宅地が散在した景観が復元できる。竪穴状遺構から、銅製の錫杖が見つかった。発掘調査で見つかった錫杖は、県内４例目、市内２例目である。集落廃絶後、調査地一角に土坑墓群を形成した墓地跡を確認した。

2014年3月28日　発行

北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書9

郷クボタ遺跡2

著作権所有　石川県野々市市三納一丁目1番地
発　行　者　野々市市教育委員会

印　刷　者　石川県野々市市矢作三丁目18
高桑美術印刷株式会社